仙台市文化財調査報告書第364集

大 野 田 古 墳 群

－第18次発掘調査報告書－

２０１０年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第364集

大野田古墳群

－第18次発掘調査報告書－

２０１０年３月

仙台市教育委員会

序　　文

日頃より、仙台市の文化財保護行政に対しまして多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、仙台市南部の地下鉄南北線富沢駅周辺では、都市圏南部の広域拠点である長町副都心に近接する地の利を生かし、良好な住環境を形成するための土地区画整理事業が推進されております。

本書に収めた大野田古墳群は、この富沢駅の東側に広がる遺跡です。これまでの調査で、前方後円墳1基と円墳43基が発見されており、5世紀後半から6世紀にかけて造られた古墳群であったことが明らかになっています。古墳群の中心部に位置する春日社古墳からは当時のヤマト政権との深いつながりを示す「革盾」が出土しましたが、昨年12月には無事に保存処理作業が終了し、市民の皆様に公開できたことは記憶に新しいところです。

今回の発掘調査は、大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター、並びに児童館複合施設新築工事に伴うものです。

発掘調査に当たっては、関係機関と十分な事前協議を行った上で、記録保存を目的として実施いたしました。本書が広く皆様に活用されることで地域に対する理解がさらに深まり、それが郷土愛につながっていけば、市民の皆様と共に文化財や歴史遺産を活用していく活動に結びついていくことと信じております。

最後になりましたが、発掘調査並びに本報告書刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

平成22年3月

仙台市教育委員会
教育長　荒井　崇

例　　言

1．本書は、大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。

2．発掘調査は、仙台市教育委員会の監理のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。

3．本書の作成及び編集は、平間亮輔（仙台市教育委員会文化財課）、吉田浩明（株式会社玉川文化財研究所）が行った。

4．本書の執筆は、平間亮輔の責任のもとに下記の通り行った。

第Ⅰ章第 1 節…… 平間亮輔

第Ⅰ章第 2 節、第Ⅱ～Ⅵ章…… 吉田浩明

5．調査と報告書作成にあたり、富沢駅周辺開発事務所ならびに大野田はぎの苑、大野田コミュニティセンターのご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。

6．調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．土層注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原　1977）に基づいて認定した。

2．本書に使用した地形図は、国土地理院発行の 1:25,000『仙台西南部・仙台東南部』の一部を使用している。また、周辺の遺跡では仙台市発行の都市計画基本図 1:5,000 を使用した。

3．調査の際の平面座標基準は、日本測地系の直角平面座標第Ｘ系を基にしている。世界測地系との対応は以下の通りである。

＜Ａ－１ グリッド交点＞

日本測地系	Ｘ＝－198,420	Ｙ＝3,840	北緯38°　12′　44.40582″	東経140°　52′　37.88147″
世界測地系	Ｘ＝－198,111	Ｙ＝3,539.9731	北緯38°　12′　55.12030″	東経140°　52′　25.53436″

なお、報告書抄録の緯度経度は世界測地系を用いている。

4．本図に使用した挿図縮尺は以下の通りである。

遺構平面図 1/200・1/150・1/60・1/30、断面図 1/80・1/60・1/30

遺物挿図 1/3・1/2.5・2/3、遺物写真図版１/3・2/3

5．挿図中のレベルは海抜標高を示す。

6．遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下の略号を付している。

Ａ：縄文土器　　Ｂ：弥生土器　　Ｃ：非ロクロ土師器　　Ｋ：石器・石製品

7．本文中での遺物の表記には、挿図番号の他に登録番号を用いた。なお、Ｓは自然礫を表す。

8．本書で使用した遺構略号は以下の通りで、番号は種別ごとに付した。

ＳＩ：竪穴住居跡　ＳＫ：土坑　ＳＤ：溝跡・溝状遺構　ＳＸ：性格不明遺構　Ｐ：ピット

また、本文中で小溝状遺構群を小溝群と省略した箇所がある。

9．層位名は基本層位をローマ数字「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ…」、遺構内堆積土層位を算用数字「1・2・3…」で表した。

10．遺構および遺物観察表では〈 〉は現存値、( ) は推定値を示した。

目　　次

第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査要項 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1
第Ⅲ章　調査の方法と経過…… 5
第Ⅳ章　基本層序…… 5
第Ⅴ章　検出遺構と出土遺物……9
　第１節　Ⅲ層上面検出遺構……9
　　1．溝　跡……9
　　2．土　坑…… 11
　第２節　Ⅳ層上面検出遺構……11
　　1．小溝状遺構群…… 11
　　2．ピット……17
　第３節　Ｖａ層上面検出遺構……24
　　1．小溝状遺構群……24
　　2．溝　跡……26
　　3．土　坑……30
　　4．性格不明遺構……30
　　5．竪穴住居跡……33
　第４節　Ｖｂ層上面検出遺構…… 37
　　1．土　坑……37
　　2．性格不明遺構 ……37
　第５節　その他の出土遺物……39
第Ⅵ章　ま と め……43

写真図版……49
報告書抄録 ……巻末

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置図 …… 2
第２図　調査区の位置と周辺の遺跡…… 3
第３図　グリッド配置と調査範囲図…… 4
第４図　調査区土層断面図（１）…… 7
第５図　調査区土層断面図（２）…… 8
第６図　ＳＤ１溝跡断面図 …… 9
第７図　Ⅲ層上面遺構平面図（ＳＤ1、ＳＫ１・５）……10
第８図　ＳＫ１・５土坑平面・断面図…… 11

第９図　Ⅳ層上面全体図……12
第10図　Ⅳ層上面遺構平面図（小溝群 １、ピット）……13
第11図　Ⅳ層上面遺構平面図（小溝群 ２、ピット）……14
第12図　Ⅳ層上面遺構平面図（小溝群 ３、ピット）…… 15・16
第13図　Ⅳ層上面小溝状遺構群 2 断面図 ……17
第14図　Ⅳ層上面小溝状遺構群 3 断面図 ……18
第15図　Ｖａ層上面全体図……25
第16図　Ｖａ層上面遺構平面図（小溝群 ４、ＳＤ ２、ＳＫ ２・３、ＳＸ １）……27
第17図　Ｖａ層上面遺構平面図（小溝群 ５、ＳＫ ４、ＳＩ １）……28
第18図　Ｖａ層上面遺構平面図（小溝群 ６）……29
第19図　Ｖａ層上面遺構平面図（ＳＤ ３・４）……30
第20図　ＳＫ ２ ～ ４ 土坑、ＳＸ １ 性格不明遺構平面・断面図 ……31
第21図　ＳＩ １ 竪穴住居跡平面・断面図……34
第22図　ＳＩ １ 竪穴住居跡柱穴・Ｐ ７ （床下土坑）・土器集中部断面図 ……35
第23図　ＳＩ １ 竪穴住居跡Ｐ ６ （貯蔵穴）平面・断面図……36
第24図　ＳＩ １ 竪穴住居跡出土遺物 ……36
第25図　ＳＫ ６ 土坑出土遺物 ……37
第26図　Ｖｂ層上面全体図 ……38
第27図　ＳＫ ６・７ 土坑、ＳＸ ２ 性格不明遺構平面・断面図 ……39
第28図　出土遺物（１）土器 ……40
第29図　出土遺物（２）石器 ……41
第30図　出土遺物（３）石器 ……42
第31図　主要遺構の新旧関係図 ……43
第32図　近隣の成果との対応関係 ……44

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧…… 2
第２表　Ⅳ層上面小溝状遺構群観察表（1）…… 19
第３表　Ⅳ層上面小溝状遺構群観察表（2）…… 20
第４表　Ⅳ層上面ピット観察表（1）…… 21
第５表　Ⅳ層上面ピット観察表（2）…… 22
第６表　Ⅳ層上面ピット観察表（3）…… 23
第７表　Ⅳ層上面ピット観察表（4）…… 24
第８表　Ｖａ層上面小溝状遺構群観察表…… 32

写真図版目次

写真図版 1　調査区全景（1）…… 49
写真図版 2　調査区全景（2）…… 50
写真図版 3　調査区全景（3）…… 51
写真図版 4　調査区全景（4）…… 52
写真図版 5　遺構検出状況…… 53
写真図版 6　竪穴住居跡（1）…… 54
写真図版 7　竪穴住居跡（2）…… 55
写真図版 8　竪穴住居跡（3）…… 56
写真図版 9　土坑（1）…… 57
写真図版 10　土坑（2）…… 58
写真図版 11　Ⅲ層範囲検出状況、溝跡（1）…… 59
写真図版 12　溝跡（2）、小溝状遺構群、性格不明遺構（1）…… 60
写真図版 13　性格不明遺構（2）、土層断面…… 61
写真図版 14　出土遺物…… 62

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

今次調査は富沢駅周辺土地区画整理事業地内、仙台市大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴って行われたものである。建築予定地は大野田古墳群の中央部に位置し、建物の構造から遺構に影響を及ぼすことが予想された。このため、仙台市教育委員会は仙台市健康福祉局高齢企画課、太白区まちづくり推進課、子供未来局子供施設課と協議し、建築に先立ち記録保存を図るための発掘調査を実施することになった。調査は平成 21 年 7 月～ 10 月にかけて実施することとした。

第２節　調 査 要 項

１　調 査 名 称　　大野田古墳群（宮城県遺跡地名登録番号 01361・仙台市文化財登録番号Ｃ－ 054）
２　所　在　地　　宮城県仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業 27 街区 13，14，15（太白区大野田字竹松･宮脇）
３　調 査 原 因　　仙台市大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
４　調 査 主 体　　仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
５　調 査 担 当　　調査係主査　荒井　格
　　調査係主査　平間亮輔
　　調 査 主 任　吉田浩明（株式会社玉川文化財研究所）
　　調　査　員　前川昭彦（株式会社玉川文化財研究所）
６　調 査 期 間　　平成 21 年 7 月 1 日～平成 21 年 11 月 18 日
７　調査対象面積　　1,204 ㎡
８　調 査 面 積　　1,330 ㎡

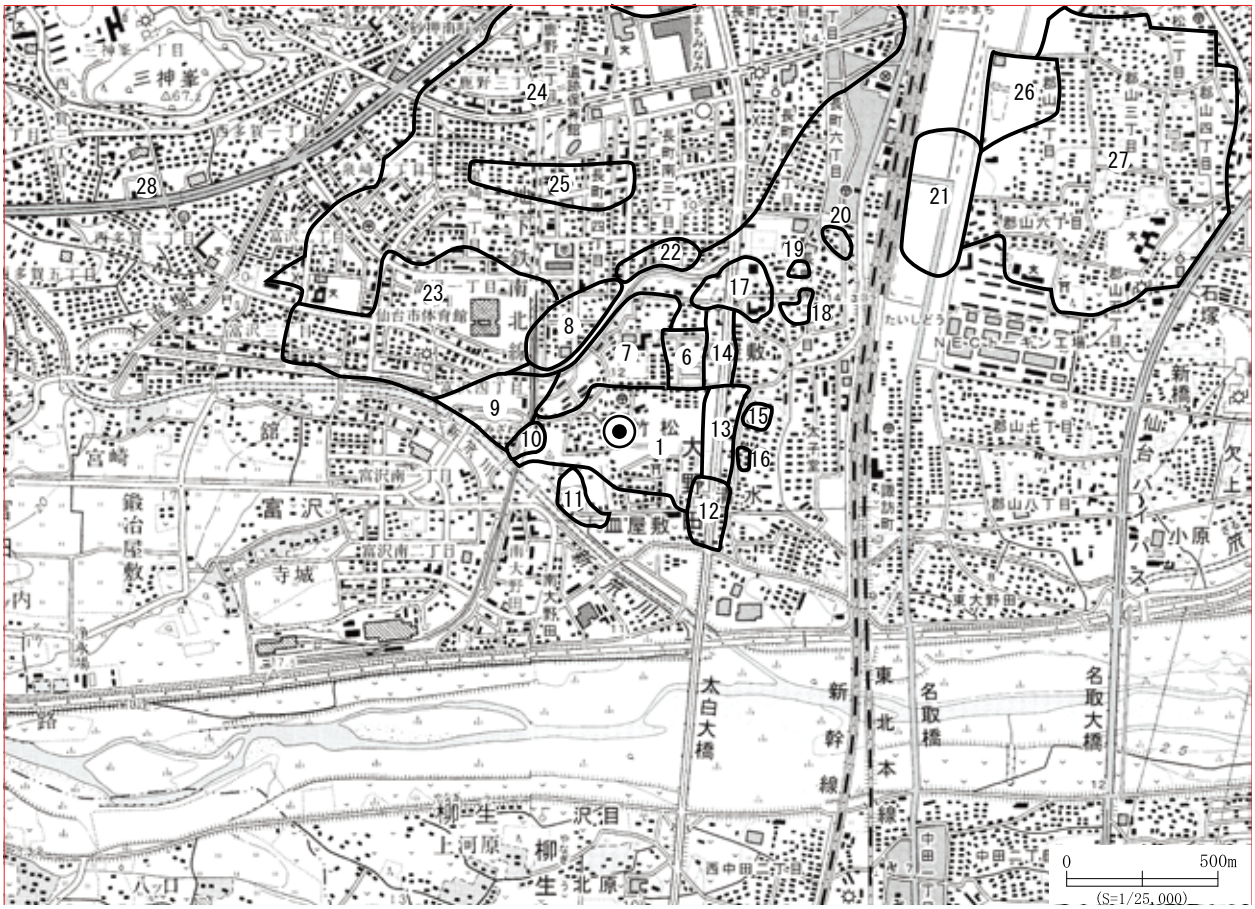
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史的環境

大野田古墳群は仙台市南部の太白区大野田字宮脇・竹松・千刈田・塚田・王ノ壇に所在し、今次調査地点は地下鉄南北線富沢駅の北東約 400 mに位置している。地形的には名取川と広瀬川に挟まれた郡山低地南部の自然堤防上の緩やかな東向きの斜面上に立地し、標高 11 ～ 12 m前後を測る。

周辺の遺跡をみると、旧石器時代では富沢遺跡で後期旧石器時代の森林跡や焚火跡あるいは石器の製作跡が検出されている。

縄文時代では下ノ内浦遺跡で早期前半の竪穴住居跡や落とし穴が検出されているが、遺跡数が増加するのは中期から後期にかけてである。集落跡では下ノ内遺跡で中期末、六反田遺跡で中期中葉及び後期初頭の集落跡が検出されている。この他、大野田遺跡で後期前半の環状集石群・配石遺構等、下ノ内浦遺跡でも後期前半の墓域が発見されている。また、大野田古墳群では土坑や包含層から後期中葉の土器が、伊古田遺跡では縄文時代後期中葉の多量の土偶を伴う遺物包含層、王ノ壇遺跡では後期中頃と後期後半の遺物包含層や竪穴遺構等、山口遺跡では縄文時代早期から後期の遺物包含層とともに、晩期の河川跡も発見されている。

弥生時代では下ノ内浦遺跡で後期の土壙墓・土器棺墓・竪穴遺構や水田跡が検出されている。下ノ内遺跡では弥



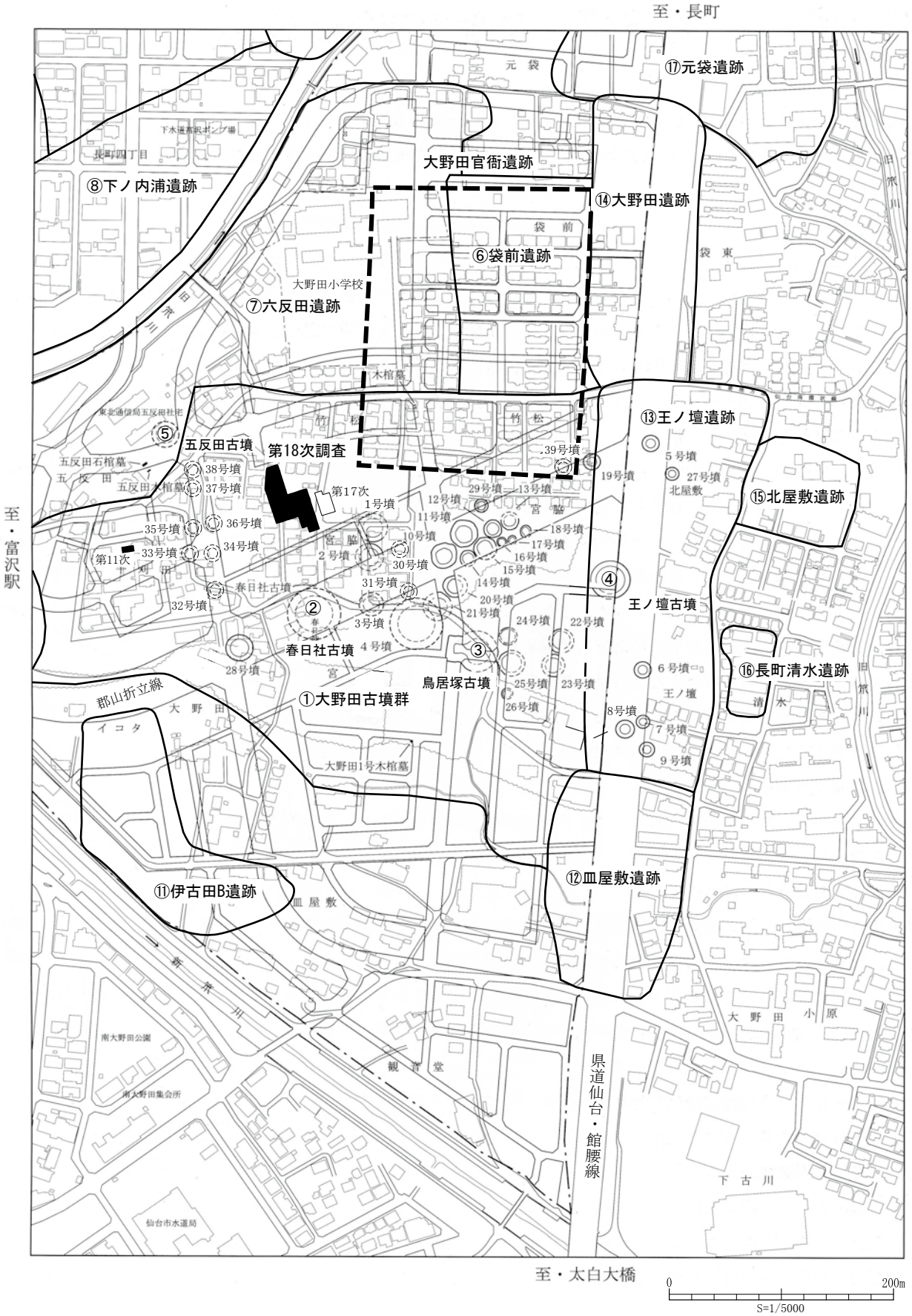
第１図　遺跡の位置図

第１表　周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	大野田古墳群	古墳、集落跡、官衙	自然堤防	古墳	15	北屋敷遺跡	散布地	自然堤防	奈良～平安
2	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳	16	長町清水遺跡	散布地	自然堤防	古墳
3	鳥居塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳	17	元袋遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	弥生、奈良～近世
4	王ノ壇古墳	円墳	自然堤防	古墳	18	新田遺跡	散布地	自然堤防	奈良～平安
5	五反田古墳	円墳	自然堤防	古墳	19	長町南遺跡	散布地	自然堤防	奈良～平安
6	袋前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文、奈良、平安	20	長町六丁目遺跡	散布地	自然堤防	奈良～平安
7	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文中～晩期、奈良～近世	21	長町駅東遺跡	集落跡	鉄道敷地	弥生、古墳末、奈良初
8	下ノ内浦遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防	縄文時代早･前･後期、弥生～近世	22	袋東遺跡	散布地	自然堤防	古墳、奈良、平安
9	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文中～晩期、弥生～中世	23	山口遺跡	集落跡、水田跡	自然堤防、後背湿地	縄文早・中～晩、弥生中、古墳～近世
10	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文後期、古墳～平安	24	富沢遺跡	集落跡、水田跡	後背湿地	後期旧石器～近世
11	伊古田B遺跡	散布地	自然堤防	古墳～平安	25	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安
12	皿屋敷遺跡	集落跡、屋敷跡	自然堤防	奈良～中世	26	西台畑遺跡	包含地	自然堤防	弥生・古墳
13	王ノ壇遺跡	集落跡、屋敷跡	自然堤防	縄文後期、弥生～中世	27	郡山遺跡	官衙・寺院	自然堤防・後背湿地	縄文～中世
14	大野田遺跡	祭祀、集落跡	自然堤防	縄文後期、弥生中期、古墳～平安	28	原遺跡	古墳・集落跡	段丘	縄文～平安

生後期の土坑墓と考えられる土坑が、西台畑遺跡でも弥生時代中期の甕棺墓が確認されている。山口遺跡や元袋遺跡及び前述の富沢遺跡では水田跡が検出されている。

古墳時代では大野田古墳群の他、下ノ内遺跡や伊古田遺跡で前期から中期にかけての集落跡が検出されている。古墳時代中期以降になると大野田古墳群で古墳が次々に作られる。代表的なものでは市内最大級の円墳である春日社古墳や前方後円墳の鳥居塚古墳、円墳の王ノ壇古墳があり、確認された古墳は現在 44 基が知られている。近年では春日社古墳で革盾が良好な状態で発見され、地方の有力古墳として再認識できるとともに大和政権とのつながりが注目されている。六反田遺跡では円墳、石棺墓、木棺墓の他、古墳時代前・後期～平安時代の集落跡や生産跡が調査され、伊古田遺跡では古墳時代後期から集落が営まれている。

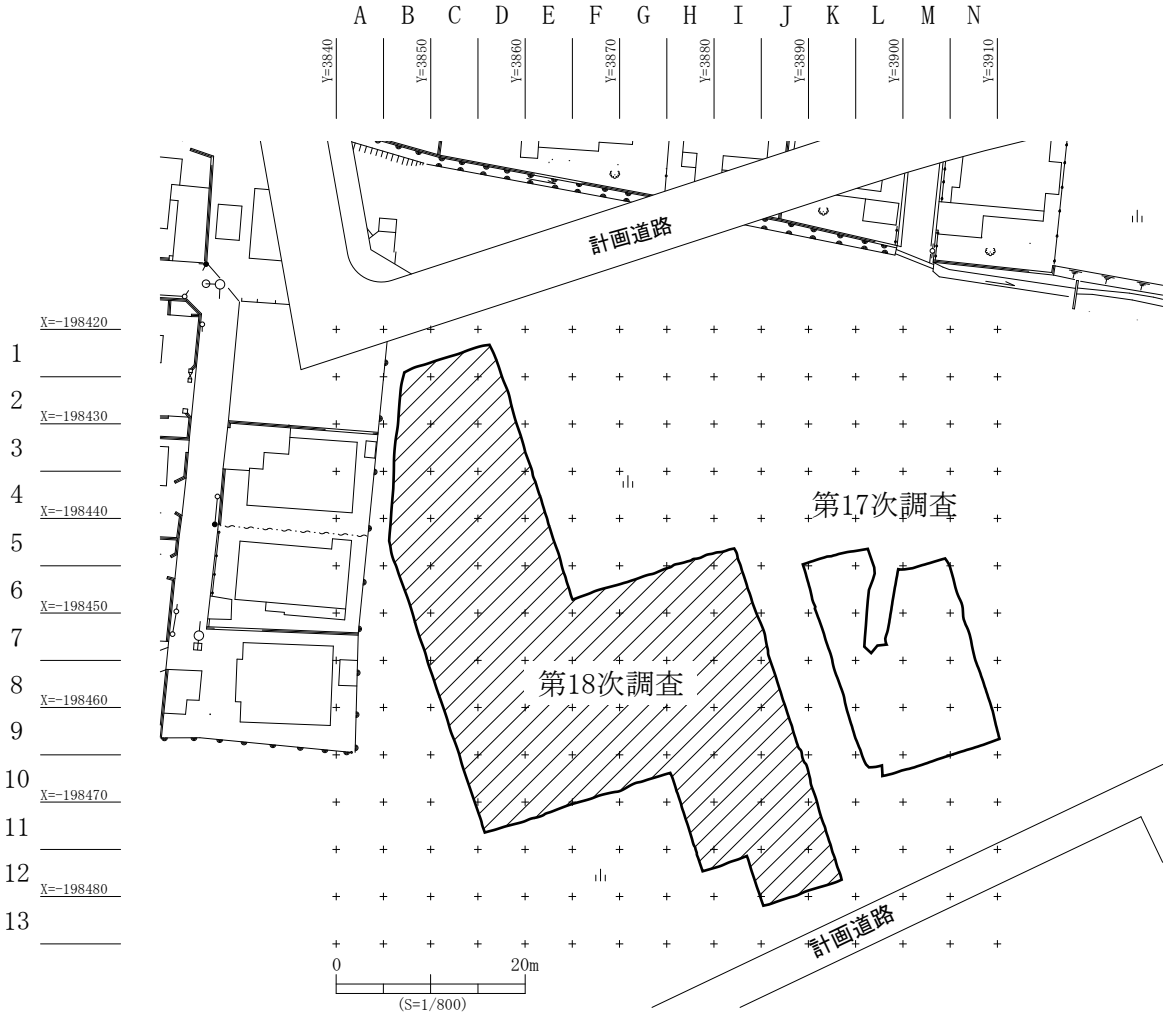


第２図　調査区の位置と周辺の遺跡

古代になると大野田古墳群周辺では下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡、山口遺跡で集落跡が営まれているが、下ノ内遺跡、六反田遺跡、山口遺跡は小溝状遺構群を伴っている。皿屋敷遺跡では奈良から平安時代前半の小溝状遺構群の他、平安時代後半の水田跡や河川跡も確認されている。元袋遺跡でも奈良・平安時代にかけて集落が継続しているが、土坑・掘立柱建物跡・小溝状遺構群等が発見され、土坑からは「太」と墨書された土師器坏がまとまって出土し、溝跡からは帯金具が出土している。

また、土地区画整理事業に伴う成果として大野田官衙遺跡の発見がある。これまでの一連の調査により大野田古墳群、六反田遺跡、袋前遺跡にかけての範囲には大型の掘立柱建物跡や溝が規則的に配置される状況が確かめられていた。2009 年の調査では大型の掘立柱建物跡を囲む溝の西辺と南西コーナーが確認され、東西 188 ～ 198 m、南北 245 ～ 259 mの規模をもつ区画溝であることが明らかになった。このため同年「(仮称) 大野田官衙遺跡」改め「大野田官衙遺跡」として登録された。本地区北東 1.5km には郡山官衙遺跡が存在し、大野田官衙遺跡との密接な関係が重要視されている。郡山官衙遺跡に隣接する長町駅東遺跡あるいは西台畑遺跡もこの時期の集落跡として知られている。

中世に至ると大野田地区では武士の屋敷が造営されるようになる。王ノ壇遺跡では大溝で囲まれた武士の屋敷跡とともに中世の幹線道路である「奥大道」ともみられる道路跡も発見されている。皿屋敷遺跡では掘立柱建物や区画溝が発見され、南側に旧河道が存在することから川に関連する施設があったとされている。元袋遺跡では区画溝や火葬墓等の遺構が発見されている。



第 3 図　グリッド配置と調査範囲図

また、下ノ内遺跡では中世から近世にかけての溝跡、土坑、掘立柱建物跡等が検出され、溝で区画された屋敷跡と考えられている。元袋遺跡では堀で囲まれた近世の屋敷跡が重複して発見されている。

第Ⅲ章　調査の方法と経過

グリッド配置は５ｍを基準とし、東西方向にアルファベット、南北方向に算用数字を付して現地作業としては７月１日から６日にかけて機材搬入、防護壁設置、場内整備等の準備工を行い、７月７日より重機による表土掘削及び残土の場外搬出を開始した。現地は厚さ１ｍ前後の盛土の直下に、旧水田耕作土及び床土にあたる酸化鉄層が全面に認められ、これを水道管、下水道管、ガス管の埋設溝や造成時の攪乱が切り込んでいる状態であった。調査区壁際に土層観察用の幅 10 ㎝のトレンチを適所に設けて土層の遺存状態を確認していった。その後、Ⅲ層上面・Ⅳ層上面・Ｖａ層上面の調査を実施し、10 月 21 日に高所作業車による全景写真撮影を行った。

最後にＶｂ層上面遺構等の調査を行い、11 月 5 日より埋め戻し及び整地作業を開始し、11月18 日には機材の撤収を含めすべての作業を終了した。

第Ⅳ章　基本層序

今次調査地点付近は、昭和 50 年代まで水田として土地利用されており、後の造成工事により厚さ 1 ｍ前後の盛土に覆われている状態であった。盛土下の基本層はⅠ～Ⅷ層までの大別８層から成り、Ｖ層はａ～ｃの 3 層、Ⅶ層はａ～ｃの 3 層に分層される。

層の遺存状態としてはＶａ層以下がおおむね良好に残っており、調査区南東方向にかけてⅢ・Ⅳ層の遺存が確認でき、一部でⅡ層も薄く残っていた。北側では水田耕作土直下でＶａ層が確認され、若干削平を受けている箇所があった。Ｖａ層上面は南側に緩やかに傾斜し、南側では土層のグライ化が顕著であった。また、4 箇所の深掘り区でⅧ層（砂礫層）まで掘り下げたが、砂礫層の標高は北側の深掘り 1 区が 9.3 ｍ、2 区が 9.4 ～ 9.8 ｍ、3 区が 9.7 ～ 10.1 ｍ、4 区が 9.5 ～ 9.6 ｍと小規模な起伏をみせている。

Ⅰ　層：灰色シルト（5YR5/1）。盛り土直下の旧水田耕作土。下部の田床と考えられる部分は酸化鉄の沈着が進み、橙色を帯びて硬化する部分が多い。本層直下層にも酸化鉄や黒色マンガンが沈着する部分が認められる。締まりやや強く、粘性ある

Ⅱ　層：暗褐色シルト（10YR3/3）。調査区南側に遺存しており、弱いグライ化により色調がにぶい黄褐色（10YR4/3）となる部分が認められる。旧水田土であるⅠ層の影響により酸化鉄と黒色マンガンが形成されている。締まりやや強く、粘性やや弱い。

Ⅲ　層：にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト。最も黄色味の強い土層として認められ、調査区の南側を中心に薄く遺存していた。Ⅲ層中にみられる 10 世紀前半降下の十和田ａ火山灰（俗称「灰白色火山灰」）（註 1）は本地区では認められなかった。酸化鉄と黒色マンガンが形成され、締まり・粘性ある。本層は畑の耕作土と考えられる。Ⅲ層からは弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

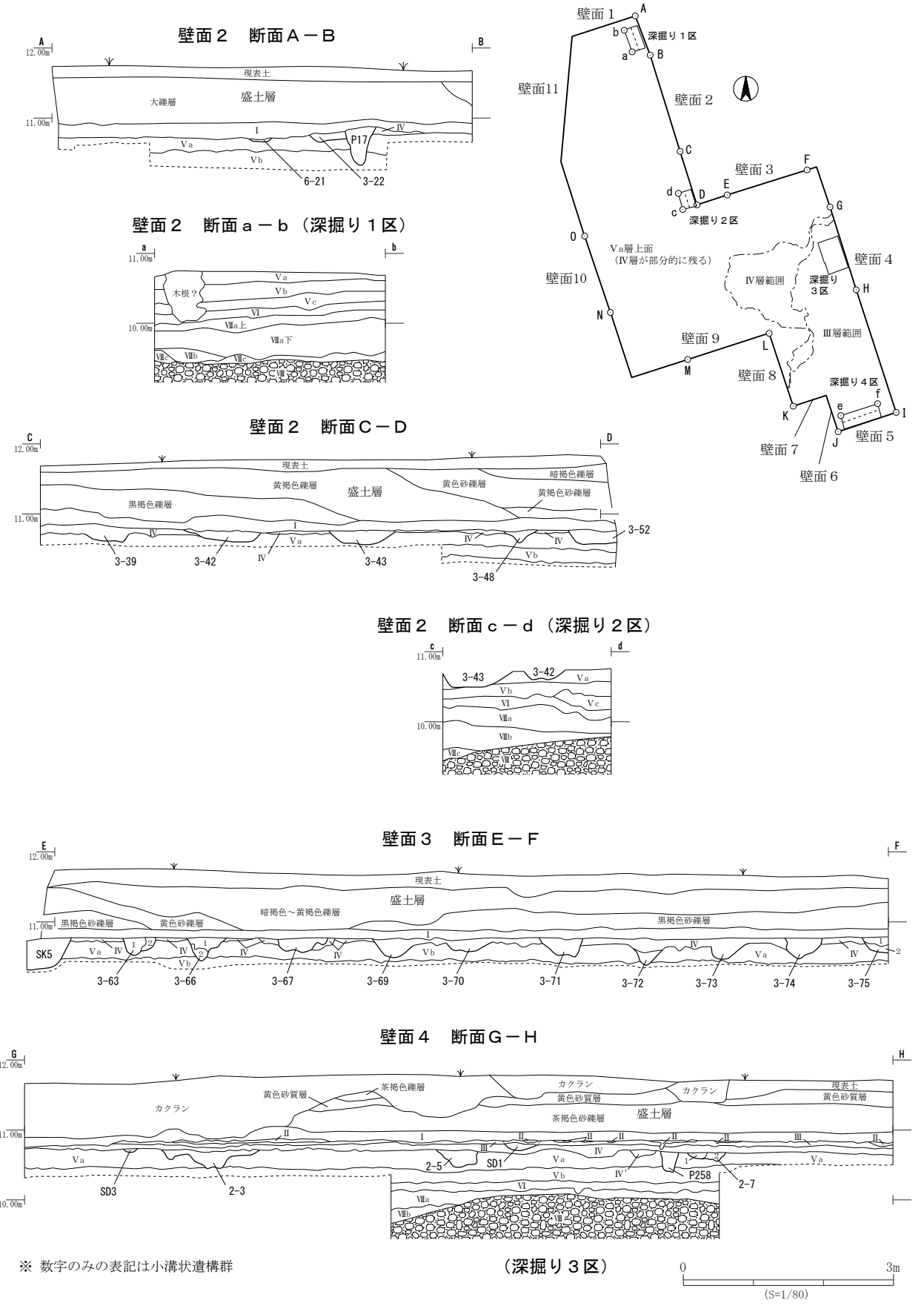
Ⅳ　層：暗褐色（10YR3/3）シルト。暗化層として認められる。酸化鉄・黒色マンガンがやや多く形成されており、締まり・粘性ある。本層下面は不規則な凹凸があり部分的にくぼむ箇所も認められ，畑の耕作土と考えられるものである。こうしたⅣ層の窪みについてはⅣ’層としている。本層からは弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

Ⅴ　層：色調・土性によりⅤａ層～Ⅴｃ層に細分が可能である。Ⅴａ層はにぶい黄褐色（10YR5/3）シルト、Ⅴｂ層はにぶい黄褐色（10YR5/3～5/4）シルトである。Ⅴｂ層はⅤａ層よりわずかに色調が明るくなるとともに、砂質味が加わり、締まり・粘性ともに減少する。Ⅴb層上面には炭化物の分布がみられる箇所があった。Ⅴｃ層はにぶい黄褐色（10YR5/3）粘質シルトである。深掘り４区ではⅤｂ層下部がにぶい黄褐色（10YR5/2）から灰黄褐色土（10YR6/2）となって粘性が強くなることからⅤb’層とした。Ⅴａ層上位からは弥生土器が出土した。

Ⅵ　層：暗褐色（10YR3/3）砂質シルト。有機質を含む砂質シルト層。部分的に１～３㎜程度の炭化物を含む。今回の調査ではⅥ層中からの遺物は検出されていないが、大野田地区周辺では縄文時代後期の遺物包含層が形成される。本層は暗化層として認められ、部分的に炭化物の混入が認められる部分がある。締まり・粘性やや弱い。

Ⅶ　層：色調・土性によりⅦa層～Ⅶｃ層に細分が可能である。Ⅶa層は灰黄褐色（10YR5/2）～にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルトで締まり・粘性やや弱い。Ⅶb層は灰黄褐色（10YR5/2）砂層となり、締まり・粘性がなくなる。Ⅶc層はにぶい黄褐色（10YR4/3）砂質シルトであり、締まり・粘性弱い。深掘り１区についてはⅦa層の上位が灰色味の増すにぶい黄褐色（10YR5/2～10YR6/2）砂質シルトとなるため、これをⅦa上層、以下をⅦａ下層としている。

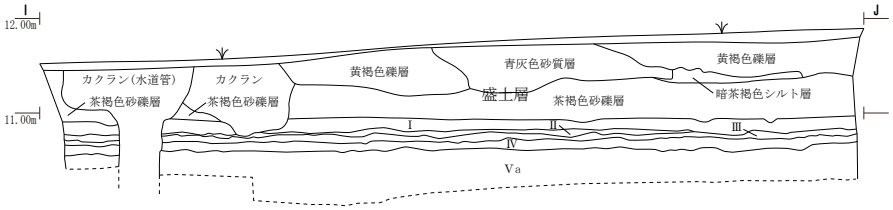
Ⅷ　層：砂礫層。径30～250㎜の円礫と粗砂が堆積する砂礫層である。



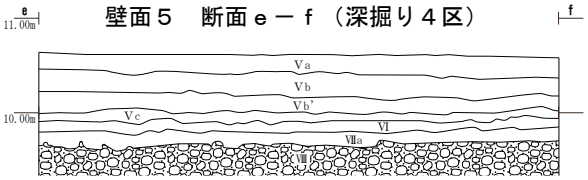
※ 数字のみの表記は小溝状遺構群

第４図　調査区土層断面図（１）

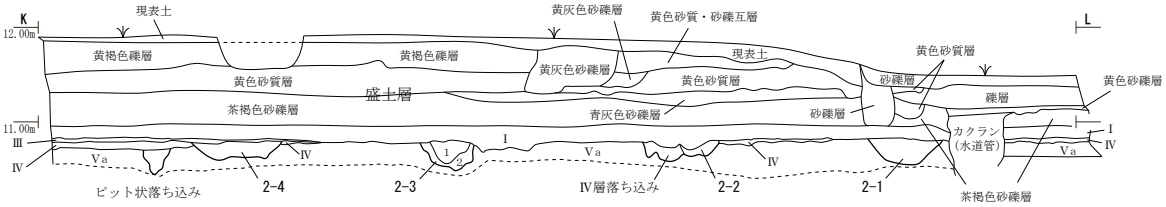
壁面５　断面Ｉ－Ｊ



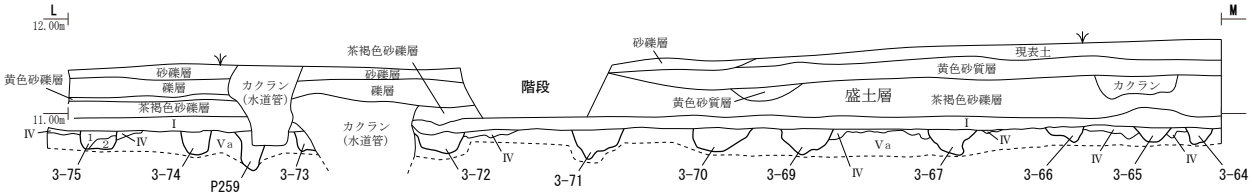
壁面５　断面ｅ－ｆ（深掘り４区）



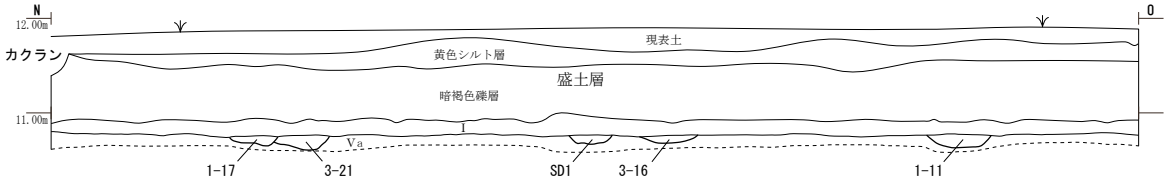
壁面８　断面Ｋ－Ｌ



壁面９　断面Ｌ－Ｍ



壁面10　断面Ｎ－Ｏ



※ 数字のみの表記は小溝状遺構群

0　3m
(S=1/80)

第５図　調査区土層断面図（２）

第Ｖ章　検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は次のとおりである。

Ⅲ層上面検出遺構

溝跡１条（ＳＤ １）、土坑 ２ 基（ＳＫ １・５）

Ⅳ層上面検出遺構

小溝状遺構群 ３ 群（小溝群 １ ～ ３）、ピット 262 個

Ｖａ層上面検出遺構

竪穴住居跡１軒（ＳＩ １）、溝跡 ４ 条（ＳＤ ２ ～ ５）、小溝状遺構群 ３ 群（小溝群 ４ ～ ６）

土坑 ３ 基（ＳＫ ２ ～ ４）、性格不明遺構 １ 基（ＳＸ １）

Ｖｂ層上面検出遺構

土坑 ２ 基（ＳＫ ６・７）、性格不明遺構 １ 基（ＳＸ ２）

以下、各検出面ごとに遺構と遺物について説明する。

第１節　Ⅲ層上面検出遺構

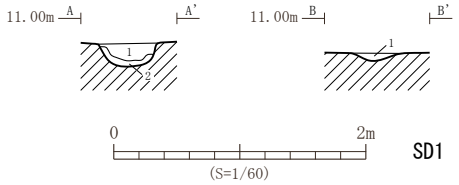
Ⅲ層上面において検出された遺構は、溝跡１条（ＳＤ １）、土坑 ２ 基（ＳＫ １・５）である。ＳＤ １ は旧水田土（Ｉ層）直下のⅢ～Ｖａ層上面で検出した。一方、ＳＫ １・５ はＶａ層上面の検出であるが、Ⅳ層上面検出遺構との重複関係、堆積土の状況からⅢ層上面検出遺構とした。

１．溝　跡

ＳＤ １ 溝跡（第 ４・６・７ 図、図版 11 － １ ～ ３）

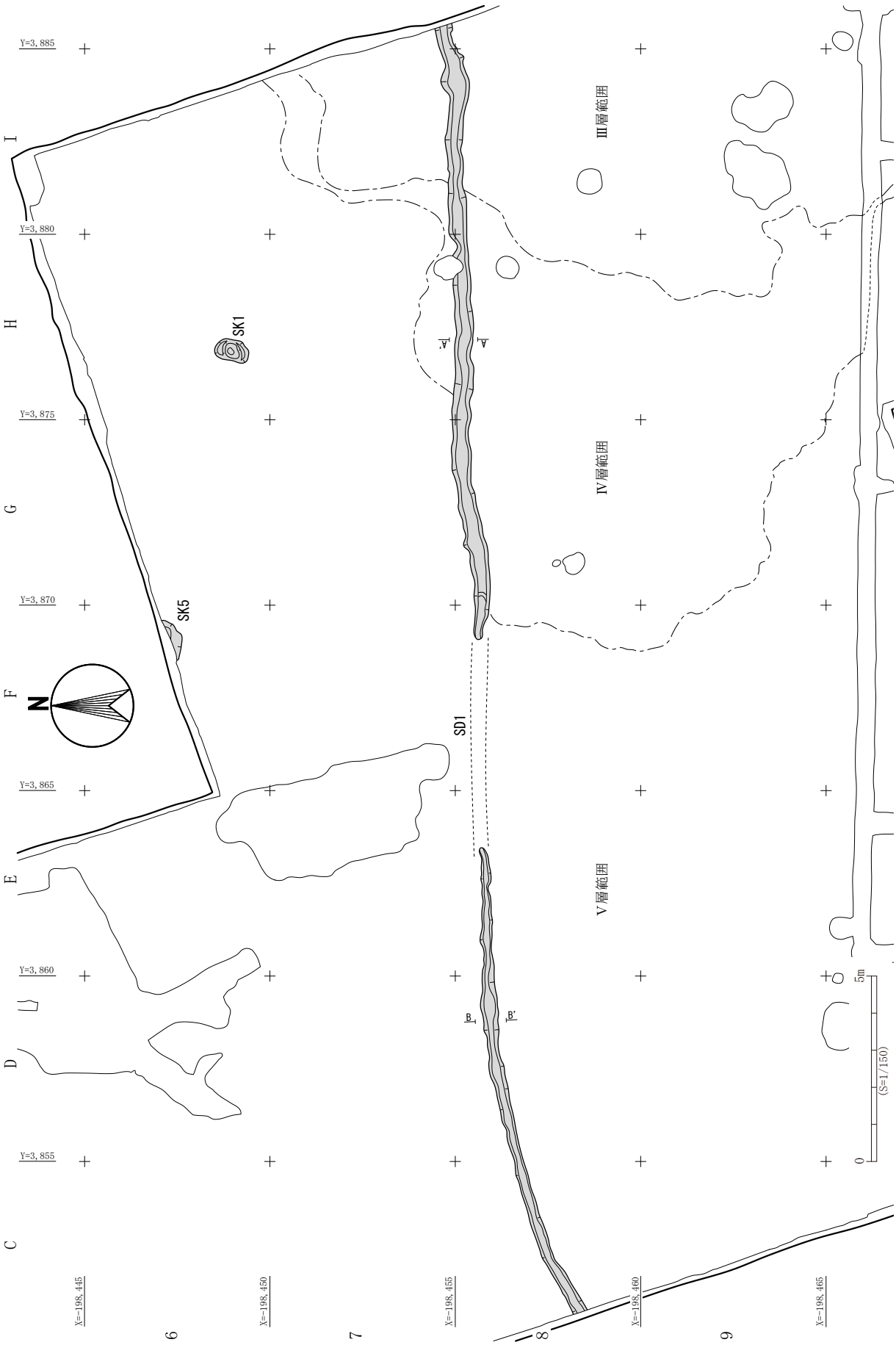
Ｃ－８グリッドからＪ－７グリッドにかけて東西方向に延びる溝跡である。削平のため中央で途切れているが、東西の双方で調査区外に延びている。直線部分はＮ－ 87°－Ｅとほぼ東西を向いているが、西側ではＮ－ 60°－Ｅと南西方向に向きを変えていく。検出長は直線距離で 34.9 ｍを測る。上端幅は 16 ～ 75 ㎝、下端幅 6 ～ 48 ㎝、深さは 16 ～ 25 ㎝である。底面標高は東端部で 10.70 ｍ、西端部で 10.64 ｍと ６ ㎝ほど西側が低い。また、Ｅ－ ８ グリッドに底面標高の最低値（10.56 ｍ）、Ｇ－ ８ グリッドに最高値（10.71 ｍ）があり、全体的に小さな起伏が連続する。検出範囲内でみる限りでは一定方向への明瞭な底面勾配はみられない。

第６図、及び第４図の壁断面図に示したように、断面形はＵ字形あるいは皿形となる。堆積土はにぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルトが主体となり、全体に均質な土層である。堆積土の主体となるにぶい黄褐色土はⅢ層が流入したものと考えられる。本溝跡から遺物は出土していない。

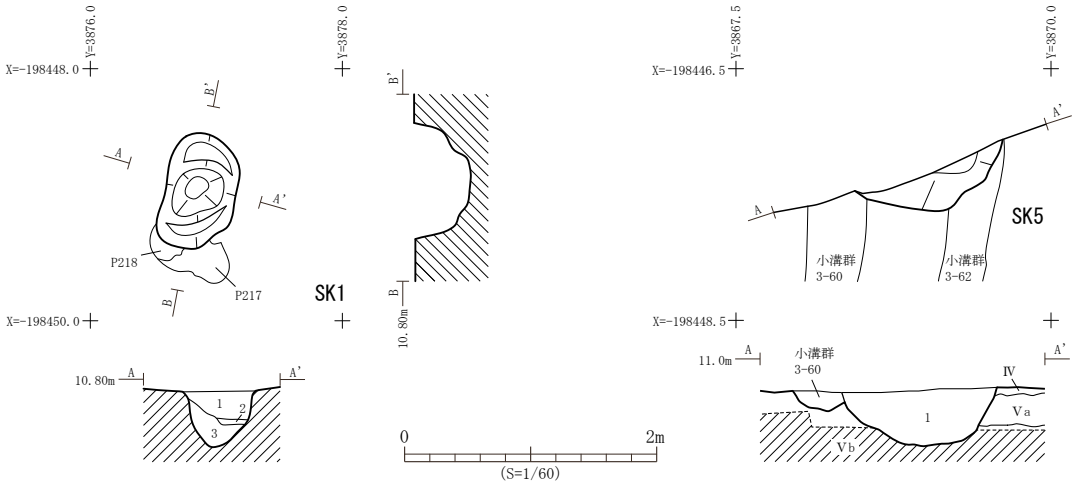


遺 構	層 位	土 色	土 性	備 考
SD1 (A－A')	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	締まりやや強く、粘性弱い。マンガン少量。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	締まり・粘性ある。マンガン少量。
SD1 (B－B')	1	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりやや強く、粘性弱い。マンガン少量。

第６図　ＳＤ１溝跡断面図



第７図　Ⅲ層上面遺構平面図（SD１、SK１・５）



遺構	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	径10～50mmのⅢ層ブロックが主体。Ⅳ層土と思われる暗褐色土が斑紋状に混入。マンガン少量。炭化粒微量。粘性弱い。
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	粘性強い。
	3	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	径20～30mmの暗褐色粘質シルトブロックが多量混入。粘性強い。
SK5	1	ブロック混合土	シルト	10YR3/3暗褐色・10YR5/4にぶい黄褐色・10YR7/1灰白色シルトブロックの混合土。締まり強い。

第８図　ＳＫ１・５土坑平面・断面図

２．土　坑

ＳＫ１土坑（第７・８図、図版９－１・２）

Ｈ－６グリッドに位置し、Ｐ217・218を切る。平面形はやや不整な楕円形で、規模は93×58㎝、深さ45㎝である。断面形は短軸方向でＵ字形であるが、長軸方向では南北双方で有段形となっている。堆積土は３層に分層され、１層中には基本土層のⅢ層ブロックが主体的に混入し、３層中には暗褐色ブロックが多量混入する。１・３層のブロックが混入する状況から人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は出土していない。

ＳＫ５土坑（第７・８図、図版10－１）

Ｆ－６グリッドに位置し、小溝状遺構群３－60と３－62を切る。調査区壁にかかっており全容は不明である。規模は東西方向の検出長121㎝、南北長は32㎝である。深さは調査範囲内で45㎝である。

堆積土は一様なブロック混合土の単層である。暗褐色（10YR3/3）シルト・にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト・灰白色（10YR7/1）シルトのブロックが混在しており、締まりが強い。人為的に埋め戻した可能性がある。遺物は出土していない。

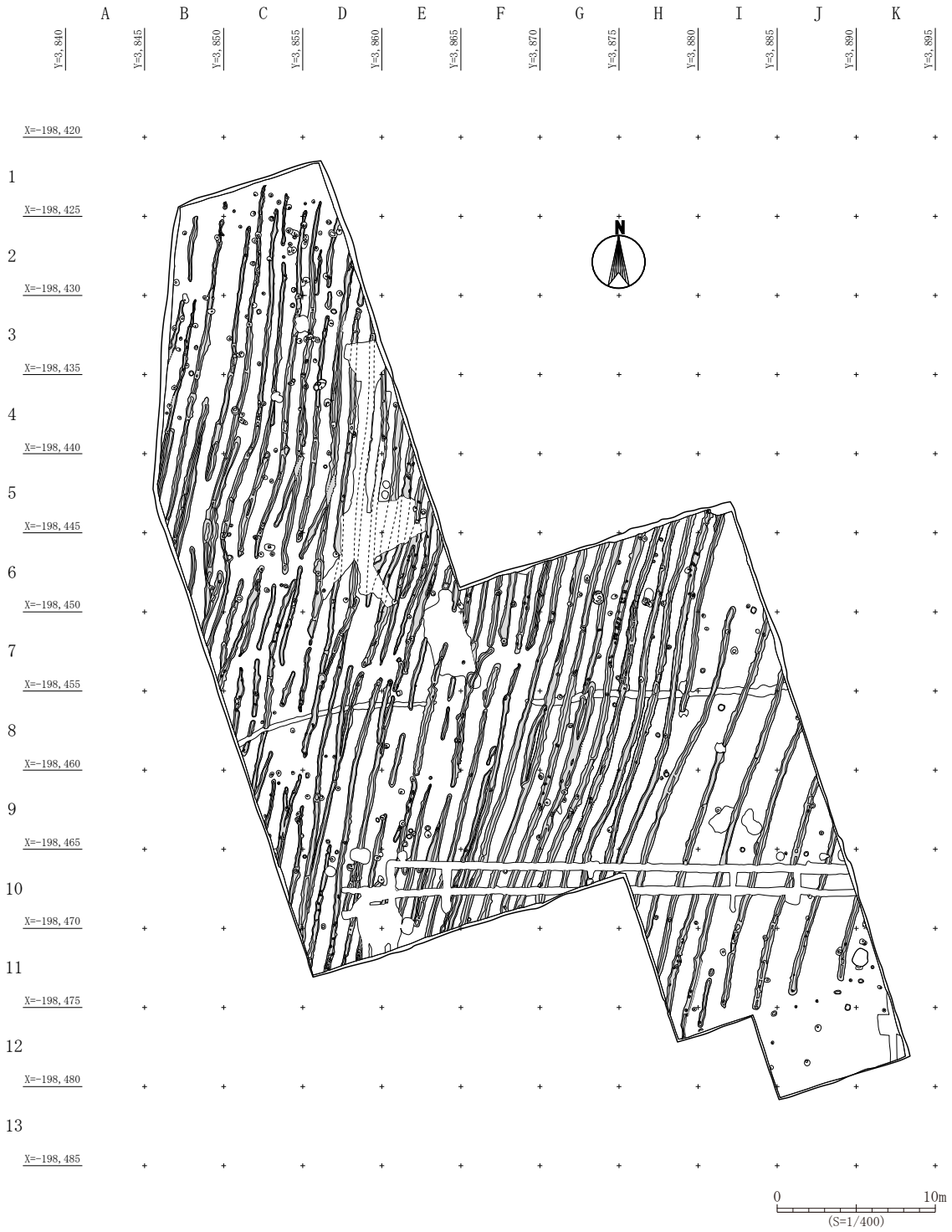
第２節　Ⅳ層上面検出遺構

Ⅳ層上面の遺構は小溝状遺構群１～３である。小溝状遺構群は実際にはⅤa層上面の検出であるが、調査区壁面の観察では、Ⅳ層が遺存する場所においてはⅣ層を切っていることが確認できたことから、Ⅳ層上面の遺構として捉えている。小溝状遺構群は北東方向に並ぶ小溝構群１と２、それと北北東及び南北方向にかけて並ぶ小溝群３に分類された。また、多数検出されたピットについても壁断面でⅣ層を掘り込むことが確認できたことから小溝群同様にⅣ層上面遺構とした。

１．小溝状遺構群

小溝状遺構群１（第10図、図版２－２）

Ｂ～Ｆ－４～９グリッド内に位置する。小溝21条から構成され、ＳＸ１及び小溝群３・４・６を切り、Ｐ78・

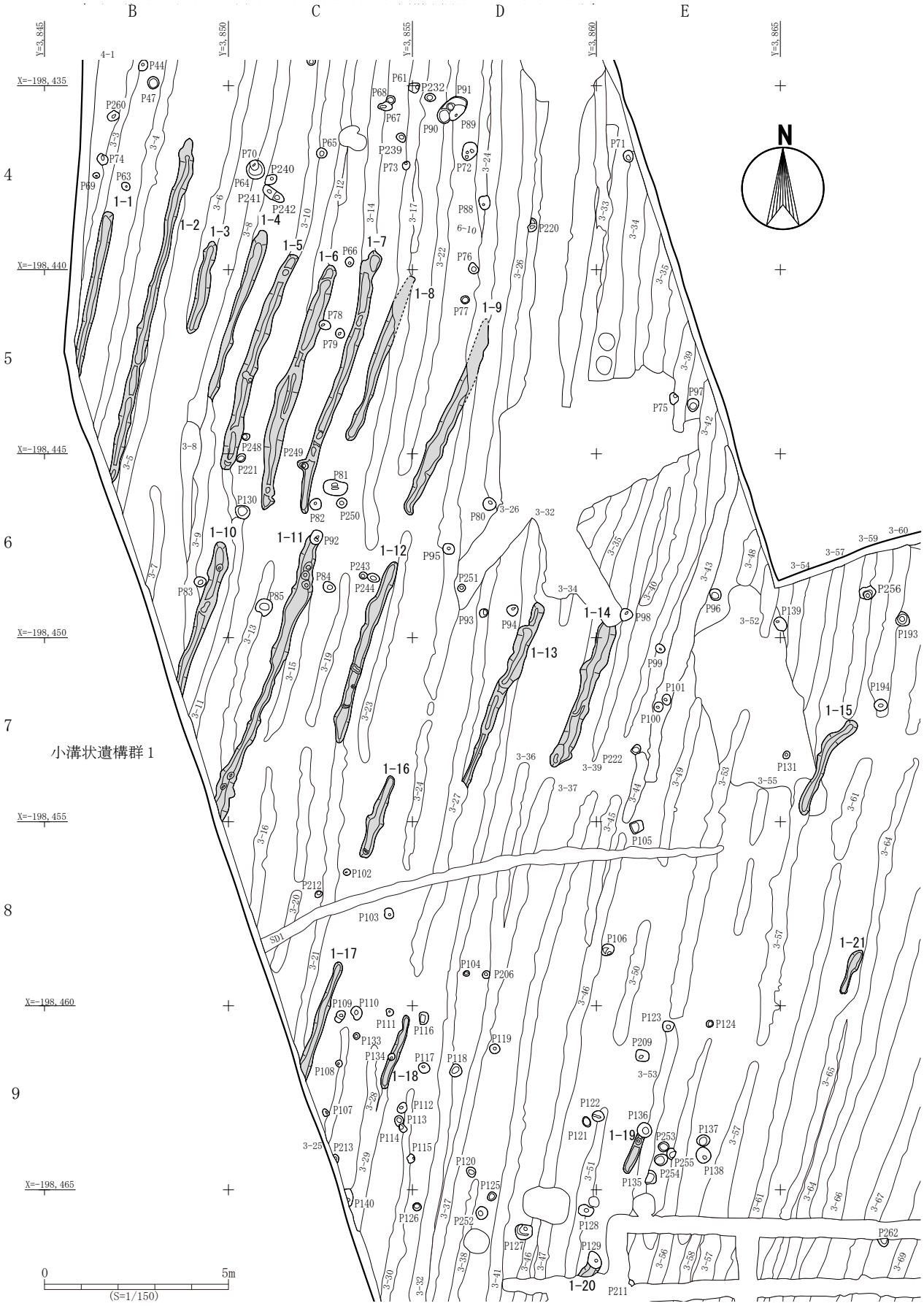


第９図　Ⅳ層上面全体図

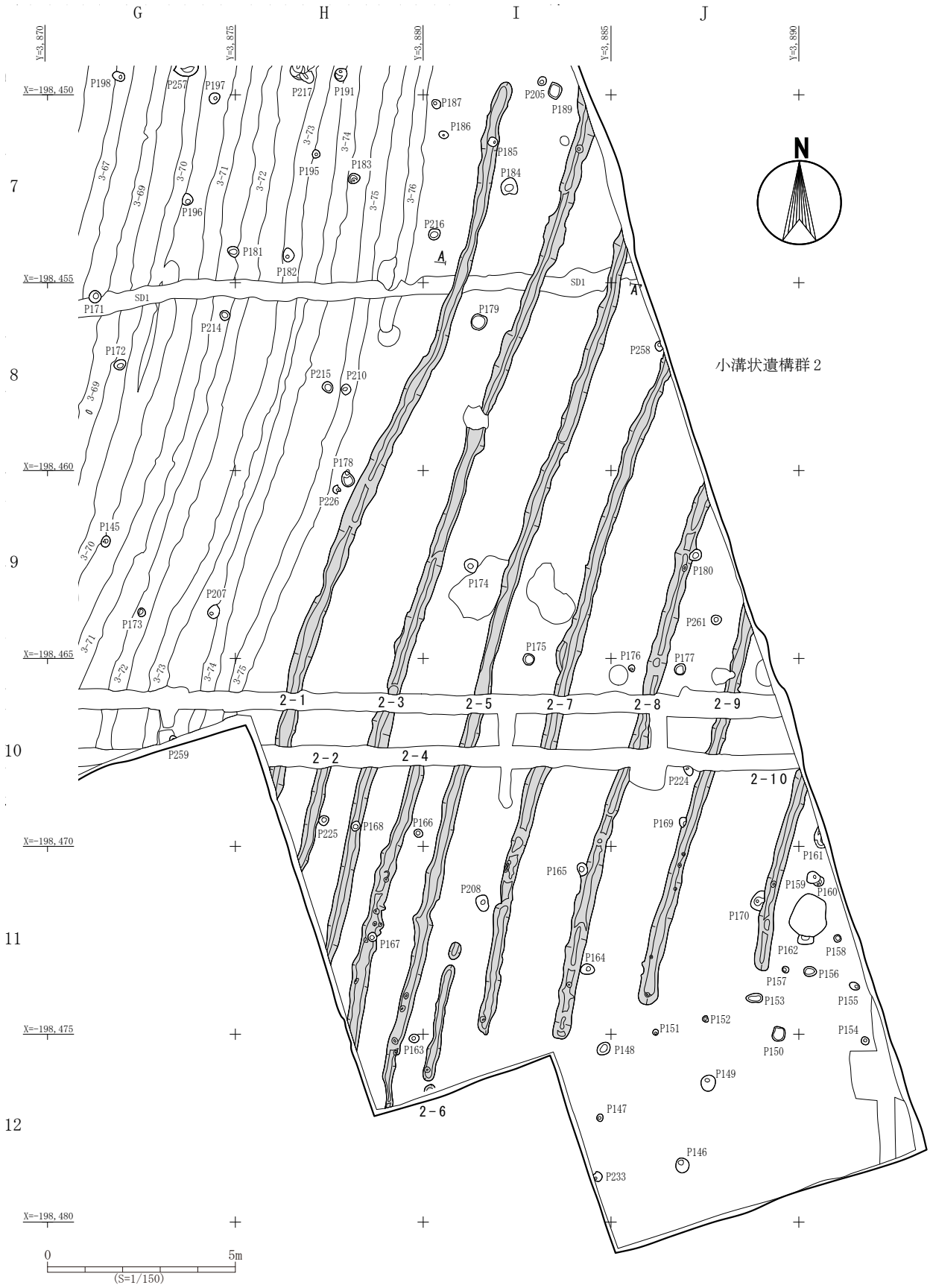
92・129・134・136・249に切られている。小溝群 1 － 1～9 による北側に並ぶ一群と小溝群 1 － 10～16 による一群との間には途切れる部分があり、小単位に分割できるような配置を示している。また、さらに南側で小溝群 1 －17～21 のように短い小溝が遊離するものも存在するが、方向性を重視して本小溝群にまとめている。

各小溝の方向はＮ－19°－Ｅ前後に収まり、長さは最長部分で8.06ｍを測る。上端幅は13～60㎝、下端幅は６～36㎝、深さ６～26㎝である。小溝間の間隔は最も配列性のみられる北側のＢ・Ｃ－５グリッド付近で心々距離0.82～1.28ｍ、平均１ｍ前後で並び、間隔の広がる小溝群１－10～14付近で2.12～2.25ｍとなる。

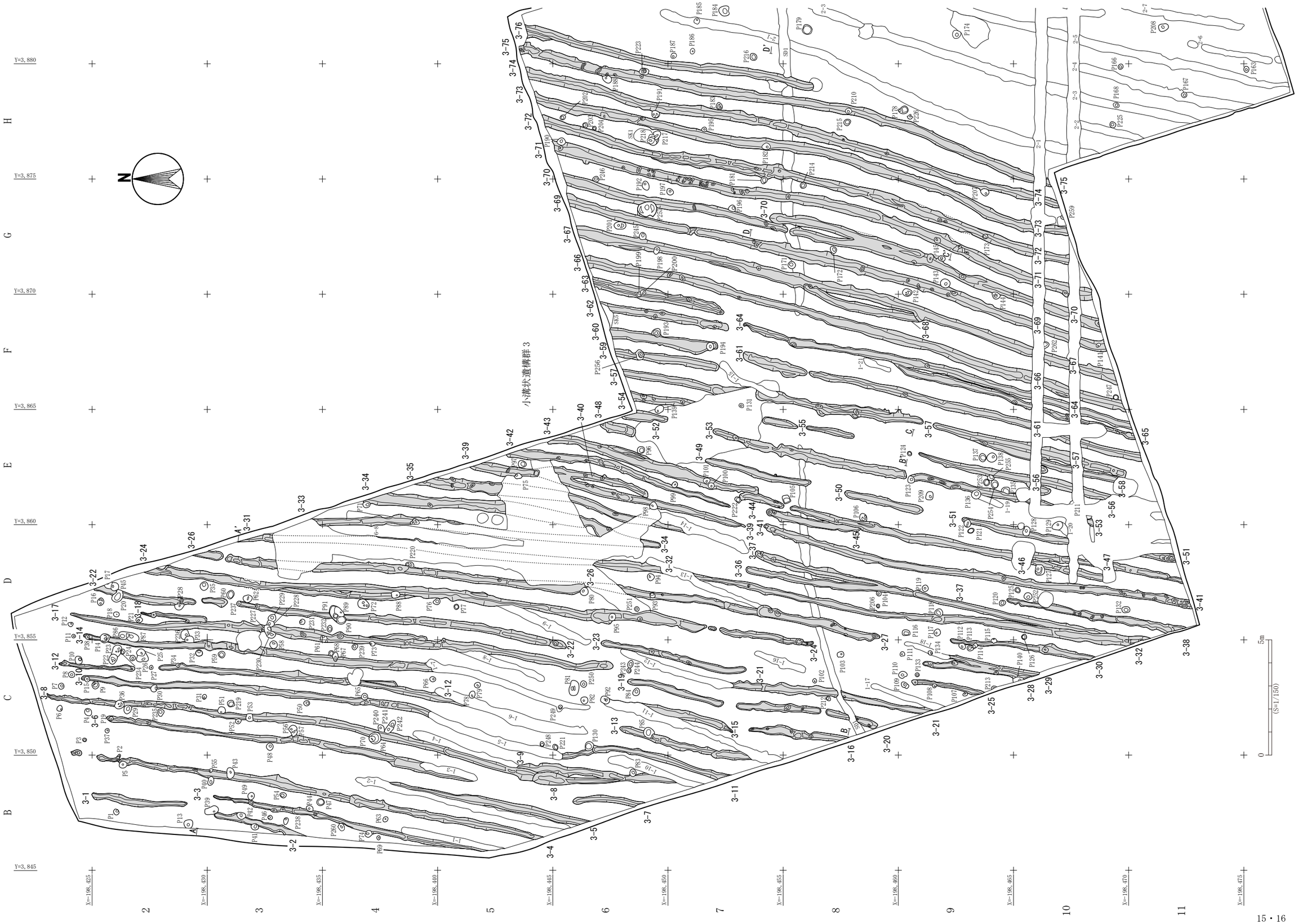
断面形はＵ字形を基本としており、底面の所々に段部や窪みが認められる。堆積土は暗褐色（10YR3/4）シルト



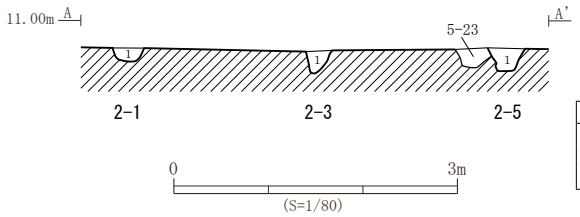
第10図　Ⅳ層上面遺構平面図（小溝群１、ピット）



第11図　Ⅳ層上面遺構平面図（小溝群２、ピット）



第 12 図　Ⅳ層上面遺構平面図（小溝群 3 、ピット）



遺構		層位	土色	土性	備考
小溝状遺構群2	1	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック混入。
	3	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	5	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。

第13図　Ⅳ層上面小溝状遺構群２断面図

が主体となって、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトが混じる。

遺物は堆積土中に混在する状態で土師器小片が出土した。その内訳は坏１点、器台１点、甕と思われる底部１点と胴部片４点となる。

小溝状遺構群２（第11・13図、図版１－１）

Ｈ～Ｊ－７～12グリッド内に検出された。ＳＩ１、ＳＫ４、小溝群５を切り、ＳＤ１、Ｐ165・167～170・180・185に切られる。計10条の小溝により構成され、最長部分で小溝群２－５が24.0ｍを測り、さらに調査区外に延びている。方向はＮ－13°－ＥからＮ－19°－Ｅの中に収まり、平均してＮ－16°－Ｅの向きでほぼ並行して北北東に延びている。大部分が等間隔に並ぶ中で南側の小溝群２－２・４・６はその中間に入り込むが、配列性の高さからみて本小溝群として扱っている。上端幅は16～62㎝、下端幅は５～36㎝、深さ11～42㎝を測る。小溝間の心々間隔は2.07～2.47ｍであり、南側の２－２・４・６が関わる箇所では0.9～1.35ｍとなる。

断面形はＵ字形が基本となり、台形部分となる箇所もある。底面には段差や窪みが認められる。堆積土は暗褐色（10YR3/3～3/4）シルトが主体となり､灰黄褐色（10YR4/2）シルトやにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトとなる部分も認められる。遺物は堆積土中に混在する状態で土師器坏 片 2 点、土師器甕を中心とした小片71点、及び弥生後期の土器片１点（第28図）、礫石器２点（第29・30図）が出土した。

小溝状遺構群３（第12・14図、図版２－２）

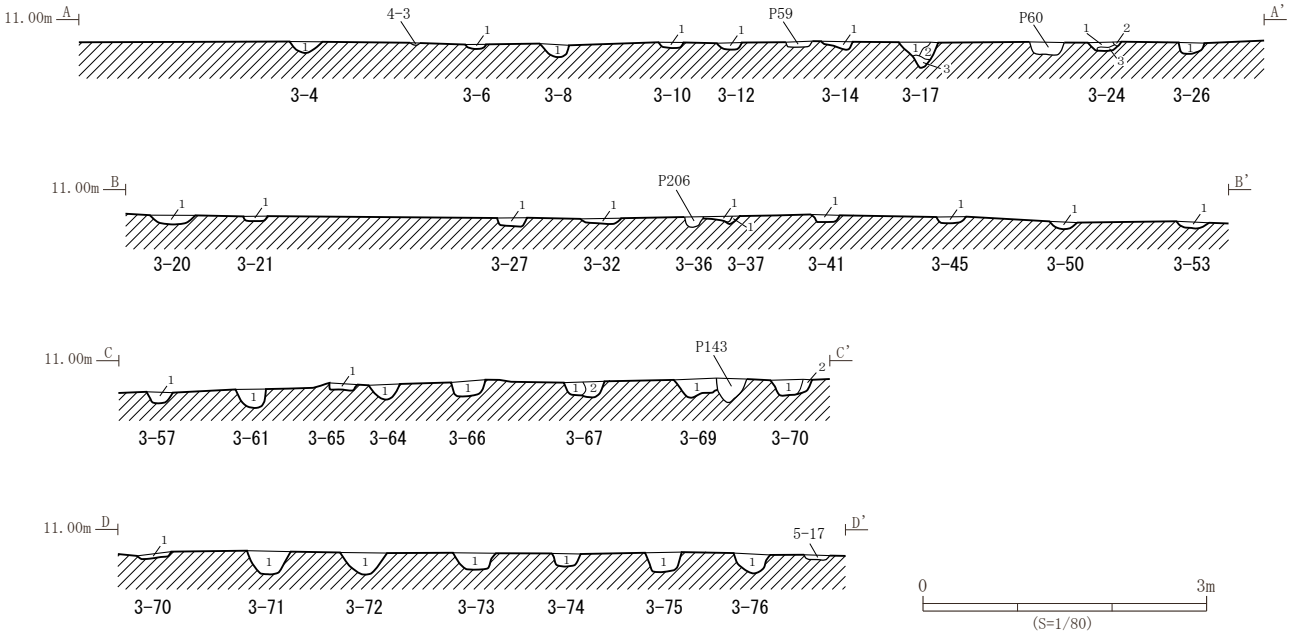
調査区中央から北側にかけての範囲に検出された。ＳＤ１、小溝群１に切られ、ＳＩ１、小溝群４～６を切る。また、重複するピットにいずれも切られている。76条の小溝より構成され、検出範囲は東西35ｍ、南北50ｍとなる。小溝の方向はＮ－２°－ＥからＮ－18°－Ｅの中に収まり、平均するとＮ－10°－Ｅとなり全体に北方向から弱く東に振れる。ただし、小溝群中央にある小溝群３－48～51を境にした西半の小溝群は、Ｎ－10°－Ｅ前後より北方向寄りに振れるのに対し、東半ではＮ－10°－ＥからＮ－15°－Ｅの方向を示し、西半と比べて東寄りの傾きをとっている。この点は小溝群３をさらに分割し得ることを示している。小溝間の間隔は小溝群西側の溝列の揃うＣ－Ｄ・４グリッドで心々間隔0.89～1.30ｍ（平均0.73ｍ）、東側のＦ・Ｈ－６・７グリッドで0.79～1.12ｍ（平均0.97ｍ）である。

断面形はＵ字形が基本となり、逆台形部分も認められる。堆積土は暗褐色（10YR3/3～3/4）シルト及びにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトが基本となる。

出土した遺物は須恵器坏片１点、土師器高坏片１点、土師器坏と考えられる破片12点、土師器甕を中心とする破片355点をかぞえるが、この他に縄文時代後期あるいは弥生時代中期と考えられる土器片等が３点（第28図）、礫石器１点（第29図）が出土した。

2. ピット（第 10 ～ 12 図）

計 262 個のピットが検出された。壁断面にかかるピットはⅣ層を掘り込んで確認されるものが多く、小溝と切り合う箇所はいずれもピットが新しい。したがって、Ⅳ層上面検出遺構の中でも最も新しい遺構と考えられる。平面



遺構		層位	土色	土性	備考
小溝状遺構群3	4	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック少量。
	6	1	10YR4/4褐色	シルト	砂質味ある。
	8	1	10YR3/4暗褐色	シルト	―
	10	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック少量。
	12	1	10YR3/3暗褐色	シルト	―
	14	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	―
	17	1	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトブロック少量。
		2	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトブロック少量。
		3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。締まり弱い。
	20	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	―
	21	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	24	1	10YR4/4褐色	シルト	砂質味ある。
		2	10YR3/3暗褐色	シルト	砂質味ある。10YR4/4暗褐色シルトブロック主体。
		3	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。
	26	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	27	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。
	32	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3にぶい黄褐色シルトブロック少量。
	36	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。
	37	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。
	41	1	10YR3/2黒褐色	シルト	グライ化進む。10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロックやや多量。
	45	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	―
	50	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子やや多量。
	53	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。
	57	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。
	61	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック多量。
	64	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	―
	65	1	10YR4/4褐色	シルト	弱いグライ化斑多量。
	66	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色土少量。
	67	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子やや多量。
		2	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	均質土。
	69	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック多量。
	70	1	10YR3/3暗褐色	シルト	断面C－C'。10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック少量。
		2	10YR3/3暗褐色	シルト	断面C－C'。10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	70	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	断面D－D'。グライ化進む。5Y5/2灰オリーブ色シルトブロックやや多量。
	71	1	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックの混合土。
	72	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック多量。
	73	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	74	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	75	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。
	76	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロックやや多量。

第14図　Ⅳ層上面小溝状遺構群３断面図

形が円形となるピットが主体となり、径は13～83㎝で、30㎝前後に集中する。深さは 4～67㎝であるが、20㎝前後に集中している。分布域は調査区全面に広がっているが、北側に集中する傾向が認められ、調査区北端部では西北西－東南東方向の配列性がみられる箇所もある。その他については掘立柱建物跡等のピット配置は認められなかった。堆積土は暗褐色（10YR3/3～3/4）シルトが主体となる。

第２表　Ⅳ層上面小溝状遺構群観察表（1）

〈 〉現存値、（ ）推定値

小溝群名称		位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模 全長m	上幅cm	下幅cm	深さcm	方向	堆積土 地点	土色	土性	出土遺物・新旧関係(古→新)・備考
1	1	B－4・5	〈4.56〉	25～55	7～22	16	N－12°－E	西壁	10YR5/3	シルト	小溝群6－13・14→小溝群1－1、小溝群3－3に接する。
	2	B－4 ～ 6	〈7.24〉	21～40	7～18	22	N－13°－E	西壁	10YR4/3	シルト	土師器坏片1点。小溝群6－11～14→小溝群4－2・小溝群3－5→小溝群1－2。
	3	B－4・5	2.58	28～36	10～17	9	N－14°－E	B－4	10YR4/4	シルト（弱い砂質）	土師器片4点。小溝群6－12・13→小溝群4－3・小溝群3－6→小溝群1－3。
	4	B－5、C－4・5	4.79	20～41	11～24	16	N－19°－E	C－4	10YR3/4	シルト	小溝群6－12～14→小溝群3－8・9→小溝群1－4。
	5	B－6、C－4～6	6.12	30～41	10～18	27	N－21°－E	B－6	10YR3/4	シルト	小溝群6－12～15→小溝群3－10・11→小溝群1－5→P248。P221に接する。
	6	C－4・5・6	6.88	30～60	6～25	27	N－20°－E	C－5	10YR3/4	シルト	小溝群6－12～14→小溝群3－12→小溝群1－6→P78。
	7	C－4・5・6	7.38	27～52	7～36	26	N－18°－E	C－5	10YR3/4	シルト	土師器器台片1点。小溝群6－12～14→小溝群3－14→小溝群1－7→P249。
	8	C－5、D－5	4.81	18～37	9～21	13	N－21°－E	C－5	10YR4/3	シルト	小溝群6－12 ～ 14→SX1→小溝群3－17→小溝群1－8。
	9	C－6、D－5・6	5.73	24～48	11～36	16	N－24°－E	D－5	10YR4/3	シルト	土師器底部片1点。小溝群6－13・14→小溝群3－24→小溝群1－9。
	10	B－6・ 7	〈4.29〉	25～46	11～21	21	N－19°－E	西壁	10YR3/4	シルト	小溝群3－9→小溝群1－10。
	11	B－7、C－6・ 7	〈8.06〉	20～55	8～38	18	N－18°－E	壁断面N－0	10YR3/4	シルト	小溝群3－13・15→小溝群1－11→P92。
	12	C －6・7	5.15	30～42	13～30	15	N－19°－E	C－7	10YR5/3	シルト（弱い砂質）	小溝群3－21→小溝群1－12。小溝群3－23に接する。
	13	D－6・7	5.35	15～46	6～25	22	N－23°－E	D－7	10YR4/3	シルト	小溝群3－27・32→小溝群1－13。
	14	D－7、E－6・7	4.08	34～54	13～28	22	N－20°－E	D－7	10YR3/4	シルト	小溝群3－35→小溝群1－14。
	15	F－7	2.89	21～39	7～16	20	N－21°－E	F－7	10YR4/3	シルト（弱い砂質）	小溝群3－57→小溝群1－15。
	16	C－7・8	2.32	27～49	13～28	13	N－19°－E	C－7	10YR3/4	シルト	小溝群6－19→小溝群1－16。
	17	C－8・9	〈3.33〉	21～33	8～21	10	N－18°－E	壁断面N－0	10YR4/3	シルト	小溝群3－21→小溝群1－17。
	18	C－9	2.08	13～27	9～15	29	N－20°－E	西壁	10YR3/4	シルト	小溝群3－29→小溝群1－18→P134。
	19	E－9	1.12	23～27	11～19	19	N－22°－E	E－9	10YR3/4	シルト	小溝群3－53→小溝群1－19→P136。
	20	D・E－10	〈0.40〉	44～45	18～29	40	N－26°－E	D－10	10YR4/3	シルト	小溝群1－20→P129。
	21	F－8	1.29	15～32	9～18	5	N－19°－E	F－8	10YR3/4	シルト	－
2	1	H－8～10、I－6～8	〈19.85〉	26～56	8～25	42	N－19°－E	小溝群2断面図（第13図） 壁断面K－L	10YR3/4	シルト	土師器片24点。SI1→小溝群5－4～6・14～18→小溝群2－1→P185。SI1断面図中の堆積土は10YR4/2シルト。
	2	H－10・11	〈2.71〉	29～36	14～21	11	N－12°－E	壁断面K－L	10YR4/2	シルト	土師器片4点。P225に接する。
	3	H－9～11、I－7～9	〈23.88〉	26～55	6～36	38	N－18°－E	小溝群2断面A－A（第13図） 壁断面K－L1層 壁断面K－L2層	10YR3/2 10YR4/2	シルト シルト	土師器坏片2点、土師器片12点、礫石器1点（第30図3）。小溝群5－15・16・18・20・21→小溝群2－3→SD1・P168。S11断面図中の堆積土は10YR3/4シルト。壁断面図G－Hの堆積土は10YR4/2シルト。
	4	H－10・11・12	〈7.60〉	32～48	7～30	21	N－15°－E	壁断面K－L	10YR4/2	シルト	土師器片2点。小溝群2－4→P167。
	5	H－11・12、I－8～11	〈24.00〉	16～48	5～27	34	N－15°－E	小溝群2断面図（第13図）			土師器底部片1点。小溝群5－23・24・26・SK4→小溝群2－5。壁断面G－Hの堆積土は10YR4/2シルト。
	6	I－11・12	〈3.98〉	22～35	7～17	12	N－13°－E	南壁	10YR4/2	シルト	弥生後期土器片1点(第28図10)。SK4→小溝群2－6。
	7	I－9～11、J－8・9	〈18.59〉	22～62	10～24	27	N－17°－E	壁断面G－H	10YR4/3	シルト	土師器片26点。小溝群5－25・29・32・33・37→小溝群2－7。
	8	I－10～12、J－9・10	〈15.19〉	28～52	6～30	32	N－16°－E	東壁	10YR4/2	シルト	土師器片1点、礫石器1点（第29図4）。小溝群5－30・34・35→小溝群2－8→P165・P180。
	9	J－9～11	〈10.90〉	30～52	12～28	26	N－17°－E	東壁	10YR4/3	シルト	土師器ハケ甕片1点。小溝群2－9→P169。
	10	J－10・11、K－10	〈5.42〉	29～38	9～16	36	N－14°－E	東壁	10YR3/4	シルト	小溝群2－10→P170。
3	1	B－2	4.15	21～40	9～18	11	N－5°－E	B－2	10YR3/4	シルト	土師器片4点。小溝群6－18→小溝群3－1。
	2	B－3	〈4.00〉	20～37	11～26	10	N－13°－E	西壁	10YR4/3	シルト	小溝群6－7→小溝群4－1→小溝群3－2→P39・41・42
	3	B－3～5	〈11.95〉	9～32	3～17	17	N－12°－E	西壁	10YR5/2	シルト	小溝群6－7→小溝群4－1→小溝群3－3→小溝群1－1・P44・P49・P74・P260。小溝群6－11→小溝群3－3。
	4	B－2～5	〈20.60〉	11～58	2～24	20	N－11°－E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群6－7・9・11～14→小溝群3－4→P2・P5・P40・P43・P55。小溝群4－2→小溝群3－4。
	5	B－4～6	〈8.80〉	15～39	6～26	13	N－12°－E	西壁	10YR4/3	シルト	小溝群4－2→小溝群3－5→小溝群1－2。
	6	B－4・5、C－2～4	16.00	16～48	5～32	17	N－8°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片4点。小溝群6－1 ～ 3・6 ～ 9・11→小溝群3－6→小溝群1－3・P19・P57。
	7	B－6	〈3.11〉	23～29	10～13	12	N－3°－E	西壁	10YR3/3 暗褐色	シルト	－
	8	B－5・6、C－1～5	25.16	19～55	9～22	37	N－8°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片2点。小溝群6－1～3・6～9・11～14→小溝群4－3→小溝群3－8→小溝群1－4・P29・P36・P51・P52・P53・P64・P70・P240・P241。小溝群3－9と重複。
	9	B－5～7	6.92	25～43	11～28	21	N－5°－E	B-5	10YR3/4	シルト	小溝群6－15→小溝群3－9→小溝群1－4・小溝群1－10・P83。小溝群3－8と重複。
	10	C－1～4	15.15	22～42	5～23	19	N－5°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片3点。小溝群6－1～11→小溝群3－10→小溝群1－5・P15・P30・P65。
	11	B－6・7、C－6	〈7.28〉	18～34	5～20	18	N－9°－E	西壁	10YR6/3	シルト	小溝群6－16→小溝群3－11→小溝群1－5・P130。
	12	C－1～5	17.27	12～45	5～18	21	N－4°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片4点。小溝群6－ 1 ・3～10・12→小溝群3－12→小溝群1－6・P10・P34。
	13	B－7、C－6・7	5.84	23～38	7～23	18	N－13°－E	C－7	10YR4/4	シルト	小溝群3－13→小溝群1－11・P85。
	14	C－2～4、D－1・2	15.18	16～46	9～28	30	N－5°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片3点。小溝群6－1～9→小溝群3－14→小溝群1－7・P14・P33・P38・P67・P68・P86・P87。P58に接する。
	15	C－6・7	4.13	31～40	9～22	12	N－12°－E	C－7	10YR4/3	シルト	小溝群3－15→小溝群1－11。
	16	C－7・8	〈4.32〉	17～42	10～28	14	N－6°－E	壁断面N－0	10YR3/4	シルト	－
	17	C－3～6、D－1～4	23.66	22～47	5～27	45	N－5°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器ハケ甕片4点、土師器片11点。小溝群6－2～10・13・14・17・21→小溝群3－17→小溝群1－8・P61・P73・P227・P228・P230。小溝群6－13→SX1→小溝群3－17。P21に接する。
	18	D－2	2.88	8～24	2～17	15	N－6°－E	D－2	10YR4/3	シルト	小溝群6－2・3→小溝群3－18。小溝群3－17と重複。
	19	C－6・7	4.27	23～34	13～25	8	N－14°－E	C－7	10YR4/3	シルト	－
	20	C－7・8	6.18	22～41	9～33	15	N－7°－E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群6－19→小溝群3－20→SD1。
	21	C－7～9	〈8.83〉	19～44	9～28	16	N－7°－E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群6－19→小溝群3－21→小溝群1－12・小溝群1－17・SD1。壁断面図N－0の堆積土は10YR5/3シルト。
	22	C－5・6、D－2～5	〈20.60〉	18～45	5～20	26	N－6°－E	壁断面A－B	10YR4/3	シルト	土師器片3点。小溝群6－2～10・13・14・17→小溝群3－22→P17・P20・P28・P45・P89・P90・P91・P237。小溝群6－13→SX1→小溝群3－22。
	23	C－6・7	6.41	19～31	10～21	14	N－10°－E	C－7	10YR4/3	シルト	小溝群3－23→小溝群1－12。
	24	C－7・8、D－2～8	〈29.11〉	21～62	9～41	52	N－6°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片2点。小溝群6－2～10・13・14・19→SK2→小溝群3－24→小溝群1－9・P72・P88・P95。P76に接する。
	25	C－9	〈3.16〉	16～26	5～13	14	N－6°－E	西壁	10YR4/3	シルト	小溝群3－25→P107・P108。
	26	D－2～6	〈17.10〉	28～40	10～29	24	N－6°－E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群6－3・9・13→小溝群3－26→P80・P220。
	27	C－8、D－6～8	11.36	25～52	15～39	25	N－11°－E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群3－27→小溝群1－13・P93・SD1。
	28	C－9・10	〈4.72〉	23～32	11～21	25	N－6°－E	西壁	10YR3/3	シルト	小溝群3－28→P140。
	29	C－9・10	〈3.94〉	14～23	7～19	27	N－14°－E	西壁	10YR3/4	シルト	小溝群3－29→小溝群1－18。
	30	C－9・10、D－9	〈6.28〉	14～48	6～29	26	N－7°－E	西壁	10YR3/4	シルト	土師器片16点。小溝群3－30→P112・113・P114・P115。
	31	D－3	〈1.53〉	31～32	11～13	17	N－2°－E	東壁	10YR4/3	シルト	－
	32	C－10・11、D－6～11	〈24.18〉	19～53	6～25	36	N－8°－E	小溝群3断面図（第14図）			土師器坏片2点（内外面赤彩）、土師器片55点。小溝群6－20→小溝群3－32→小溝群1－13・P118・SD1。小溝群3－37と重複。

第３表　Ⅳ層上面小溝状遺構群観察表（2）

〈 〉現存値、（ ）推定値

小溝群名称		位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模 全長m	上幅cm	下幅cm	深さcm	方向	堆積土 地点	土色	土性	出土遺物・新旧関係（古→新）・備考
	33	D−3・4、E−3〜5	〈6.65〉	23〜45	13〜19	16	N−2°−W	E−3	10YR4/3	シルト	小溝群6−8→小溝群3−33。
	34	D−6、E−4〜6	〈13.04〉	31〜59	9〜51	18	N−4°−E	D−6	10YR3/3	シルト	土師器片1点。小溝群6−8→小溝群3−34→P71。
	35	E−4・5	〈11.73〉	32〜56	10〜42	24	N−9°−E	E−4・5	10YR3/3	シルト	土師器片8点。小溝群3−35→小溝群1−14。
	36	D−7〜9	7.37	27〜35	11〜25	14	N−9°−E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群3−36→SD1・P104。小溝群3−37と重複。
	37	D−7〜10	15.58	22〜45	10〜22	34	N−13°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片17点。小溝群3−37→SD1。小溝群3−32・36と重複。
	38	D−9〜11	〈7.79〉	15〜38	6〜27	16	N−10°−E	D−10・11	10YR4/3	シルト	土師器片3点。
	39	D−7、E−5〜7	〈12.21〉	26〜48	8〜35	28	N−13°−E	壁断面C−D	10YR4/2	シルト	土師器甕？口縁部片1点、土師器片1点。小溝群3−39→P75・P98。P97に接する。
	40	E−6	4.29	21〜35	7〜19	18	N−11°−E	E−6	10YR4/3	シルト	−
	41	D−7〜11、E−7	〈18.94〉	25〜43	11〜26	29	N−11°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片2点。小溝群3−41→SD1。
	42	E−5〜7	〈9.99〉	20〜45	10〜30	22	N−7°−E	壁断面C−D	10YR4/3	シルト	小溝群3−42→P99。
	43	E−5〜7	〈9.40〉	27〜58	8〜45	38	N−18°−E	壁断面C−D	10YR3/4	シルト	小溝群3−43→P100・P101。小溝群3−44と重複。
	44	E−7・8	2.15	28〜35	14〜17	17	N−15°−E	E−7	10YR4/3	シルト	小溝群3−44→P222。小溝群3-43と重複。
	45	D−8、E−7・8	4.16	29〜41	17〜27	17	N−11°−E	小溝群3断面図（第14図）			小溝群3−45→SD1。小溝群3−46と重複。
	46	D−8〜10、E−8	13.90	24〜47	6〜31	28	N−12°−E	D−9・10	10YR4/3	シルト	土師器片6点。小溝群3−46→P106・P127・SD1。小溝群3−45・47と重複。
	47	D−10・11	〈6.55〉	15〜34	8〜19	33	N−14°−E	D−10・11	10YR4/3	シルト	小溝群3−46と重複。
	48	E−6	〈1.57〉	43〜48	20〜31	21	N−14°−E	壁断面C−D	10YR5/4	シルト	−
	49	E−7・8	4.68	25〜38	12〜23	12	N−15°−E	E−7	10YR3/4	シルト	小溝群3−49→SD1。
	50	E−8・9	3.49	27〜41	17〜20	13	N−12°−E	小溝群3断面図（第14図）			−
	51	D−9〜11、E−9	〈9.47〉	24〜44	9〜23	49	N−12°−E	南壁	10YR3/3	シルト	土師器片1点。小溝群3−51→P122・P128。
	52	E−6	〈1.99〉	29〜48	16〜26	25	N−5°−E	壁断面C−D	10YR3/3	シルト	−
	53	D−10、E−7〜10	〈17.02〉	18〜57	6〜25	41	N−12°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片1点、弥生中期後葉？土器1点(第28図8)。小溝群3−53→小溝群1−19・P123・P135・P136・SD1。
	54	F−6・7	〈2.85〉	31〜41	10〜25	30	N−8°−E	北壁	10YR3/3	シルト	SD3→小溝群3−54。
	55	E−7・8	4.04	16〜33	5〜19	13	N−10°−E	E−7・8	10YR4/3	シルト	−
	56	E−9・10	〈8.52〉	14〜45	5〜21	29	N−12°−E	E−9・10	10YR3/3	シルト	土師器片19点。小溝群3−56→P255。
	57	E−8〜10、F−6〜8	〈22.22〉	25〜55	9〜33	35	N−11°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片4点。SD3→小溝群3−57→小溝群1−15。小溝群3−58と重複。
	58	E−9・10	6.48	17〜33	17〜27	31	N−15°−E	南壁	10YR4/2	シルト	土師器片5点。小溝群3−57と重複。
	59	F−6・7	〈4.67〉	26〜43	10〜22	41	N−7°−E	北壁	10YR3/3	シルト	SD3→小溝群3−59→P256。
	60	F−6・7	〈4.75〉	35〜64	20〜45	35	N−8°−E	北壁	10YR4/2	シルト	SD3→小溝群3−60→SK5・P193・P194。
	61	E−9〜11、F−7〜9	〈17.88〉	27〜63	7〜26	39	N−13°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片8点。
3	62	F−6・7	〈5.66〉	30〜44	14〜24	28	N−8°−E	北壁	10YR3/4	シルト	SD3→小溝群3−62→SK5。
	63	F−6・7、G−6	〈5.86〉	40〜57	4〜17	26	N−11°−E	壁断面E−F1層 壁断面E−F2層	10YR3/4 10YR3/4	シルト シルト	SD3→小溝群3−63→P199・P200。
	64	E−10・11、F−7〜11	〈17.45〉	19〜43	7〜26	35	N−16°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片6点、礫石器1点（第29図2）。小溝群3−65と重複。壁断面図L−Mの堆積土は10YR4/2シルト。
	65	E−10・11、F−8〜10	〈10.92〉	14〜38	2〜24	23	N−16°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片7点。小溝群3−64と重複。壁断面図L−Mの堆積土は10YR4/2シルト。
	66	E−10、F−7〜10、G−6・7	〈24.16〉	30〜55	13〜31	39	N−15°−E	小溝群3断面図（第14図） 壁断面E−F1層 壁断面E−F2層	 10YR3/2 10YR5/3	 シルト シルト	土師器片13点。SD3→小溝群3−66→SD1。P247に接する。壁断面図L−Mの堆積土は10YR4/3シルト。
	67	F−8〜10、G−6〜8	〈24.20〉	34〜61	8〜42	37	N−16°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片13点。SD3→小溝群3−67→P198・P245・SD1。小溝群3−68と重複。壁断面E−Fの堆積土は10YR4/2シルト。壁断面L−Mの堆積土は10YR3/4シルト。
	68	F−8・9、G−8	5.15	27〜44	13〜28	25	N−10°−E	F・G−8	10YR3/4	シルト	土師器甕片1点、土師器片1点。小溝群3−68→SD1。小溝群3−67と重複。
	69	F−9・10、G−6〜9	〈24.18〉	35〜66	8〜27	46	N−14°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器坏片1点、土師器片18点。SD3・SD4→小溝群3−69→P141・P143・P201・SD1。壁断面E−Fの堆積土は10YR3/3シルト。壁断面L−Mの堆積土は10YR3/3シルト。
	70	F−9・10、G−6〜10、H−6	〈24.03〉	29〜71	6〜46	34	N−15°−E	小溝群3断面図（第14図） 壁断面E−F 壁断面L−M	 10YR3/3 10YR3/3	 シルト シルト	縄文後期？土器片2点（第28図2・7）土師器口縁部片1点、土師器片17点。SD4→小溝群5−8・10→小溝群3−70→P144・P145・P196・P246・P257・SD1。
	71	F−10、G−6〜10、H−6・7	〈24.18〉	36〜58	14〜38	36	N−13°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器片9点。小溝群5−8・9→小溝群3−71→P190・SD1。壁断面E−Fの堆積土は10YR3/3シルト。壁断面L−Mの堆積土は10YR4/3シルト。
	72	G−8〜10、H−5〜8	〈23.57〉	28〜66	7〜35	51	N−15°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器坏片2点、土師器片22点。小溝群5−8・9・11〜13→小溝群3−72→P173・P181・SD1。壁断面E−Fの堆積土は10YR3/3シルト。壁断面L−Mは10YR3/4シルト。
	73	G−8〜10、H−5〜9	〈23.79〉	30〜55	7〜31	41	N−13°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器坏片6点、土師器片18点。小溝群5−1・2・9・11・13→小溝群3−73→P182・P195・SD1。SI1断面図の堆積土は10YR4/3シルト。壁断面E−Fの堆積土は10YR3/3シルト。壁断面L−Mの堆積土は10YR3/4シルト。
	74	G−9・10、H−5〜9	〈23.77〉	29〜55	7〜21	38	N−13°−E	小溝群3断面図（第14図）			土師器甕片1点、土師器片17点。須恵器坏片1点。SI1・SD3→小溝群5−1〜3・11→小溝群3−74→P191・P207・SD1。SI1断面図の堆積土は10YR3/3シルト。壁断面E−Fの堆積土は10YR3/3シルト。壁断面L−Mの堆積土は10YR4/3シルト。
	75	G−10、H−6〜10、I−5・6	〈23.74〉	38〜50	11〜33	34	N−11°−E	小溝群3断面図（第14図） 壁断面E−F1層 壁断面E−F2層	 10YR4/3 10YR4/2	 シルト シルト	土師器高坏片1点、土師器坏片1点、土師器片23点。SI1・SD3→小溝群5−2〜4・14→小溝群3−75→P188・P210・P223・SD1。SI1断面図の堆積土は10YR3/3シルト。壁断面L−Mの1層は10YR4/2シルト、2層は10YR5/3シルト。
	76	H−6〜8、I−5〜7	〈12.67〉	34〜52	7〜20	33	N−15°−E	小溝群3断面図（第14図）			SD3→小溝群5−3・4・6→小溝群3−76→SD1。小溝群5−2に接する。北壁断面の堆積土は上層が10YR3/4シルト、下層が10YR4/2シルト。

ピットから出土した遺物は土師器片 15 点、縄文時代後期と考えられる土器片 2 点、礫石器 1 点を数える。出土内訳は土師器片がＰ 10・30・61・121・143・145・146・229・241 よりそれぞれ 1 点、Ｐ 129 から 4 点、Ｐ 175 から 2 点出土した。縄文時代後期とした土器片はＰ 87 とＰ 129、礫石器はＰ 216 から出土し、それぞれ第 28・29 図に示した。ピットの個別の詳細については第 4 ～ 7 表のピット観察表を参照願いたい。

第４表　Ⅳ層上面ピット観察表（１）

〈 〉現存値、( )推定値

遺構	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模 cm 長径	短径	深さ	堆積土 土色	土性	備考	出土遺物・新旧関係（古→新）
P1	B－2	26	23	32	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P2	B－2	25	13	15	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－4→P2。
P3	C－1	18	16	14	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P4	C－1	35	30	41	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P5	B－2	35	30	19	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－4→P5。
P6	C－1	26	26	16	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P7	C－1	26	24	15	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P8	C－1	28	26	19	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P9	C－2	34	31	18	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－10に接する。
P10	C－1	35	30	24	10YR3/3暗褐色	シルト	－	土師器片1点。小溝群3－12→P10。
P11	D－1	17	16	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P12	D－1	23	19	17	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P13	B－2	40	39	26	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P14	C・D－2	46	40	29	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－14→P14。
P15	C－1	24	24	16	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	－	小溝群3－10→P15。
P16	D－2	34	28	28	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P17	D－2	36	〈28〉	35	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルトブロックやや多量。壁断面A－B。	小溝群3－22→P17。P45と重複。調査区東壁にかかる。
P18	D－2	25	21	21	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P19	C－2	19	18	23	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－6→P19。
P20	D－2	57	38	38	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－22→P20。
P21	D－2	29	24	18	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－17に接する。
P22	C－2	44	34	23	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	－	P23と重複。
P23	C－2	〈45〉	38	38	10YR3/4暗褐色	シルト	－	P22とP234に重複。
P24	C－2	24	23	14	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P25	C－2	36	〈33〉	32	10YR3/4暗褐色	シルト	－	P26と重複。
P26	C－2	52	〈24〉	24	10YR3/4暗褐色	シルト	－	P25と重複。
P27	C－2	17	17	6	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	－	－
P28	D－2	43	27	25	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－22→P28。
P29	C－2	36	32	30	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅲ層ブロック多量。	小溝群3－8→P29。
P30	C－2	37	30	42	10YR3/4暗褐色	シルト	－	土師器片1点。小溝群3－10→P30。
P31	C－2	22	18	9	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P32	C－2	29	27	28	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P33	C・D－2	39	〈31〉	24	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－14→P33。P236と重複。
P34	C－2	18	18	25	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群6－3→小溝群3－12→P34。
P35	D－2・3	38	35	14	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P36	C－2	42	37	48	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群6－1→小溝群3－8→P36。
P37	C－2	19	18	23	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P38	D－1	19	17	15	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－14→P38。
P39	B－2・3	60	30	37	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－2→P39。
P40	B－3	38	24	27	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－4→P40。
P41	B－3	33	28	26	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－2→P41。
P42	B－3	40	29	33	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－2→P42。
P43	B－3	49	31	34	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－4→P43。
P44	B－3	32	25	13	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－3→P44。
P45	D－2	36	〈33〉	21	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	－	小溝群3－22→P45。P17と重複。
P46	B－3	20	19	17	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P47	B－3・4	33	31	13	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P48	C－3	32	30	29	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群4－3に接する。
P49	B－3	33	28	24	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－3に接する。
P50	C－3	26	23	29	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P51	C－3	33	31	41	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－8→P51。
P52	C－3	26	20	32	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－8に接する。
P53	C－3	34	30	36	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－8→P53。
P54	B－3	28	24	11	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P55	B－3	17	16	27	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－4→P55。
P56	C－3	35	〈24〉	30	10YR3/3暗褐色	シルト	－	P57と重複。小溝群6－6に接する。
P57	C－3	28	20	19	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－6→P57。P56と重複。
P58	C－3	34	33	48	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－14に接する。
P59	C－3	30	29	10	10YR4/4褐色	シルト	－	－
P60	D－3	38	32	15	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。しまりやや強い。	－
P61	C・D－3・4	29	27	60	10YR3/3暗褐色	シルト	－	土師器片1点。小溝群3－17→P61。
P62	D－3	40	33	24	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。しまりやや強い。	SK2→P62。断面図第19図。
P63	B－4	22	21	12	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群6－11→P63。
P64	C－4	52	52	15	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－8→P64。P70と重複。
P65	C－4	28	28	38	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－10→P65。
P66	C－4	26	23	20	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P67	C－4	39	24	17	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－14→P67。P68と重複。
P68	C－4	24	〈21〉	10	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	－	P67と重複。小溝群6－7と小溝群3－14に接する。
P69	B－4	18	15	9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P70	C－4	27	23	38	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－8→P70。P64と重複。
P71	E－4	31	26	36	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－34→P71。
P72	D－4	51	41	53	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群6－8→P72。小溝群3－24に接する。
P73	C－4	23	20	43	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－17→P73。
P74	B－4	32	29	36	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－3→P74。小溝群4－1に接する。
P75	E－5	32	23	46	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－39→P75。
P76	D－4・5	31	27	9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－24に接する。

第５表　Ⅳ層上面ピット観察表（２）

〈 〉現存値、( )推定値

遺構	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模 cm 長径	短径	深さ	堆積土 土色	土性	備考	出土遺物・新旧関係（古→新）
P77	D－5	23	21	9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	Ⅲ層ブロック少量。	－
P78	C－5	32	25	42	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群1－6→P78。
P79	C－5	26	24	30	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P80	D－6	36	35	25	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－26→P80。
P81	C－6	66	43	34	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P82	C－6	32	31	19	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P83	B－6	33	27	49	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－8→P83。
P84	C－6	34	28	24	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P85	C－6	47	46	26	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－13→P85。
P86	C・D－2	(42)	34	30	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－14→P86。P87と重複。
P87	C・D－2	〈47〉	37	33	10YR3/4暗褐色	シルト	－	縄文後期土器片1点（第28図4）。小溝群3－14→P87。P86と重複。
P88	D－4	36	29	38	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群6－9→小溝群3－24→P88。
P89	D－4	54	30	38	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群6－7→小溝群3－22→P89。P90とP91に重複。
P90	D－4	44	〈34〉	4	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－22→P90。P89とP91に重複。
P91	D－4	〈52〉	〈45〉	12	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群6－7→小溝群3－22→P91。P89とP90に重複。
P92	C－6	39	34	28	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群1－11→P92。
P93	D－6	23	22	27	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－27→P93。
P94	D－6	31	30	34	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P95	D－6	31	29	51	10YR5/2灰黄褐色	シルト	砂質味ある。	小溝群3－24→P95。
P96	E－6	31	30	34	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P97	E－5	35	30	47	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/2灰黄褐色ブロック少量。	－
P98	E－6	34	33	26	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR6/2灰黄褐色粒子少量。	小溝群3－39→P98。
P99	E－7	26	24	19	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－42→P99。
P100	E－7	26	23	23	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－43→P100。
P101	E－7	30	24	15	10YR4/4褐色	シルト	－	小溝群3－43→P101。
P102	C－8	20	18	7	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P103	C－8	29	22	14	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P104	D－8	21	20	8	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子やや多量。	小溝群3－36→P104。
P105	E－7･8	36	31	9	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/2灰黄褐色粒子少量。	－
P106	E－8	33	31	35	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－46に接する。
P107	C－9	21	15	10	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－25→P107。
P108	C－9	18	18	12	10YR2/3黒褐色	シルト	－	小溝群3－25→P108。
P109	C－9	35	23	15	10YR3/2黒褐色	シルト	－	－
P110	C－9	37	31	18	10YR3/2黒褐色	シルト	－	－
P111	C－9	20	19	17	10YR3/2黒褐色	シルト	－	－
P112	C－9	29	26	32	10YR4/1褐灰色	シルト	Ⅴ層土ブロック少量。	小溝群3－30→P112。
P113	C－9	(33)	24	30	10YR4/1褐灰色	シルト	－	P114と重複。
P114	C－9	26	17	33	10YR4/2灰黄褐色	シルト	Ⅳ層・Ⅴ層混合土。	小溝群3－30→P114。P113と重複。
P115	C・D－9	25	21	32	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅴ層土ブロック少量。	小溝群3－30→P115。
P116	D－9	34	24	12	10YR3/2黒褐色	シルト	Ⅴ層土斑紋状に少量。	－
P117	D－9	30	28	20	10YR3/2黒褐色	シルト	－	－
P118	D－9	35	33	18	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層・Ⅳ層混合土。Ⅴ層斑紋状。	小溝群3－32→P118。
P119	D－9	30	28	19	10YR4/2灰黄褐色	シルト	Ⅴ層土斑紋状に多量。	－
P120	D－9	28	24	15	10YR3/2黒褐色	シルト	Ⅴ層土ブロック少量。	－
P121	D－9	29	18	12	10YR3/3暗褐色	シルト	－	土師器片1点。
P122	D・E－9	33	30	21	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－51→P122。
P123	E－9	31	29	21	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群3－53→P123。
P124	E－9	19	19	6	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/2灰黄褐色粒子やや多量。	－
P125	D－10	25	24	12	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子やや多量。	－
P126	D－10	23	22	15	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層土斑紋状に多量。	－
P127	D－10	45	41	47	10YR3/3暗褐色	シルト	下位10YR4/3にぶい黄褐色粒子多量。	小溝群3－46→P127。
P128	D－10	42	30	44	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群3－51→P128。
P129	D・E－10	49	35	37	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	縄文後期？土器片1点（第28図1）、土師器片4点。小溝群1－20→P129。
P130	C－6	38	38	20	10YR4/4褐色	シルト	－	小溝群3－11→P130。
P131	F－7	21	18	10	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P132	D－10・11	35	26	19	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P133	C－9	19	18	12	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P134	C－9	20	18	27	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅴ層土ブロック少量。	小溝群1－18→P134。
P135	E－9	36	〈28〉	14	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	下位10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。	小溝群3－53→P135。
P136	E－9	40	39	30	10YR4/2灰黄褐色	シルト	－	小溝群3－53→小溝群1－19→P136。
P137	E－9	36	31	15	10YR4/2灰黄褐色	シルト	－	P138と重複。
P138	E－9	44	40	42	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	P137と重複。
P139	E・F－6	37	31	39	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。Ⅴ層ブロック少量。	－
P140	C－9・10	〈48〉	〈19〉	30	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－28→P140。調査区西壁にかかる。
P141	F－10	21	17	22	10YR3/2黒褐	シルト	均質土。	小溝群3－69→P141。
P142	F・G－9	42	34	14	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	－
P143	G－9	42	39	25	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	土師器片1点。小溝群3－69→P143。断面図第14図。
P144	F・G－9	35	31	32	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	小溝群3－70→P144。
P145	G－9	31	24	20	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	土師器片1点。小溝群3－70→P145。
P146	J－12	40	35	41	7.5YR4/3褐色	シルト	鉄分少量。	土師器片1点。
P147	I－12	20	17	24	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	－
P148	I－12	34	32	12	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	－
P149	J－12	43	38	49	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	－

第６表　Ⅳ層上面ピット観察表（３）

〈 〉現存値、( )推定値

遺構	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模 cm			堆積土			出土遺物・新旧関係（古→新）
		長径	短径	深さ	土色	土性	備考	
P150	J－11・12	38	35	11	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	－
P151	J－11・12	15	13	9	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	－
P152	J－11	17	15	8	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P153	J－11	44	24	7	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	－
P154	K－12	21	21	29	7.5YR4/3褐色	シルト	鉄分混入。	－
P155	K－11	28	19	20	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	－
P156	K－11	34	26	9	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	－
P157	J－11	18	18	16	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	－
P158	K－11	19	19	13	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	－
P159	K－11	38	32	31	10YR3/3暗褐色	シルト	－	P160と重複。
P160	K－11	〈29〉	〈23〉	13	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック多量。	P159と重複。
P161	K－10・11	〈53〉	〈19〉	16	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	調査区東壁にかかる。
P162	K－11	東西42	南北〈21〉	19	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	北側撹乱受ける。
P163	H－12	27	23	29	7.5YR4/3褐色	シルト	鉄分少量。	－
P164	I－11	37	28	36	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群2－8に接する。
P165	I－11	35	27	34	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群2－8→P165。
P166	H－10	23	22	11	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	－
P167	H－11	24	23	26	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群2－4→P167。
P168	H－10	27	23	23	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群2－3→P168。
P169	J－10	26	18	20	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	小溝群2－9→P169。
P170	J－11	52	36	25	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群2－10→P170。
P171	G－8	33	32	37	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。Ⅴ層ブロック少量。	SD1→P171。
P172	G－8	32	27	11	10YR4/4褐色	砂質シルト	Ⅳ層・Ⅴ層の混合土。	－
P173	G－9	23	20	33	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。	小溝群3－72→P173。
P174	I－9	38	36	21	10YR3/3暗褐色	シルト	下位に10YR5/2ブロック少量。	小溝群5－26→P174。
P175	I－9・10	30	30	11	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	土師器片2点。小溝群5－27→P175。
P176	J－10	19	16	22	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/2粒子少量。	小溝群5－30→P176。
P177	J－10	30	29	12	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/2ブロックやや多量。	－
P178	H－9	41	33	29	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	－
P179	I－8	43	43	19	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	小溝群5－18→P179。
P180	J－9	31	30	16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色ブロック少量。	小溝群2－8→P180。
P181	G・H－7	29	29	31	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－72→P181。
P182	H－7	37	28	25	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群3－73→P182。
P183	H－7	30	27	25	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	－
P184	I－7	42	41	18	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群5－19→P184。
P185	I－7	26	25	15	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	小溝群2－1→P185。
P186	I－7	25	20	21	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	均質土。	小溝群5－3→P186。
P187	I－7	25	23	19	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群5－3→P187。
P188	H－6	40	〈33〉	20	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群3－75→P188。
P189	I－6・7	46	37	14	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック多量。	小溝群5－7→P189。
P190	H－6	37	32	15	10YR3/3暗褐色	シルト	下位に10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。	小溝群3－71→P190。
P191	H－6	34	33	21	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	小溝群3－74→P191。
P192	G－6	38	30	44	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	－
P193	F－6	39	37	31	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－60→P193。
P194	F－7	35	32	27	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群3－60→P194。
P195	H－7	23	20	18	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群3－73→P195。
P196	G－7	31	28	34	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－70→P196。
P197	G－6・7	29	29	42	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	－
P198	G－6	33	22	25	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	小溝群3－67→P198。
P199	F・G－6	20	20	11	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。	小溝群3－63→P199。P200と重複。
P200	F・G－6	24	21	24	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子やや多量。	小溝群3－63→P200。P199と重複。
P201	G－6	52	32	34	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－69に接する。
P202	H－6	22	21	29	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	－
P203	H－6	21	20	13	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－72に接する。
P204	H－6	18	16	10	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－72に接する。
P205	I－6	23	22	31	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	下位に10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。	小溝群5－7→P205。
P206	D－8	17	15	13	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	－
P207	G－9	35	31	17	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群3－74→P207。
P208	I－11	43	32	21	10YR3/3暗褐色	シルト	下位に10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	－
P209	E－9	36	31	24	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。炭化物微量。	－
P210	H－8	29	26	33	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群3－75→P210。
P211	E－10	〈17〉	〈12〉	31	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。	－
P212	C－8	21	18	12	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層・Ⅴ層の混合土。	－
P213	C－9	〈21〉	〈11〉	14	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。粘性強い。	調査区西壁にかかる。
P214	G－8	26	26	15	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－72に接する。
P215	H－8	30	28	21	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	－
P216	I－7	30	29	17	10YR3/4暗褐色	シルト	均質土。	礫石器1点（第29図6）。
P217	H－6	〈31〉	30	43	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックやや多量。	P217→SK1。P218と重複。
P218	H－6	〈47〉	〈20〉	67	10YR3/3暗褐色	シルト	－	P218→SK1。P217と重複。
P219	C－3	29	28	19	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。Ⅳ層土ブロック少量。	－
P220	D－4	37	25	19	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。	小溝群3－26→P220。
P221	C－5・6	25	23	28	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	均質土。	小溝群1－5に接する。
P222	E－7	〈27〉	24	24	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	均質土。	小溝群3－44に接する。
P223	H－6	43	31	53	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。	SD3→小溝群3－75→P223。

第７表　Ⅳ層上面ピット観察表（４）

〈 〉現存値、( )推定値

遺構	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模 cm			堆積土			出土遺物・新旧関係（古→新）
		長径	短径	深さ	土色	土性	備考	
P224	J－10	25	24	21	10YR4/4褐色	砂質シルト	Ⅳ層主体だが斑紋状にⅤ層少量。	－
P225	H－10	27	26	11	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群2－2に接する。
P226	H－9	23	20	9	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子やや多量。	SI1→P226。断面図第21図。
P227	D－3	45	30	46	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3暗褐色ブロック少量。	小溝群3－17→P227。P228とP230に重複。
P228	D－3	31	〈27〉	27	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層主体。	小溝群3－17→P228。P227とP229に重複。
P229	D－3	33	30	25	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴ層主体。炭化粒微量。	土師器片1点。P228と重複。
P230	D－3	39	30	18	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3暗褐色ブロック少量。	小溝群3－17→P230。P227と重複。
P231	D－3	23	21	18	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。Ⅴ層土斑紋状に少量。	小溝群6－6→P231。
P232	D－4	29	21	24	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群6－7→P232。
P233	I－12	27	〈22〉	29	10YR4/2灰黄褐色	シルト	グライ化進む。粘性強い。	調査区南壁にかかる。
P234	C－2	23	19	16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群6－1→P234。P23と重複。
P235	C－2	32	27	39	10YR3/2黒褐色	シルト	－	小溝群6－3→P235。
P236	C・D－2	44	38	28	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	－	小溝群6－3→P236。P33と重複。
P237	D－3	21	18	20	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅴ層・Ⅳ層斑紋状に混合。	小溝群6－4→小溝群3－22→P237。
P238	B－3	31	20	23	10YR3/3暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。斑紋状のⅤ層土少量。	小溝群6－7→P238。
P239	C－4	24	24	23	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。炭化粒少量。	小溝群6－8→P239。
P240	C－4	30	26	22	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。根撹乱か？	小溝群3－8→P240。
P241	C－4	(47)	26	30	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。根撹乱か？	土師器片1点。小溝群3－8→P241。P242と重複。
P242	C－4	〈31〉	24	23	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。根撹乱か？	P241と重複。
P243	C－6	22	19	30	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。	P244と重複。
P244	C－6	34	23	18	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層主体。Ⅴ層土粒子多量。	P243と重複。
P245	G－6	31	29	31	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。	小溝群3－67→P245。
P246	G・H－6	26	24	12	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。Ⅴ層粒子少量。	小溝群3－70→P246。
P247	F－10	24	23	19	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色ブロック少量。	小溝群3－66に接する。
P248	C－5	22	19	29	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群1－5→P248。小溝群6－15に接する。
P249	C－6	18	18	9	10YR3/4暗褐色	シルト	－	小溝群1－7→P249。
P250	C－6	28	27	17	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P251	D－6	21	21	20	10YR3/3暗褐色	シルト	－	－
P252	D－10	35	32	22	10YR3/4暗褐色	シルト	－	－
P253	E－9	29	27	17	10YR3/5暗褐色	シルト	－	P255と重複。
P254	E－9	36	31	24	10YR3/6暗褐色	シルト	－	P255と重複。
P255	E－9	31	24	20	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/2灰黄褐色粒子少量。	小溝群3－56→P255。P253とP254に重複。
P256	F－6	〈44〉	33	18	10YR3/3暗褐色	－	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックの混合土。	小溝群3－59→P256。
P257	G－6	83	64	62	10YR3/3暗褐色	シルト	－	SD3→小溝群3－70→P257。
P258	J－8	27	18	22	10YR3/3暗褐色	シルト	壁断面G－H（第4図）。	調査区東壁にかかる。
P259	G－10	21	〈10〉	12	10YR3/4暗褐色	シルト	壁断面L－M（第5図）。	上部撹乱受ける。調査区南壁にかかる。
P260	B－4	34	31	21	10YR3/3暗褐色	シルト	－	小溝群4－1→小溝群3－3→P260。
P261	J－9	27	25	14	10YR3/3暗褐色	－	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックの混合土。	小溝群5－31→P261。
P262	F－10	東西30	南北22	29	10YR3/3暗褐色	シルト	－	北側撹乱受ける。

第３節　Ｖａ層上面検出遺構

Ｖａ層上面検出遺構は、竪穴住居跡１軒、小溝状遺構群３群（小溝群４～６）、溝跡４条（ＳＤ２～５）、土坑３基（ＳＫ２～４）、性格不明遺構１基（ＳＸ１）である。小溝群４は溝３条のみであるが、西側調査区外に延びる小溝群の可能性をもつため小溝群とした。これら検出遺構は、直接の重複と基本層との関係から３段階に分かれる。最も新しい段階は小溝群４・５とＳＫ２、次に古い段階は小溝群６、最も古い段階はＳＩ１竪穴住居跡である。ＳＫ３・４はＶａ層中における直接の重複がないためどの段階に属すか不明である。

１．小溝状遺構群

小溝状遺構群４（第16図、図版２－２）

調査区北西側のＢ－３～５グリッド付近に検出され、ＳＤ２、小溝群３、Ｐ74・260に切られ、小溝群６を切る。小溝群４－１～３により構成され、方向は平均してＮ－３°－Ｅを向く。全長は小溝群４－１が3.43ｍ、４－２が12.72ｍ、４－３が14.60ｍを測る。上端幅13～40㎝、下端幅４～25㎝、深さは12～14㎝である。断面形はＵ字形が主体で、堆積土は４－１・２がにぶい黄褐色（10YR4/3）シルト、４－３がにぶい黄褐色砂質（10YR5/3）シルトとなる。小溝間の心々間隔は４－１と４－２間が2.2ｍ、４－２と４－３間が１ｍ前後となる。遺物は土師器片１点が出土した。

第15図　Ｖａ層上面全体図

小溝状遺構群 5（第 17 図、図版 2 － 3）

調査区東側のＧ～Ｊ－ 5 －11 グリッド内に検出された。小溝群 2 と 3 及びSD 1 に切られ、ＳＤ 3 とＳＩ 1 を切る。また、Ｐ 174・175・176・179・184・186・187・189・205・261 に切られる。小溝群 5 － 1 ～36 により構成され、検出範囲は長軸方向 28.3 m、その直交軸で 17.2 mとなる。各小溝の方向はＮ－ 2°－Ｗ～Ｎ－ 21°－Ｗの中に収まり、平均してＮ－ 9°－Ｗとなる。なお、Ｉ－ 6・7 グリッドで小溝群 5 － 6 と交差する小溝群 5 － 5 は小溝群 5 の方向性と異なるものであるが、地区内に同類の小溝群となるものが見あたらないため、今回は

小溝群 5 に含めている。今後必要に応じて分離も必要であろう。

小溝群５の上端幅は 11～61 ㎝、下端幅 2 ～44 ㎝、深さ 5 ～40 ㎝である。溝間の間隔は溝列の最も揃うＨ～Ｊ－９ グリッドで心々間隔 1.08～1.29 ｍである。断面形はＵ字形が基本となり台形となる部分もみられる。堆積土は暗褐色（10YR3/3～3/4）シルトが主体となり、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトや灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルトあるいは褐色（10YR4/4）砂質シルトとなる部分もみられる。遺物は土師器の小型壺とみられる破片１点と甕片を中心に 44 点が出土した。

小溝状遺構群 6（第 18 図、図版 3 － 2）

Ｂ～Ｅ－ 1 ～6 グリッド内に小溝群 6 － 1 ～18・21 が位置し、Ｃ・Ｄ－ 7 ・ 8 グリッド内に 6 －19・20 が位置する。小溝群 1 ・ 3 ・ 4 、ＳＸ 1 及びＰ 36・56・62・66・72・89 ～ 91・231・232・234 ～ 239・248 に切られる。本群北側にある 6 －18、 6 －21 及び南側に遊離する 6 －19･20 は方向性が異なり分離する必要もあろうが、今回は最も古い小溝として本群に含めた。溝列の揃う小溝群 6 － 1 ～16 は溝の長軸方向で 14.7 ｍ､その直交方向で 20 ｍの範囲に広がる。方向はＮ－ 77°－ＷからＮ－ 85°－Ｗの中に収まり、平均してＮ－ 79°－Ｗとなる。 6 － 1 ～16 は上端幅 13～61 ㎝、下端幅 4 ～35 ㎝、深さ 4 ～30 ㎝を測り、溝間の間隔は部分的に 1.8～2.0 ｍに広がる箇所があるが、心々距離で 1.1～1.3 ｍのほぼ等間隔が基本となっている。遺物は土師器片が 1 点出土した。

2. 溝　跡

ＳＤ 2 溝跡（第 16 図、図版 12 － 1）

Ｃ－ 2 ～Ｂ－ 7 グリッドにかけて推定される溝であり、第 16 図に推定線で示している。調査時点では弱い帯状グライ化部分と判断したため完掘には至っていない。検出長は 27.8 ｍで調査区外にかけて南北方向に延びている。調査区北壁の壁面 1 で観察すると（写真図版 12 － 1)、上端幅 80 ㎝前後を測り、深さは 19 ㎝まで確認した。断面形は台形状が推定でき、堆積土は上層が褐灰色（10YR6/1）シルト、下層とみられる部分はにぶい黄褐色（10YR5/3）シルトである。

ＳＤ 3（第 4 ・19 図、図版 4 － 2）

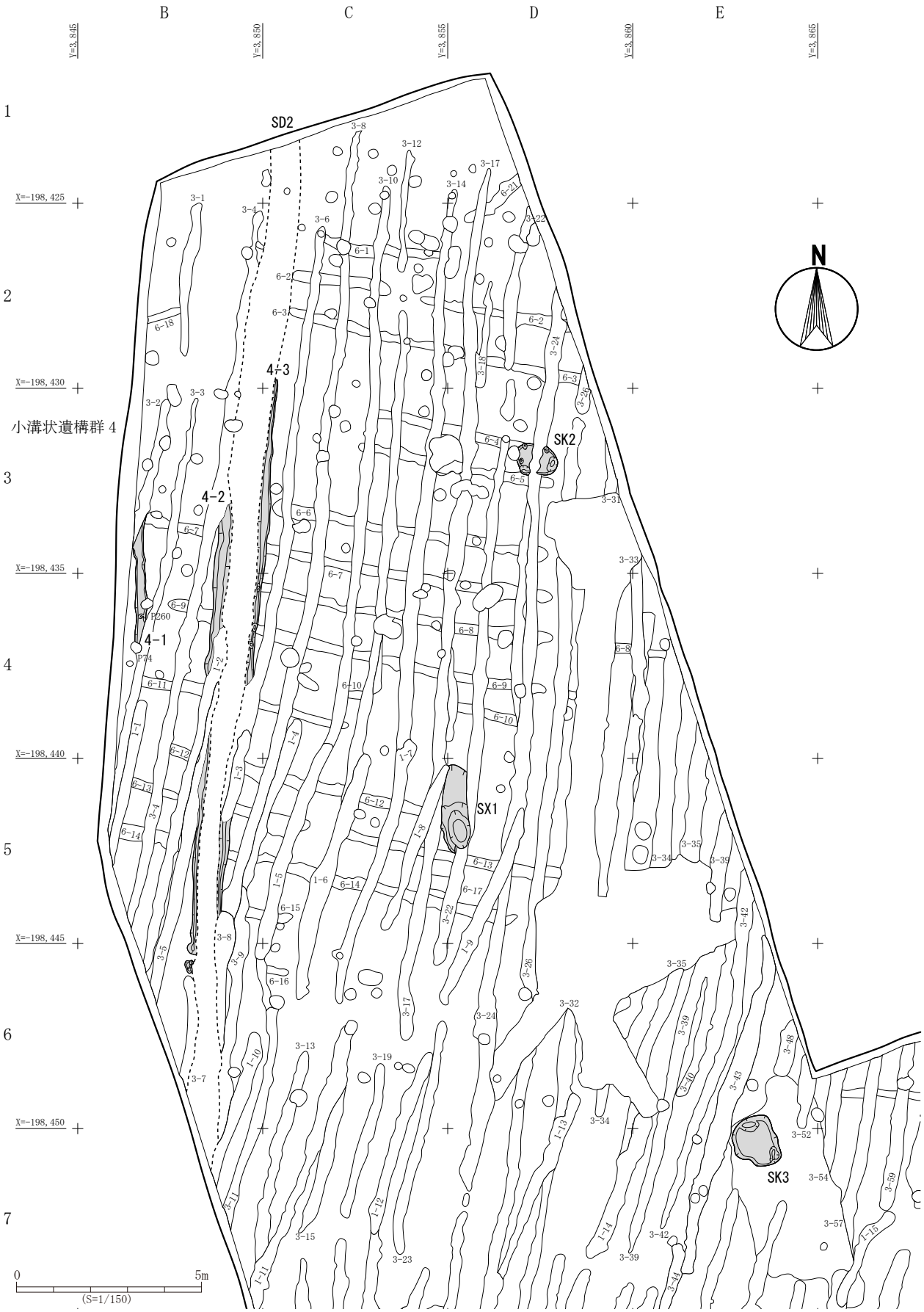
Ｆ～Ｉ－ 6 グリッドに位置し、小溝群 3 ・ 5 、Ｐ 223・257 に切られる。中央で途切れるが 18.32 ｍの検出長で、Ｎ－89°－Ｗと東西に直線的に延びる。上端幅 14～50 ㎝、下端幅 3 ～29 ㎝、深さ 16 ㎝を測る。第 4 図の壁断面に示したように断面形は皿形で、堆積土はにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ 4（第 19 図、図版 4 － 2）

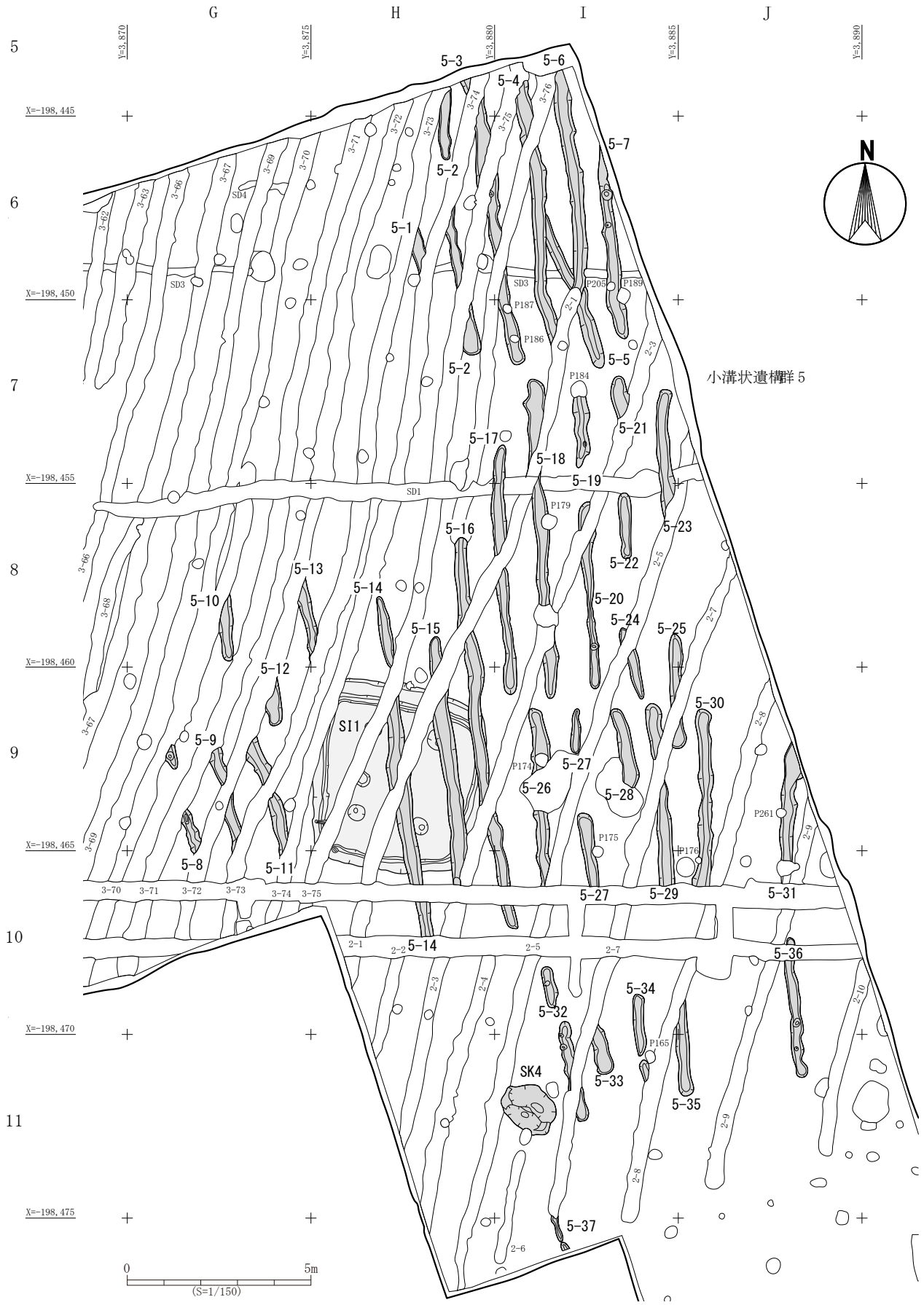
Ｇ－ 6 グリッドに位置し、小溝群 3 に切られる。検出長 1.34 ｍ、上端幅 14～32 ㎝、下端幅 5 ～21 ㎝、深さ 19 ㎝で、方向はほぼ東西方向を向き、ＳＤ 3 と平行するようにも見受けられる。断面形は皿形で、堆積土はにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトである。遺物は出土していない。

ＳＤ 5（第 15 図）

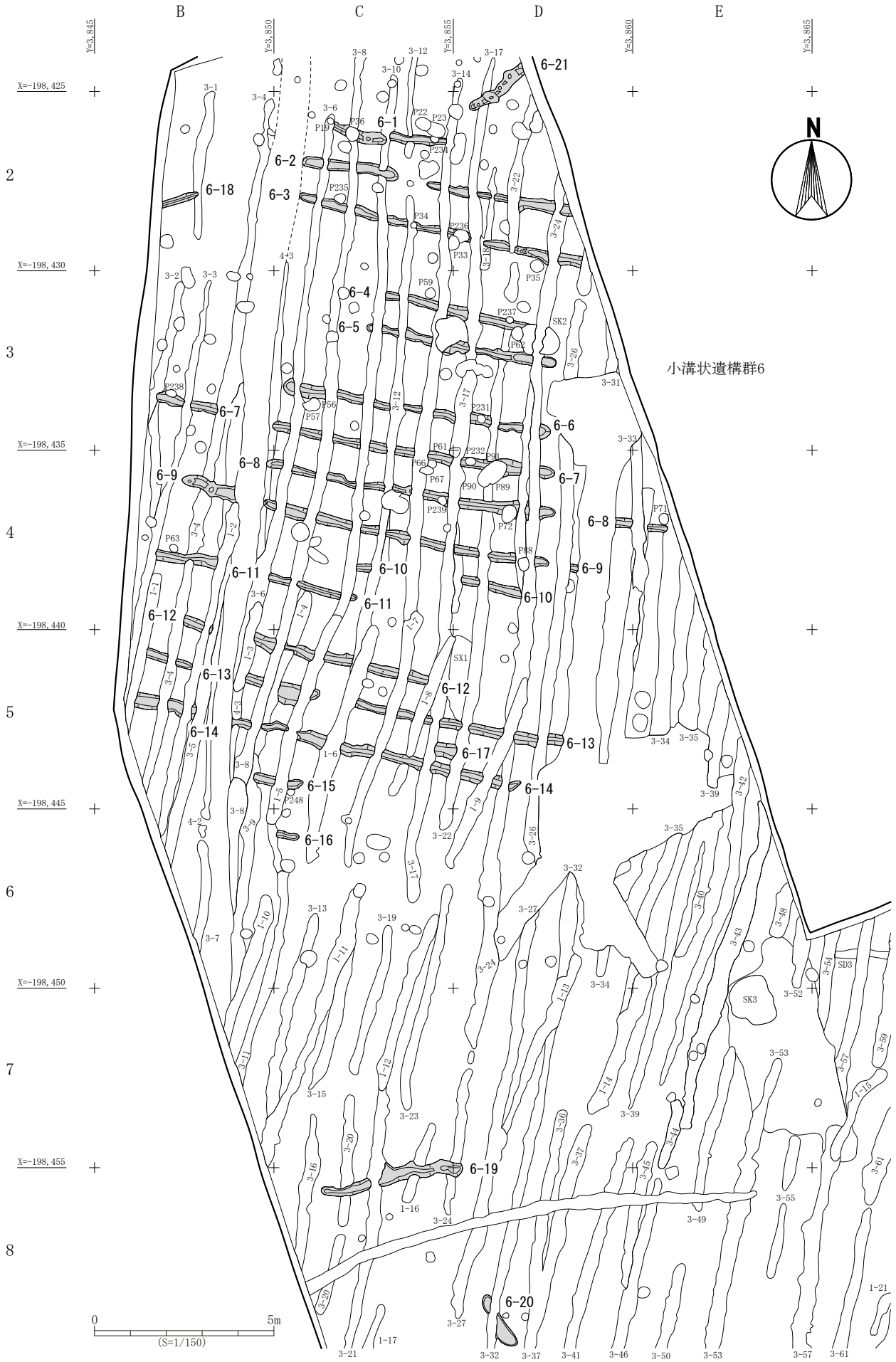
Ｋ－12 グリッドに位置し、東側に撹乱を受ける。位置的にみて小溝群には組み込まれない単独のあり方であり、堆積土も小溝群にみられるⅣ層を基本としたものではないため溝跡とした。検出長 0.64 ｍ、上端幅 19～23 ㎝、下端幅 9 ～10 ㎝、深さ 6 ㎝である。断面形は皿形で、堆積土は褐色（10YR4/4）粘土質シルトで、径 2 ～ 4 ㎜の炭化物を含んでいる。遺物は土師器片 1 点が出土した。



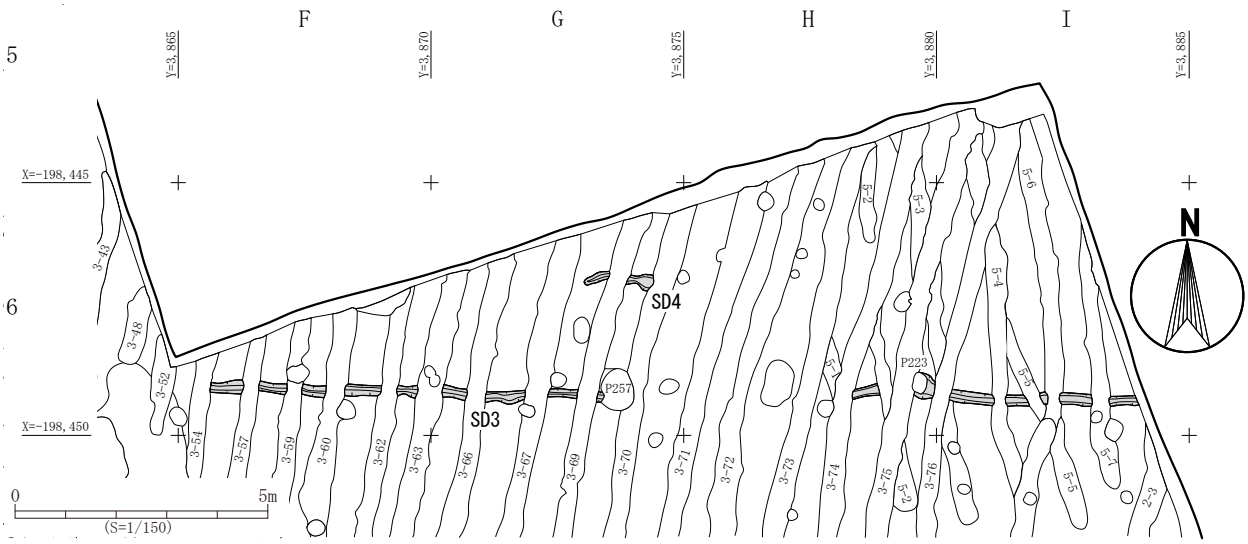
第16図　Ｖａ層上面遺構平面図（小溝群４、ＳＤ２、ＳＫ２・３、ＳＸ１）



第17図　Ｖａ層上面遺構平面図（小溝群５、ＳＫ４、ＳＩ１）



第18図　Ｖａ層上面遺構平面図（小溝群６）



第19図　Ｖａ層上面遺構平面図（ＳＤ３･4）

3. 土　坑

ＳＫ２ 土坑（第16・20図、図版 9－3・4）

Ｄ－3 グリッドに位置する。小溝群 3－24 とＰ 62 に切られ、小溝群 6－4・5 を切る。平面形は楕円形で、規模は115×87㎝、深さ 8 ㎝である。長軸方向はＮ－72°－Ｗを向く。断面形は皿形で、底面中央はほぼ平坦であるが、壁際に窪みが 5 箇所認められる。堆積土は 3 層に分層され、1 層が暗褐色シルト（10YR3/4）、2 層がにぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルト、3 層が暗褐色（10YR3/4）シルトである。遺物は出土していない。

ＳＫ３ 土坑（第16・20図、図版 9－5・6）

Ｅ－6・7 グリッドに位置し、上部に撹乱を受けていた。平面形は不整楕円形で、規模は140×121㎝、深さ22㎝である。長軸方向はＮ－20°－Ｗを向く。堆積土は 3 層に分層され、1 層が暗褐色（10YR3/4）シルト、2 層が暗褐色（10YR3/3）シルト、3 層がにぶい黄褐色（10YR4/3）砂質シルトで、1 層はブロック混合土、2 層は弱くグライ化を受けた均質土、3 層はＶａ層崩落土と考えられる。遺物は出土していない。

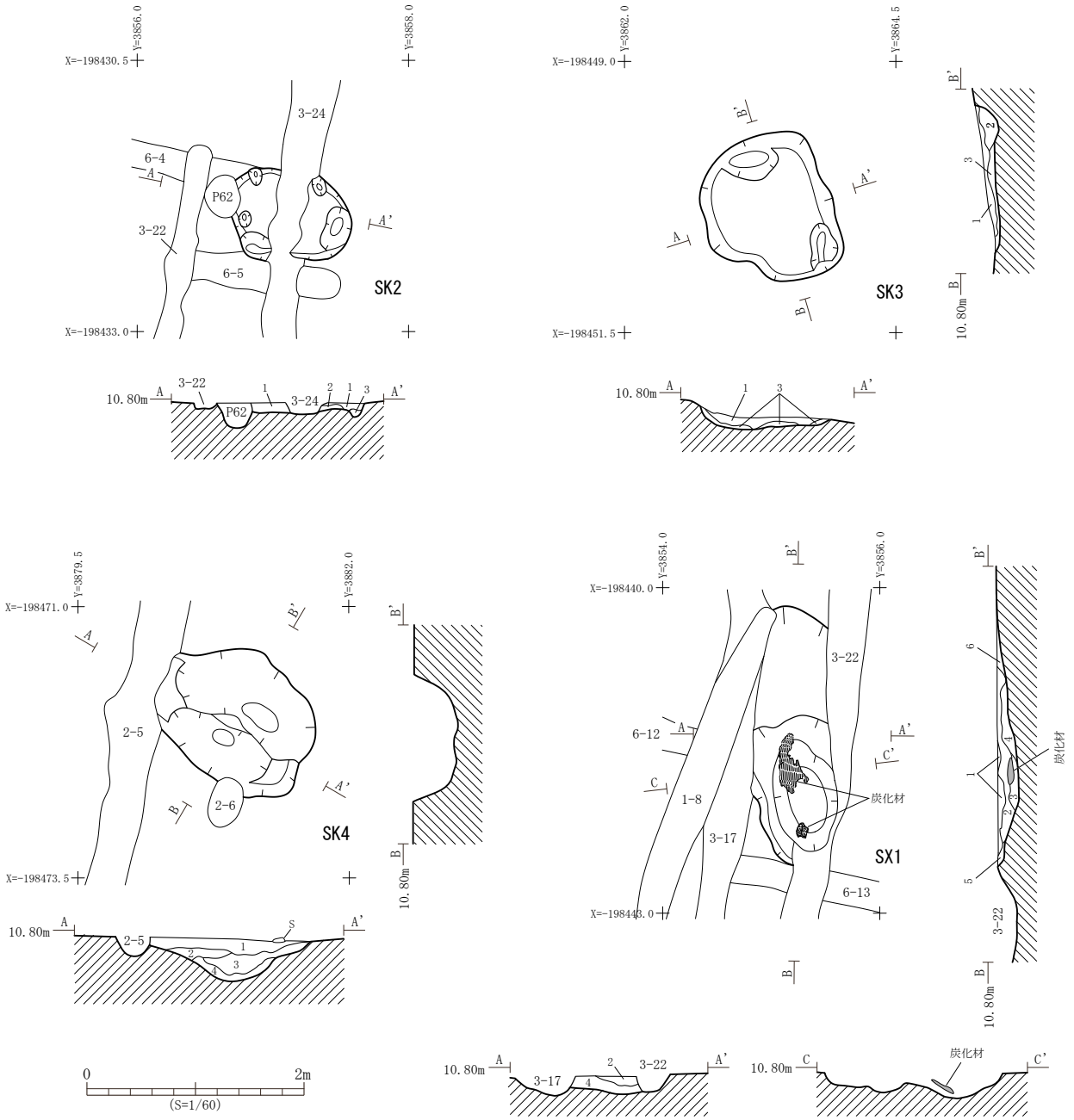
ＳＫ４（第17・20図、図版 9 － 7・8）

Ｉ－11 グリッドに位置し、小溝群 2 － 5・6 に切られる。平面形は不整楕円形であり、規模は長軸方向が検出長152㎝、直交軸が121㎝、深さ41㎝である。堆積土は 4 層に分層され、1・2 層が褐色（10YR4/4）シルト、3 層がにぶい黄褐色（10YR4/3）シルト、4 層がにぶい黄褐色（10YR5/3）シルトである。2～4 層にはＶａ層粒子が混入するが、とくに 3・4 層が顕著である。遺物は土師器小片10点、礫 6 点が出土した。土師器の中には小型丸底壺と考えられる破片 1 点が含まれ、その他は土師器甕と思われる口縁部、胴部、底部片である。

4．性格不明遺構

ＳＸ１（第16・20図、図版12－ 4・5）

Ｃ･Ｄ－ 5 グリッドに位置する。小溝群 1 － 8、3 －17･22に切られ、小溝群 6 －13を切る。平面形は楕円形と推測され、現存する長軸長235㎝、短軸長は77㎝、深さは20㎝である。掘り込み内からは炭化材や焼土が出土したが、底面や壁面の被熱状況は明瞭には観察できず、掘り込み内で焼成行為等が行われたかは不明である。堆



遺構	層位	土色	土性	備考
SK2	1	10YR3/4暗褐色	シルト	Ⅳ層主体。
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴa層崩落土。
	3	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層主体。
SK3	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック・10YR3/3暗褐色シルトブロック・10YR6/1褐灰色シルトブロックの混合土。締まりやや強い。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。弱いグライ化進む。10YR6/2灰黄褐色粒子少量。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅴa層崩落土？
SK4	1	10YR4/4褐色	シルト	締まり強く、粘りやや弱い。
	2	10YR4/4褐色	シルト	Ⅴa層粒子流入。1層より色調やや明るい。締まり・粘性ある。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	Ⅴa層粒子多量。
	4	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。Ⅴa層粒子多量。締まりやや弱く、粘性ある。
SX1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	炭化粒微量。焼土粒微量。締まり・粘性ある。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化粒・炭化材片やや多量。焼土粒やや多量。径5mm前後の焼土小ブロックやや多量。締まり・粘性ある。
	3	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化材・炭化粒多量。焼土粒多量。径5～8mmの焼土小ブロックやや多量。締まり・粘性ある。
	4	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	炭化粒微量。焼土粒微量。10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。締まりあり、粘性やや強い。
	5	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。締まり・粘性ある。
	6	10YR5/2灰黄褐色	粘土質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。締まりあり・粘性やや強い。

第20図　ＳＫ２～４土坑、ＳＸ１性格不明遺構平面・断面図

第８表　Ｖａ層上面小溝状遺構群観察表

<>現存地、()推定値

小溝群番号		位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	規模（全長ｍ、他cm） 全長	上端幅	下端幅	深さ	方向	堆積土 地点	土色	土性	出土遺物・新旧関係(古～新)・備考
4	1	B－3・4	3.43	25～36	13～22	14	N－2°－W	西壁断面	10YR4/3	シルト	小溝群6－7→小溝群4－1→小溝群3－2・小溝群3－3・P74・P260。
	2	B－3～6	12.72	13～40	4～25	12	N－4°－E	B－3	10YR4/3	シルト	土師器片1点。小溝群6－9・12→小溝群4－2→小溝群3－4・5→小溝群1－2。
	3	B－3～5、C－2～4	14.60	10～31	3～20	12	N－6°－E	B－3	10YR5/3	シルト	砂質味ある。小溝群6－7～9・14→小溝群4－3→小溝群3－6・8→小溝群1－3。P48に接する。
5	1	H－6	0.59	37～38	29～31	5	N－21°－W	H－6	10YR3/3	シルト	小溝群5－1→小溝群3－73・74。
	2	H－5～7	<7.09>	21～48	13～39	12	N－9°－W	H－6	10YR3/3	シルト	SD3→小溝群5－2→小溝群3－73～75。小溝群3－76に接する。
	3	H－5・6、I－6・7	<7.89>	25～61	17～28	27	N－10°－W	I－6	10YR3/3	シルト	SD3→小溝群5－3→小溝群3－74～76・P186・P187。
	4	I－5～7	<7.07>	32～44	11～34	15	N－7°－W	I－6	10YR4/3	シルト	SD3→小溝群5－4→小溝群3－75・76・小溝群2－1。小溝群5－5と重複。
	5	I－6・7	4.27	29～44	9～19	18	N－25°－W	I－7	10YR3/4	シルト	SD3→小溝群5－5→小溝群2－1。小溝群5－4・6と重複。
	6	I－5・6	<6.00>	31～48	14～28	13	N－5°－W	I－5	10YR4/3	シルト	SD3→小溝群5－6→小溝群3－76・小溝群2－1。小溝群5－5と重複。
	7	I－6・7	<5.23>	28～48	12～26	31	N－5°－W	I－6	10YR4/2	砂質シルト	SD3→小溝群5－7→P189・P205。
	8	G－9・10	0.95	24～35	12～19	11	N－20°－W	G－9	10YR4/4	砂質シルト	土師器片1点。小溝群5－8→小溝群3－70～72。
	9	G－9・10	2.42	32～36	13～23	17	N－14°－W	G－9	10YR4/4	砂質シルト	小溝群5－9→小溝群3－71～73。
	10	G－8	1.77	29～36	15～25	11	N－6°－W	G－8	10YR3/4	シルト	土師器片1点。小溝群5－10→小溝群3－70。
	11	G－9・10	2.91	31～47	16～26	13	N－19°－W	G－9	10YR3/4	シルト	小溝群5－11→小溝群3－72～74。
	12	G－9	0.85	36～44	25～36	12	N－7°－W	G－9	10YR4/3	シルト	小溝群5－12→小溝群3－72。
	13	G・H－8	1.51	29～37	12～24	11	N－17°－W	G－8	10YR3/3	シルト	小溝群5－13→小溝群3－72・73。
	14	H－8～10	9.33	27～58	10～39	32	N－8°－W	SI1断面	10YR3/4	シルト	土師器片14点。SI1→小溝群5－14→小溝群3－75・小溝群2－1。
	15	H－8～10	6.76	36～50	21～32	22	N－7°－W	SI1断面	10YR3/3	シルト	土師器片11点。SI1→小溝群5－15→小溝群2－1・3。
	16	H－8～10、I－9・10	10.72	29～45	18～29	22	N－6°－W	SI1断面	10YR3/4	シルト	土師器片3点。小溝群5－16→小溝群3－76・小溝群2－1・3。
	17	H－7・8、I－7～9	6.79	22～38	8～23	17	N－3°－W	I－7	10YR3/4	シルト	小溝群5－17→小溝群2－1・SD1。
	18	I－7～9	8.69	30～45	11～44	17	N－3°－W	I－7	10YR3/4	シルト	土師器片1点。小溝群5－18→小溝群2－1・小溝群2－3・P179→SD1。
	19	I－7～9	1.96	33～46	11～15	27	N－6°－W	I－7	10YR3/4	シルト	小溝群5－19→P184。
	20	I－8・9	5.08	11～29	2～19	15	N－3°－W	I－7	10YR3/4	シルト	小溝群5－20→小溝群2－3。
	21	I－7	1.00	33～51	19～32	14	N－10°－W	I－7	10YR3/3	シルト	小溝群5－21→小溝群2－3。
	22	I－8	1.77	24～34	11～23	10	N－4°－W	I－8	10YR3/4	シルト	小溝群5－22→SD1。
	23	I－7・8	3.49	30～36	19～27	40	N－2°－W	2溝群A－A'	10YR4/3	シルト	小溝群5－23→小溝群2－5・SD1。
	24	I－8・9	2.00	19～31	7～21	8	N－14°－W	I－8	10YR4/3	シルト	小溝群5－24→小溝群2－5。
	25	I－8・9、J－8・9	3.12	30～38	15～22	14	N－2°－W	I－8	10YR3/4	シルト	小溝群5－25→小溝群2－7。
	26	I－9・10	4.63	31～52	11～35	26	N－4°－W	I－9	10YR4/3	シルト	小溝群5－26→小溝群2－5・P174。
	27	I－9・10	4.85	17～40	4～32	14	N－5°－W	I－9	10YR3/4	シルト	土師器小型壺片1点、土師器片2点。小溝群5－27→P175。
	28	I－9	2.18	34～45	22～34	12	N－12°－W	I－9	10YR3/4	シルト	土師器片2点。
	29	I－9・10	4.98	29～42	15～25	16	N－5°－W	I－9	10YR4/3	シルト	土師器片3点。小溝群5－29→小溝群2－7。
	30	J－9・10	4.83	23～42	9～27	26	N－1°－W	J－9	10YR4/3	シルト	土師器片2点。小溝群5－30→小溝群2－8・P176。
	31	J－9・10	<3.24>	29～49	13～41	28	N－5°－E	J－9	10YR3/3	シルト	小溝群5－31→P261。
	32	I－10・11	4.32	30～35	11～27	15	N－14°－W	I－10	10YR3/4	シルト	土師器片2点。小溝群5－32→小溝群2－7。
	33	I－10・11	1.16	41～45	24～38	9	N－19°－W	I－10	10YR3/4	シルト	土師器片2点。小溝群5－33→小溝群2－7。
	34	I－10・11	2.38	28～31	11～21	10	N－6°－W	I－10	10YR3/4	シルト	小溝群5－34→小溝群2－8。P165に接する。
	35	I－10・11、J－10・11	2.49	29～39	14～24	12	N－6°－W	J－10	10YR3/4	シルト	小溝群5－35→小溝群2－8。
	36	J－10・11	3.81	21～33	12～21	18	N－7°－W	J－10	10YR3/4	シルト	－
	37	I－12	<1.12>	11～20	3～9	4	N－21°－W	I－12	10YR4/2	シルト	グライ化進む。10YR5/3にぶい黄褐色やや多量。
6	1	C－2	3.14	18～35	7～15	27	N－85°－W	C－2	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－1→小溝群3－6・8・10・12・14→P36・P234。
	2	C・D－2	<7.58>	13～42	5～24	12	N－79°－W	C－2	10YR4/3	砂質シルト	小溝群6－2→小溝群3－6・8・10・14・17・18・22・24。
	3	C・D－2	8.08	15～36	5～21	16	N－77°－W	C－2	10YR4/3	砂質シルト	小溝群6－3→小溝群3－6・8・10・12・14・17・18・22・24・26及びP33・P34・P235・P236。
	4	C・D－3	3.91	20～30	9～18	7	N－77°－W	C－3	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－4→SK2。小溝群6－4→小溝群3－10・12・14・17・22及びP62・P237。
	5	C・D－3	5.38	16～35	8～21	16	N－79°－W	C－3	10YR3/3	シルト	土師器片1点。小溝群6－5→SK2→小溝群3－24。小溝群6－5→小溝群3－10・12・14・17・22。
	6	C・D－3	7.56	20～38	8～17	22	N－80°－W	C－3	10YR4/2	砂質シルト	小溝群6－6→小溝群3－6・8・10・12・14・17・22・24及びP56・P231。
	7	B－3、C－3・4、D－4	11.19	20～52	6～16	11	N－78°－W	B－3	10YR4/3	砂質シルト	小溝群6－7→小溝群4－3→小溝群3－2～4・6・8・10・12・14・17・22・24及びP89・P90・P91・P232・P238。P68に接する。
								C－4	10YR4/3	砂質シルト	
	8	B～E－4	11.27	14～35	4～14	13	N－81°－W	B－4	10YR4/3	砂質シルト	小溝群6－8→小溝群4－3→小溝群3－6・8・10・12・14・17・22・24・33・34及びP72・P239。
								E－4	10YR3/4	シルト	
	9	B・C・D－4	11.32	22～37	6～20	30	N－77°－W	C－4	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－9→小溝群4－2・3→小溝群3－4・6・8・10・12・14・17・22・24・26。
	10	C・D－4	4.62	20～27	7～13	14	N－82°－W	C－4	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－10→小溝群3－10・12・17・22・24。
	11	B・C－4	5.71	19～34	6～21	8	N－78°－W	B－4	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－11→小溝群3－3・4・6・8・10→小溝群1－2。P63に接する。
	12	B－4・5、C－5	6.97	27～43	10～21	12	N－77°－W	B－5	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－12→小溝群4－2→小溝群3－4・5・8・12→小溝群1－2～8。
	13	B～D－5	11.86	19～61	8～35	14	N－78°－W	B－5	10YR4/3	砂質シルト	小溝群6－13→小溝群3－4・8・17・22・24・26→小溝群1－1～9。小溝群6－13→SX1→小溝群3－17・22→小溝群1－8。
	14	B・C・D－5	10.89	18～45	8～24	15	N－78°－W	C－5	10YR3/4	砂質シルト	小溝群6－14→小溝群4－3→小溝群3－4・5・8・17・22・24→小溝群1－1・2・4～9。
	15	B・C－5	1.25	24～29	10～15	12	N－84°－W	C－5	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－15→小溝群3－9→小溝群1－5・P248。
	16	C－6	0.59	16～20	6～9	4	N－81°－W	C－6	10YR3/4	砂質シルト	小溝群6－16→小溝群3－11。
	17	C・D－5	0.46	38～44	14～22	17	N－80°－W	D－5	10YR3/4	シルト	小溝群6－17→小溝群3－17・22。
	18	B－2	<0.91>	17～21	5～6	9	N－73°－E	B－2	10YR3/3	シルト	小溝群6－18→小溝群3－1。
	19	C－7・8、D－7・8	3.98	21～59	6～45	21	N－74°－E	C－8	10YR4/4	砂質シルト	小溝群6－19→小溝群3－20・21・24→小溝群1－16。
	20	D－8	1.62	28～42	24～34	5	N－30°－W	D－8	10YR4/3	シルト	小溝群6－20→小溝群3－32。
	21	D－1・2	<1.84>	24～41	4～16	33	N－50°－E	壁断面A－B	10YR4/2	砂質シルト	小溝群6－21→小溝群3－17。

積土は 6 層に分層され、とくに 3 層中に炭化材や焼土ブロック・焼土粒が集中している。土器類は出土していない。

５．竪穴住居跡

ＳＩ１ 竪穴住居跡（第17・21～23図、図版６～８）

〔位置・新旧関係〕Ｈ－９・10グリッドに位置し、小溝群２・３・５、Ｐ226に切られる。平面形は隅丸方形で、炉の位置からみて主軸方位はＮ－80°－Ｗとほぼ東西方向を向いている。規模は主軸方向で4.56ｍ、その直交軸で5.09ｍ、深さ30㎝である。

〔堆積土〕床面までの堆積土は６層に分層されるが、土色・土性の差により大きく１層と２～６層に分けられる。下位の２～６層は灰黄褐色あるいはにぶい黄褐色シルトで黄褐色砂粒を含んでおり、床面直上から壁際にかけて流入した第１次堆積土としてまとめることができる。上位の１層は比較的Ⅳ層に近い暗褐色シルトで、グライ化したにぶい黄褐色土シルトブロックをやや多量含むことより人為的埋め土とも見受けられるものである。

〔床面・壁面〕床面は掘り方埋め土により作られる。堆積土と掘り方埋め土層の境は締まりや土性の差がそれほどないが、炉・柱穴、間仕切り状の溝、あるいは黒褐色床範囲の確認面となったことより床面と認定した。この床面では周溝が部分的に確認されている。壁は直線的に開いて立ち上がり、東壁と西壁はさらに外側に掘り方を伴うものであった。この掘り方の底面は床面状に平坦であり、掘り方完掘時の平面形は一回り大きくなる隅丸方形であった。この壁裏掘り方の土層状態はにぶい黄褐色シルトが主体土となる。

〔柱穴・周溝〕主柱穴Ｐ１～４が整然と長方形に配置される４本柱構造となる。平面形は円形もしくは楕円形となり、径36～56㎝、深さはＰ１が51㎝、Ｐ２が45㎝、Ｐ３が57㎝、Ｐ４が40㎝である。Ｐ３には柱痕跡が確認できたが、Ｐ１とＰ２の断面もその可能性がある。また、床下掘り方調査の際に深さ８㎝～21㎝のピット状の落ち込みを３個確認したが、配置と規模からみて建て替え等に関連するものではない。周溝は幅20～25㎝、深さ５～25㎝で巡り、断面形はＵ字形である。住居北側の周溝は壁の内側に巡っている。７～10層が周溝堆積土であり、いずれも砂質味を帯びたにぶい黄褐色シルトである。この周溝内の上部には掘り方埋め土層の一部がのっており、住居使用時に開口していなかった可能性も考えられる。その場合、壁板等の施設が想定できるが断面等にそれを示す痕跡は認められなかった。

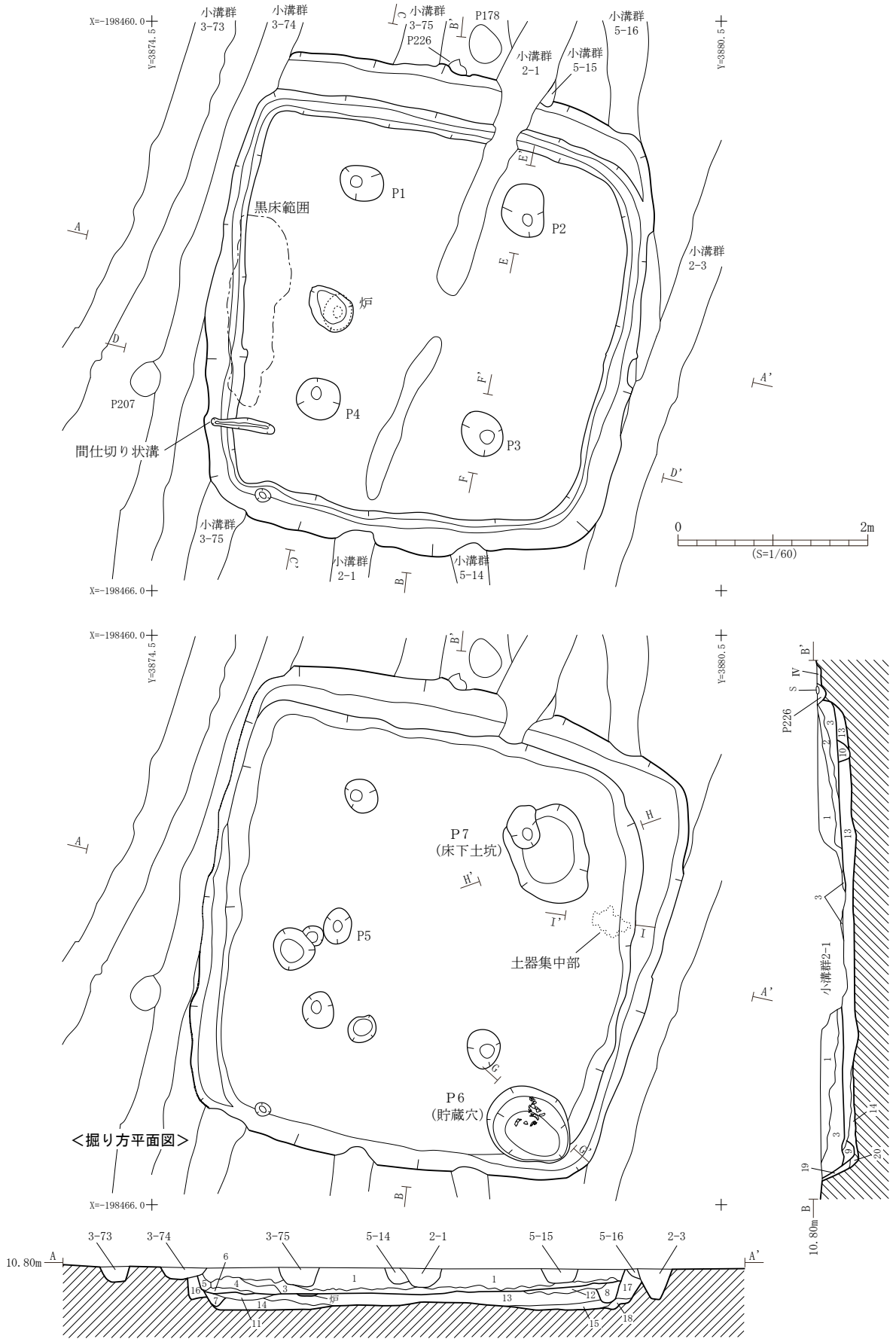
〔炉〕Ｐ１とＰ４の中間に配置され、規模は径55×39㎝、深さ５㎝である。堆積土は暗褐色シルトで、炭化粒を微量含む。底面に被熱による硬化はない。Ｐ５は炉下ピットであり、規模は径38×29㎝、深さ26㎝である。

〔付帯施設〕南西側の床面から周溝上にかけて長さ68㎝、幅７～13㎝、深さ３～６㎝の間仕切り状の溝が確認された。堆積土は暗褐色（10YR3/4）シルトであり、床面との土色差により明瞭に識別できた。

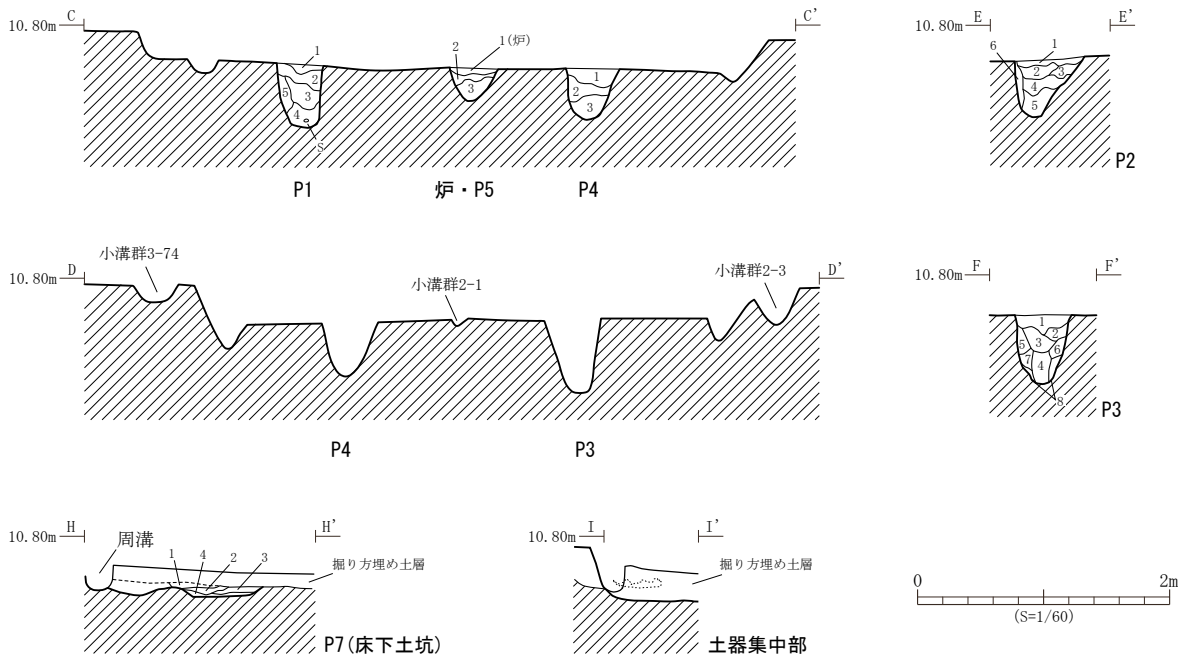
〔掘り方埋め土〕掘り方埋め土層のうち黒褐色である11層以外の12～15層はⅤa層に類似するにぶい黄褐色シルトであり、13層中には炭化粒を微量含み、15層は地山と比較して粘性の強いものであり、ここまでが掘り方埋め土とみられる。なお、掘り方底面の地山は土性に砂質味が増す点、あるいは掘り込み深度（35～45㎝）からみてⅤb層上面前後と考えられる。

掘り方埋め土の下にはＰ６を検出した（第23図）。平面形は楕円形であり、規模は94×78㎝、深さは床面から48㎝、掘り方面からは36㎝である。堆積土は９層から成り、１層が暗褐色シルト、２・３・５～８層がにぶい黄褐色シルト、４・９層が灰黄褐色シルトで、６層はⅤa層のブロックとみられる。投げ込まれたような遺物出土状況から貯蔵穴が人為的に埋められた可能性がある。この他、柱穴の調査中Ｐ２の側面に焼土集中箇所が確認されていたが、精査の結果床下の土坑Ｐ７と判断できるものであった。堆積土は４層に分層され、焼土粒・焼土ブロックはとくに２層中に集中する。この土坑の南東脇の掘り方埋め土中には土器集中部がある。

〔建て替え〕前述のような壁の掘り方の存在、貯蔵穴の埋め戻し状況、床下にみられた土坑や土器集中部のあり方、さらに旧貯蔵穴と掘り方埋め土より出土した土器片が接合する状況などから、建て替え等が行われていると考えられるものである。

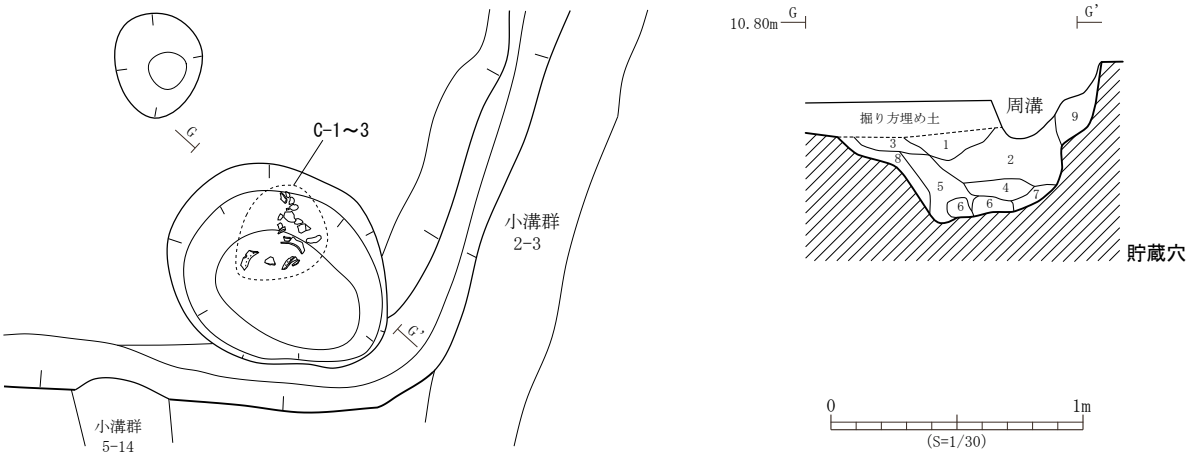


第21図　ＳＩ１竪穴住居跡平面・断面図



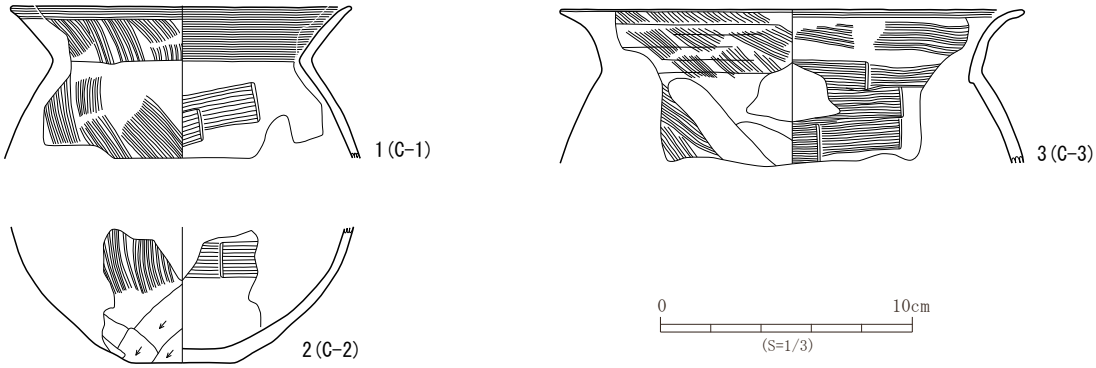
第22図　ＳＩ１竪穴住居跡柱穴・Ｐ７（床下土坑）・土器集中部断面図

施 設	層 位	土 色	土 性	備 考
住居内	1	10YR3/3暗褐色	シルト	グライ化した10YR6/3にぶい黄褐色ブロック多量。締まりやや強く、粘性ある。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色ブロック少量。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒少量。締まり・粘性ある。
	4	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。均質土。10YR5/3にぶい黄褐色土砂粒主体。締まり・粘性ある。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	均質土。締まり・粘性ある。
	6	10YR4/2灰黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒少量。
周溝	7	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。Ⅴ層主体土ブロック多量。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まりやや弱く、粘性ある。
	8	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。締まりあり、粘性弱い。
	9	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。10YR5/3ブロック少量。締まりやや弱く、粘性ある。
	10	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性ある。
掘り方(床下)	11	10YR2/3黒褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒少量。締まりあり、粘性やや強い。
	12	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒主体。締まり・粘性ある。
	13	10YR4/3～5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR4/3にぶい黄褐色ブロック多量。炭化粒微量。締まり・粘性ある。
	14	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。Ⅴ層主体。10YR4/3にぶい黄褐色ブロック少量。締まり・粘性やや弱い。13層より砂質増す。
	15	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	Ⅴ層地山より粘質。締まり・粘性ある。
掘り方(壁裏)	16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	均質土。炭化粒ごく微量。締まり・粘性ある。
	17	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	均質土。炭化粒微量。締まり・粘性ある。土師器片出土。
	18	10YR5/3+10YR4/3混合土	シルト	締まり・粘性ある。
	19	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	弱い砂質。締まりあり、粘性弱い。
	20	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	均質土。締まり・粘性ある。
P1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性ある。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性ある。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色粒多量。締まり・粘性ある。
	4	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まりあり、粘性やや強い。
	5	10YR3/4暗褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色粒多量。締まりあり、粘性弱い。
P2	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性ある。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性ある。
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性ある。
	4	10YR3/4暗褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性ある。
	5	10YR3/4暗褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。締まり・粘性弱い。
	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒混入。締まり・粘性ある。
P3	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒少量。締まりあり、粘性やや強い。
	2	10YR4/4褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性ある。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性ある。柱痕跡。
	4	10YR3/2黒褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒少量。締まり・粘性ある。柱痕跡。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性ある。
	6	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性ある。
	7	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性ある。
	8	10YR4/4褐色	砂質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂粒多量。締まり・粘性弱い。
P4	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒多量。締まり・粘性ある。
	2	10YR4/4褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3にぶい黄褐色粒多量。締まり・粘性弱い。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/4にぶい黄褐色粒多量。締まり・粘性弱い。
炉・P5	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化粒微量、10YR5/3にぶい黄褐色粒微量。締まり・粘性ある。炉内堆積土。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	10R6/3にぶい赤橙色粒上位に混入。締まり・粘性ある。炉掘り方。
	3	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	10R6/3にぶい赤橙色粒少量。締まりあり、粘性強い。炉掘り方。
P7(床下土坑)	1	10YR3/3暗褐色	シルト	掘り方埋め土の一部？径5mm前後の焼土粒やや多く混入しやや赤化。10mm前後のⅤ層土塊少量混入。炭化物粒微量。
	2	5YR3/4暗赤褐	シルト	径8mmの焼土ブロック及び焼土粒主体層。焼土ブロックは上面に集中。
	3	7.5YR4/4褐色	シルト	焼土粒50%含有。Ⅴ層粒50%が斑紋状に混入。径5mm以下の焼土ブロック少量。
	4	10YR4/4褐色	シルト	Ⅴ層土主体。焼土粒が斑紋状に30%混入する。



遺構	層位	土色	土性	備考
貯蔵穴	1	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒少量。径1～5mmの炭化物微量。締まり・粘性ある。
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。径1～2mmの炭化物微量。締まり・粘性ある。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	径1～2mmの炭化物微量。締まり・粘性ある。
	4	10YR5/2灰黄褐色	シルト	径1～3mmの炭化物微量。締まり・粘性ある。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック多量。径2～5mmの炭化物やや多量。締まり・粘性ある。
	6	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	Ｖａ層ブロック？締まり・粘性ある。
	7	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。Ｖ層粒主体。締まり・粘性弱い。
	8	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。Ｖ層粒主体。径1mmの炭化物ごく微量。締まり・粘性弱い。
	9	10YR5/2灰黄褐色	シルト	Ｖａ層ブロック？。径1～2mmの炭化物微量。締まり強く、粘性ある。

第23図　ＳＩ１竪穴住居跡Ｐ６（貯蔵穴）平面・断面図



< >現存値、( )推定値

No.	登録番号	種別	層位	残存	口径×器高×底径 cm	調整	備考	写真図版
1	C－1	土師器・甕	貯蔵穴	口縁部～胴部	(13.4)×<6.0>×－	外面：ハケ目、ヨコナデ。内面：ヨコナデ、ヘラナデ。	2と同一個体。	14－1
2	C－2	土師器・甕	貯蔵穴＋掘り方埋め土	胴部～底部	－×<5.4>×4.1	外面：ハケ目、ヘラケズリ。内面：ヘラナデ。底部：ヘラナデ。	1と同一個体。	14－2
3	C－3	土師器・甕	貯蔵穴＋掘り方埋め土	口縁部～胴部	(18.3)×<5.1>×－	外面：ハケ目、ヨコナデ、ナデ。内面：ハケ目、ヘラナデ。	－	14－3

第24図　ＳＩ１竪穴住居跡出土遺物

〔出土遺物〕出土した土器類は土師器片のみの出土であり、計994点を数える。住居内堆積土からは164点出土し、その内訳は１層２点、上層としたもの70点、３層５点、下層としたもの45点、床面直上42点となる。堆積土内に破片が混在する状況であり、接合関係もほとんどない。この他、Ｐ１から３点、Ｐ２から４点、Ｐ３から３点、Ｐ４から３点、周溝内からは18点の土師器片が出土している。相対的に遺物量の多いのは掘り方埋め土層からの685点であり、これには土器集中部145点が含まれる。土器集中部は土師器甕の同一個体片を中心に確認されたが、接合率が低いものであり図化に至っていない。貯蔵穴Ｐ６から100点、床下土坑Ｐ７からは１点、及び壁裏の掘り方からは13点の土師器片が出土した。また、この中にはＳ字状口縁甕の破片４点が含まれているが、その内訳は堆積土下層とＰ４から１点ずつ、掘り方埋め土中が２点となる。

第24図１～３は貯蔵穴出土の土師器甕であり、１・２は同一個体とみられる。２・３は掘り方埋め土より出土した破片が接合している。いずれも屈曲して開く口縁形態であり、１・２は復元器形からみると、球形あるいはやや長胴ぎみとなろうか。１・２及び３はともに古墳時代前期塩釜式期と考えられる。

第４節　Ｖb層上面検出遺構

小溝状遺構群調査の際に小溝底面に土器の一部が観察されていたが、精査の結果土坑に伴う遺物であることが判明した（ＳＫ6)。また、Ｅ・Ｆ－ ６・７ グリッドの撹乱壁面にあった土色の異なる箇所を精査したところ土坑と確認できた（ＳＫ7)。さらに深掘り ３ 区の削り下げの際にＶｂ層上面において小礫と炭化物の平面分布が確認され、最も礫の集中する箇所には小規模な掘り込みを伴っていた（ＳＸ２)。

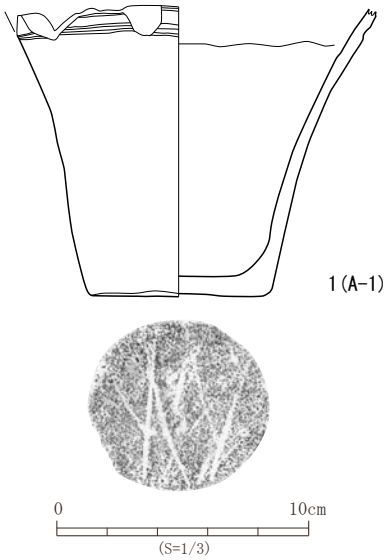
こうした状況でVb層上面に遺構の存在が確認できたため、ＳＫ６を中心に南北10m、東西６ｍの範囲を掘り下げるとともに、ＳＫ７からＳＸ１にかけては調査区壁沿いに幅2 ～ 3mの調査区を設定した（第26図)。また、住宅が接近する壁面11の一部以外について調査区壁沿いに幅１ｍの側溝を設け、Vb層上面まで掘り下げた。ＳＫ６の西側１ｍほど隔てた箇所では径２ｍほどの範囲に炭化物の集中傾向がみられたため、遺構の存在を想定してトレンチ調査を行ったが、掘り込み面はなく窪みに炭化物が入り込む状況であった。Vb層上面調査の結果新たな遺構は検出されなかったが、Va層中から弥生土器と考えられる破片８点を検出し、うち２点は第28図に示した。以下、Vb層で検出された遺構について説明する。

1. 土　坑

ＳＫ6 土坑（第27図、図版10－２～４）

Ｄ－７・８グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は93×52㎝、深さ14㎝である。主軸方位はＮ－48°－Ｅを向く。断面形は皿形であり、壁は湾曲して立ち上がる。堆積土は３層に分層され、１層がにぶい黄褐色（10YR5/3）シルト、２層が砂質味のあるにぶい黄褐色（10YR5/3）シルト、３層がにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトで、いずれも炭化物を少量含む。

遺物は土坑中央部の２層中に縄文土器（A-1）１個体が出土し、他の破片類の共伴はない。縄文土器は上半を欠失する小型の深鉢で（第25図)、現存高11.5㎝、底径6.9㎝を測る。上端に沿って横位に巡る沈線文が２条まで確認でき、内外面ともに摩滅しているが、丁寧なミガキが部分的に認められる。底部には木葉痕が観察できる。胎土中には２～３㎜超の砂粒が多量に混じる。時期としては縄文時代後期前葉と考えられる。



第25図　ＳＫ6 土坑出土遺物

ＳＫ7 土坑（第27図、図版10－５・６）

Ｉ－７グリッドに位置する。長径101㎝、短径81㎝の比率からみて平面形は円形とする。断面形は皿形であり、深さは12㎝を測る。堆積土は２層に分層され、１層は灰黄褐色（10YR4/2）シルト、２層が砂質味のあるにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトで、２層中には30㎜大の炭化物が混入する。北西寄りから長さ20㎝の礫が出土した。その他に遺物は出土していない。

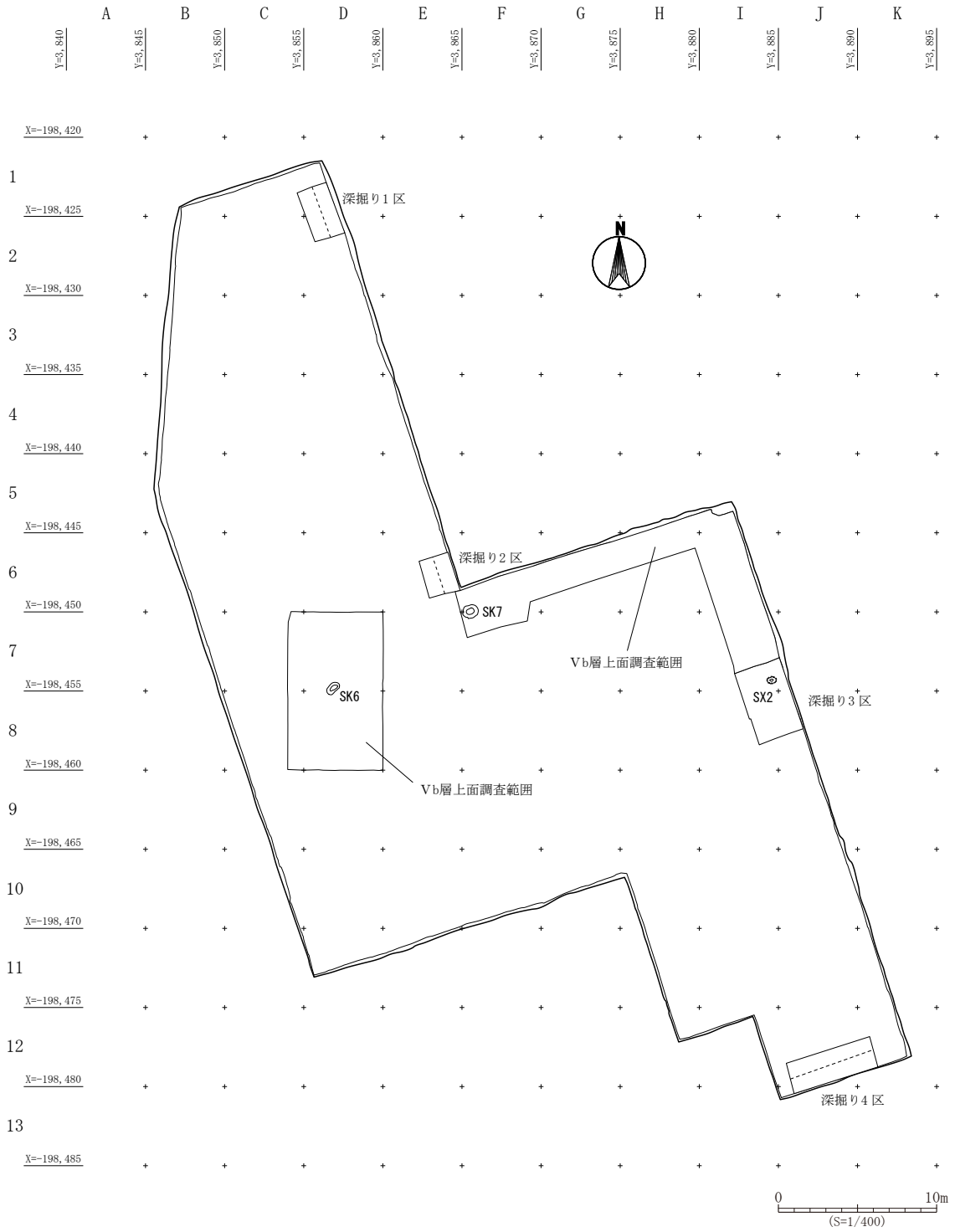
2. 性格不明遺構

ＳＸ2 性格不明遺構（第27図、図版13－１・２）

Ｉ－７グリッドに位置する。深掘り３区を調査する際に検出された。Vb層上面で炭化物と礫の平面分布の状況がみられたため精査を行った結果、60㎝

〈 〉現存値

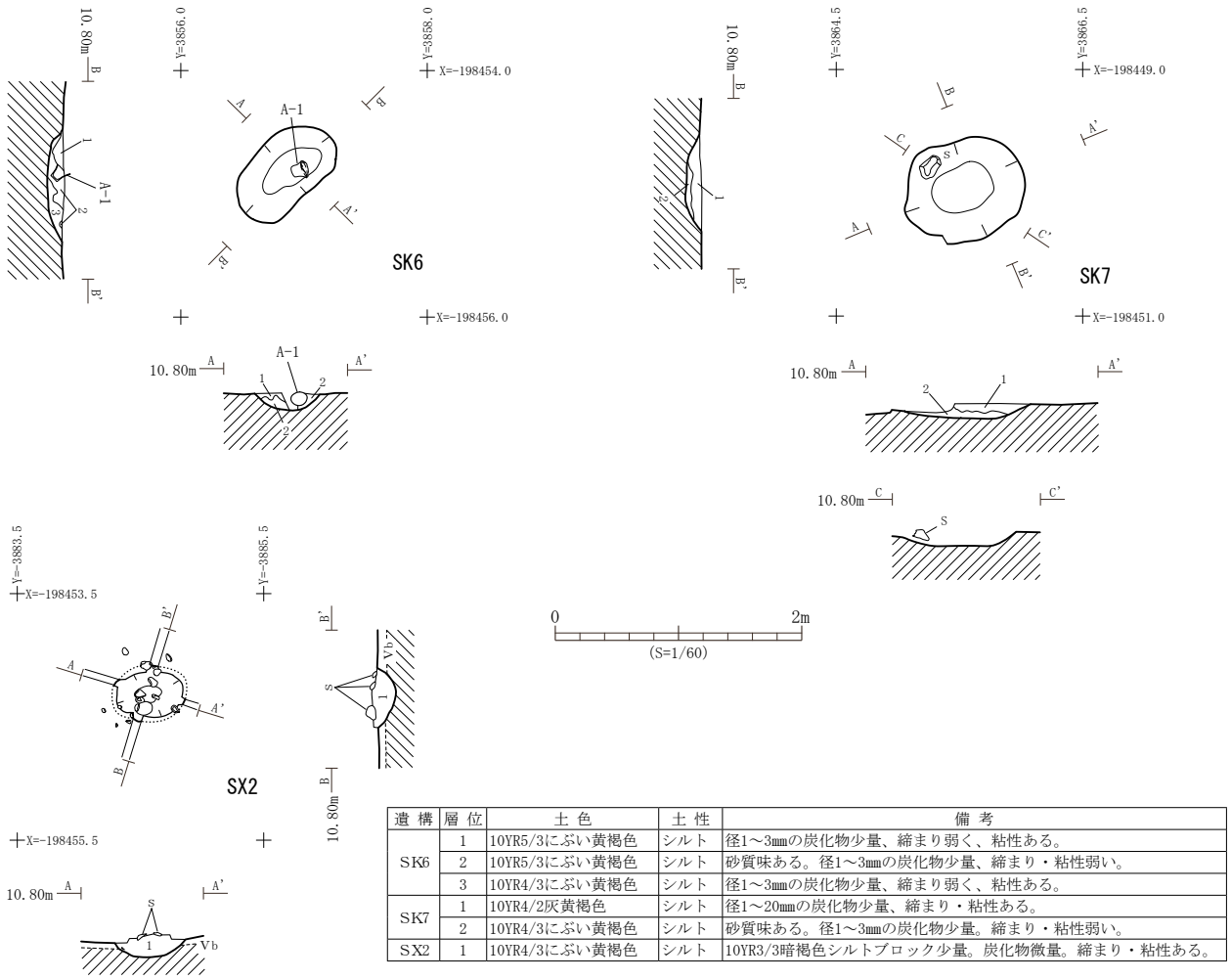
No.	登録番号	種 別	層 位	残 存	器高・底径 ㎝	調 整	備 考	写真図版
1	A－1	縄文土器	2層	体部～底部	〈11.5〉×6.9㎝	外面:横位沈線文、密ミガキ。内面:密ミガキ。底面:木葉痕。	上半欠失。黒斑。内外面摩滅。縄文後期前葉？	14－4



第26図　Ⅴb層上面全体図

四方の範囲に礫の弱い集中状況を確認した。礫は長さ３～15cm大で、５cm前後の円礫が主体となる。礫検出面で掘り込みらしきプランが確認されていたため、ベルトを残して削り下げたところ、小規模な掘り込みを確認した。その平面形は楕円形で、規模は61×47cm、深さ32cmである。

堆積土は単層で､炭化物を微量含むにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトである。堆積土中からは中位で小礫１点が出土したのみであった。



遺構	層位	土色	土性	備考
SK6	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	径1～3㎜の炭化物少量、締まり弱く、粘性ある。
	2	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。径1～3㎜の炭化物少量、締まり・粘性弱い。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	径1～3㎜の炭化物少量、締まり弱く、粘性ある。
SK7	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	径1～20㎜の炭化物少量、締まり・粘性ある。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	砂質味ある。径1～3㎜の炭化物少量。締まり・粘性弱い。
SX2	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3暗褐色シルトブロック少量。炭化物微量。締まり・粘性ある。

第27図　ＳＫ６・７土坑、ＳＸ２性格不明遺構平面・断面図

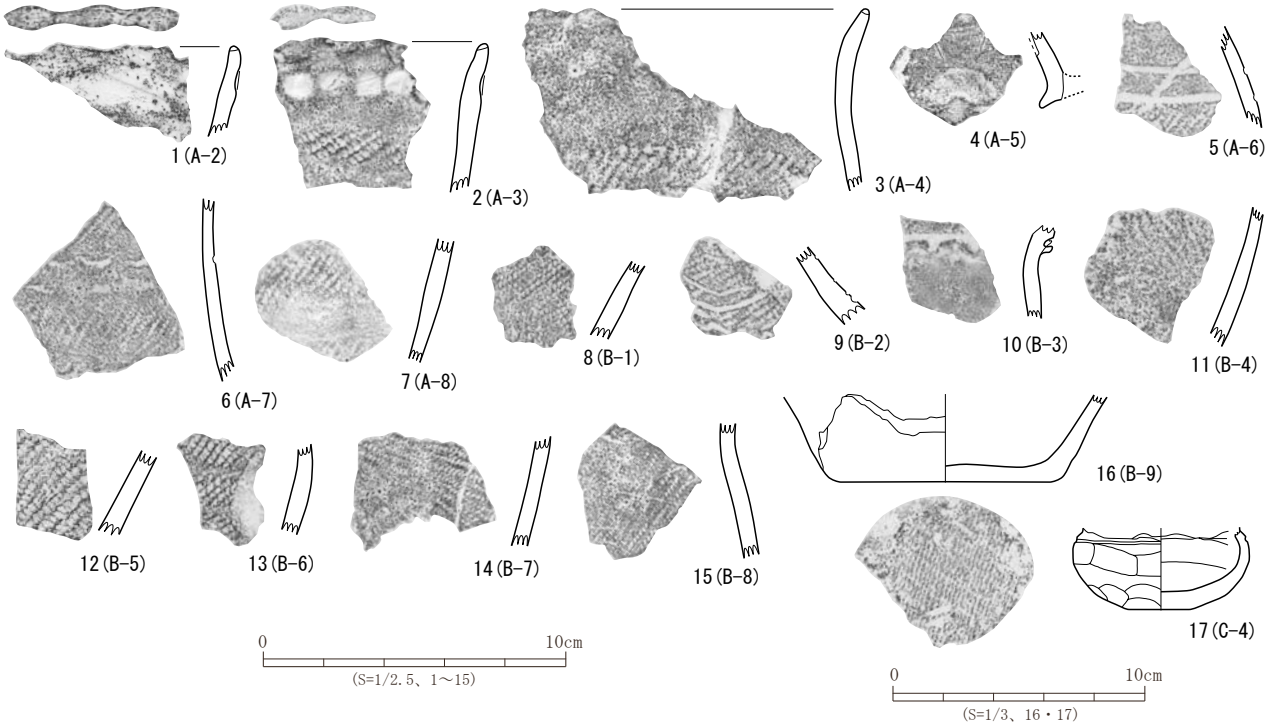
第５節　その他の出土遺物

本節では基本土層中より出土した遺物ついて説明する。今回の調査で出土した土器は、遺構内外を合わせて総点数2523点を数え、基本土層中より出土したものは計980点となり、その大部分を占めるのは土師器片の932点である。壺、坏、鉢と考えられる破片は10点ほどを数えるのみで、その他は土師器甕を主体とする破片が占めている。出土層位はⅢ層からⅣ層にかけてである。これらの土師器は接合率の低いものであり、図化できたものは 1 点のみであり第28図17に示した。第28図17はⅣ層から出土した土師器であり、上端に横位沈線がみられるため小型の鉢とした。

須恵器は 5 点出土し、Ⅰ層出土１点（甕）、Ⅲ層出土２点（甕）、Ⅳ層出土２点（坏・甕）となる。陶器 1 点はⅠ層より出土した堤焼の香炉とみられる破片である。この他に縄文時代から弥生時代にかけてと考えられる土器片が33点ほど出土した。大部分はⅣ層からの出土であるが、Ⅴa層より 8 点出土している。

第28図に示したうち 1 ～ 7 は縄文土器と考えられる破片である。 1 ～ 3 ・ 6 ・ 7 は深鉢あるいはその可能性をもつ。 4 は注口土器、 5 は壺あるいは注口土器とみられる。第28図 8 ～10は弥生土器と考えられ、 8 は中期後葉の十三塚式の可能性があり、 9 ・10は後期の天王山式の特徴をもっている。第28図11～16については縄文土器か弥生土器と考えられる。

石器は第29･30図に図示したが、第30図 1 が石錐、他はいずれも礫石器である。基本層から出土した礫石器 3

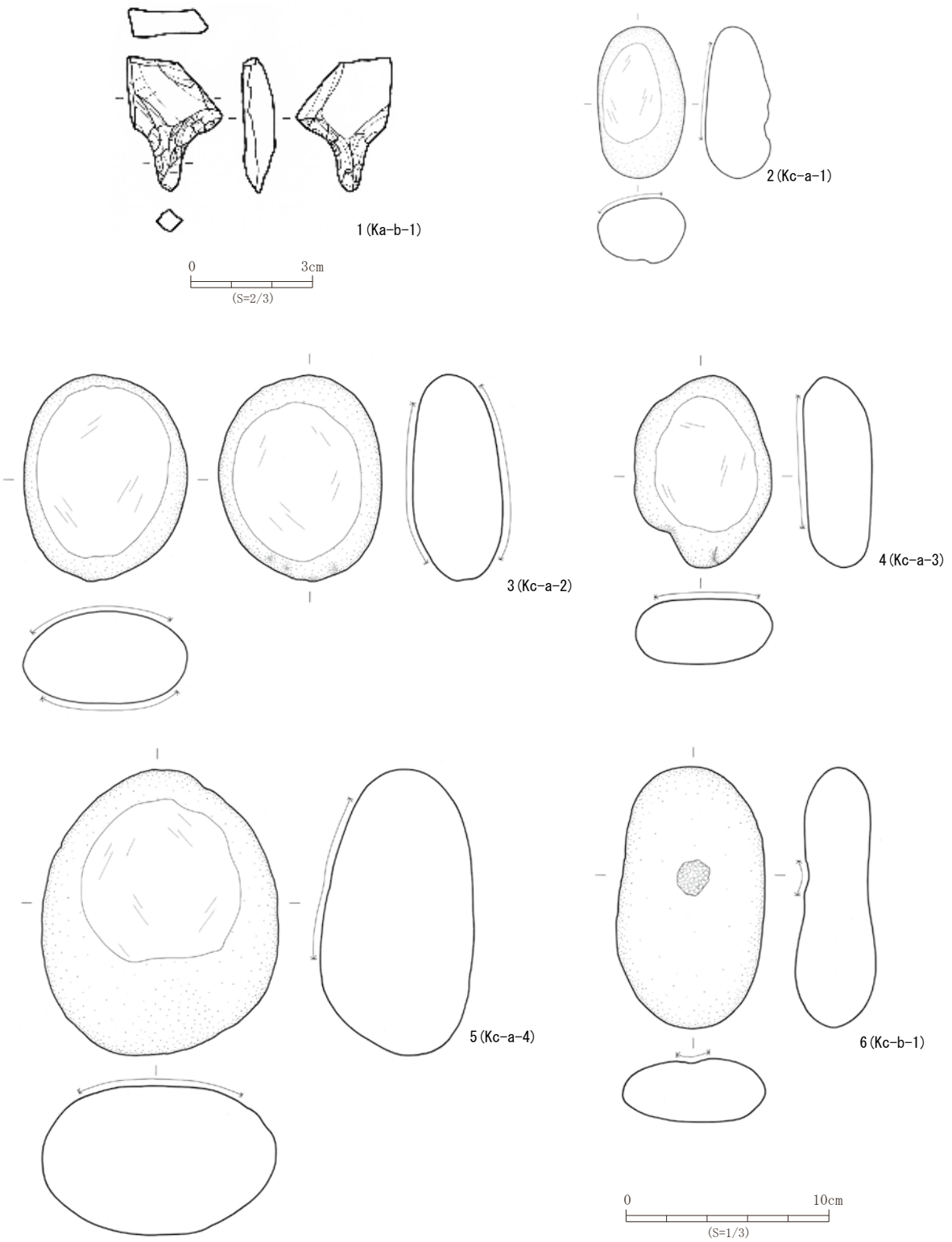


No.	登録番号	出土位置	層位	種別	器種	残存	施文・調整		備考	写真図版
							外面	内面		
1	A－2	P129	1層	縄文土器	深鉢？	口縁～体部上半	口唇：押圧、口：指頭押圧	不明	波状口縁？。内外面摩滅。A-3と同一？。縄文後期？	14－5
2	A－3	小溝群3－70	1層	縄文土器	深鉢？	口縁～体部上半	口唇：押圧、口：指頭押圧、体：横位LR縄文	不明	波状口縁？。内外面摩滅。A-2と同一？。縄文後期？	14－6
3	A－4	K－12Gr.	Ⅳ層	縄文土器	深鉢	口縁～体部上半	口唇：押圧、体：横位LR縄文	不明	内外面摩滅。縄文後期？	14－7
4	A－5	P87	1層	縄文土器	注口	体部小片	密ミガキ	粗ナデ	外面注口部剥離痕。縄文後期	14－8
5	A－6	E－6Gr.	Ⅴa層	縄文土器	壺か注口	体部上半小片	沈線文（横位直線文）、横位LR縄文→ミガキ	ミガキ	縄文後期	14－9
6	A－7	G－8Gr.	Ⅳ層	縄文土器	深鉢	体部小片	横位LR縄文（結節）	ナデ	内面摩滅。縄文後期？	14－10
7	A－8	小溝群3－70	1層	縄文土器	深鉢？	体部小片	横位LR縄文	ミガキ	－	14－11
8	B－1	小溝群3－53	1層	弥生土器	鉢？	体部下半小片	横位LR縄文（付加条？）	密ミガキ	中期後葉十三塚式？	14－12
9	B－2	J－12Gr.	Ⅳ層	弥生土器	壺？	頸部下端～体部上半小片	横位LR縄文→沈線文(連弧文、鋸歯文)→ミガキ	粗ナデ	弥生後期天王山式	14－13
10	B－3	小溝群2－6	1層	弥生土器	壺か甕	口縁～頸部小片	口：横位LR縄文、横位沈線（下端）→沈線文（斜位直線）、上・下押圧、頸：ナデ	不明	弥生後期天王山式。口縁部肥厚・上半欠失。内面摩滅	14－14
11	B－4	K－12Gr.	Ⅳ層	縄文か弥生土器	深鉢？	体部小片	横位RL縄文	ナデ？	外面摩滅。被熱赤色化	14－15
12	B－5	J－12Gr.	Ⅳ層	縄文か弥生土器	深鉢？	体部小片	横位LR縄文	ナデ	－	14－16
13	B－6	J－12Gr.	Ⅳ層	縄文か弥生土器	深鉢？	体部小片	横位LR縄文	ナデ→ミガキ	－	14－17
14	B－7	F－6＋H－9Gr.	Ⅳ層	縄文か弥生土器	不明	体部小片	縦・斜・横位LR縄文	ナデ？	内面摩滅	14－18
15	B－8	H－8Gr.	Ⅳ層	縄文か弥生土器	深鉢	体部小片	横位LR縄文	ナデ	－	14－19

No.	登録番号	出土位置	層位	種別	器種	部位	器高・底径 cm	調整		備考	写真図版
								外面	内面		
16	B－9	B－2Gr.	Ⅴa層	縄文か弥生土器	深鉢	体部下半～底部	〈3.4〉×(8.4)	体：粗ミガキ、底：網代痕	ナデ。粗ミガキ	底部外面部分的に剥離	14－20
17	C－4	G－9Gr.	Ⅳ層	土師器	小型鉢？	体部～底部	〈3.3〉×2.2	横位沈線文、ナデ	ナデ	底面に黒斑。	14－21

第28図　出土遺物（１）土器

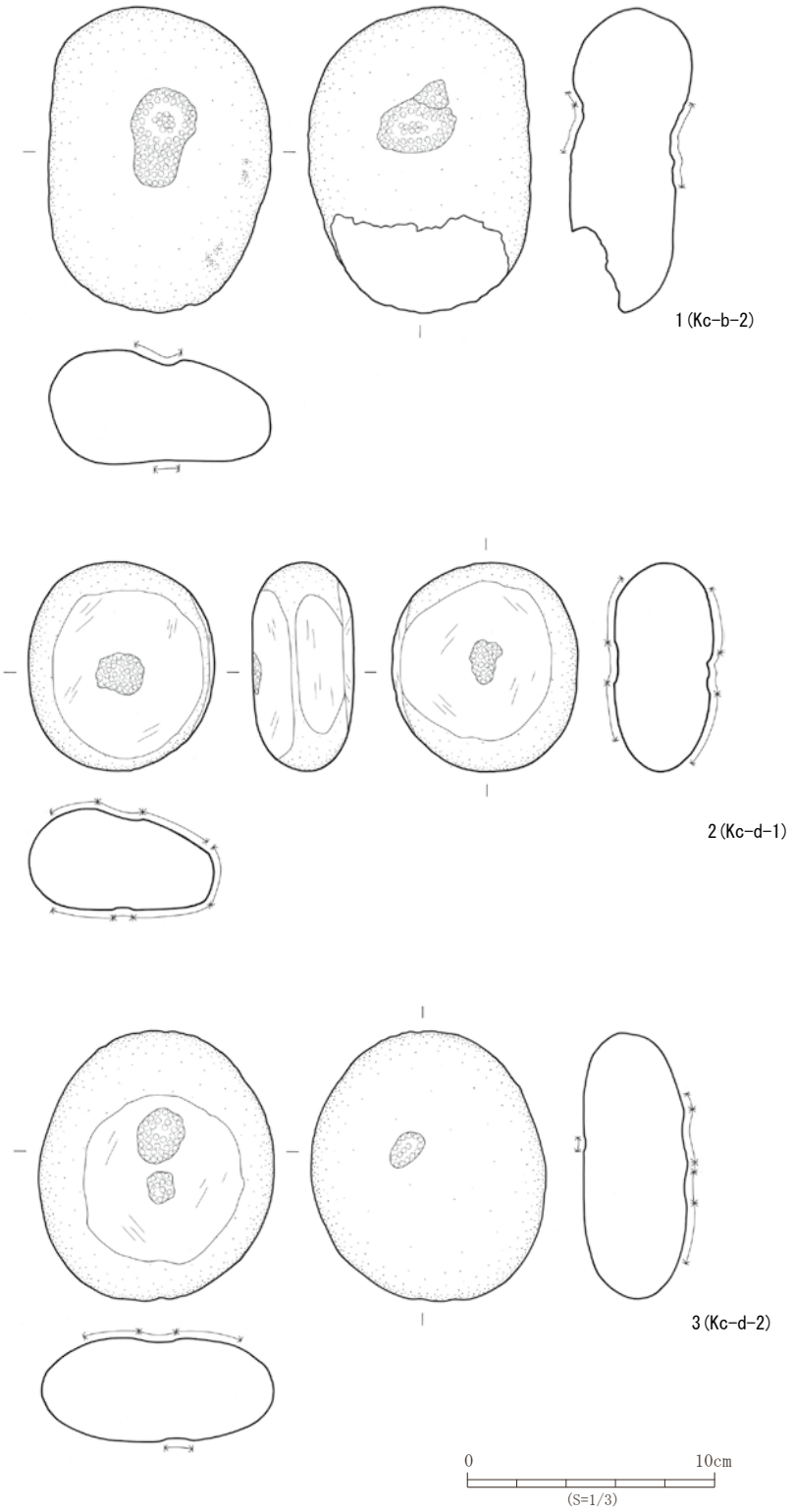
点はⅣ層・Ⅴa層・Ⅴb層からの出土である。



〈 〉現存

No.	登録番号	出土位置	層 位	器 種	石 質	長 さ mm	幅 mm	厚 さ mm	重 さ g	備 考	写真図版
1	Ka－b－1	J－12Gr.	Ⅳ層	石錐	珪質頁岩	32.9	22.5	7.0	3.44	裏面にハジケあり。	14－22
2	Kc－a－1	小溝群3－64	1層	礫石器	安山岩	112.5	65.0	〈49.0〉	〈467〉	磨1、裏面部分欠損。	14－23
3	Kc－a－2	深掘り3区	Ⅴb層	礫石器	安山岩	102.0	80.5	45.5	542	磨2。	14－24
4	Kc－a－3	小溝群2－8	下層	礫石器	安山岩	94.5	67.5	34.0	291	磨1。	14－25
5	Kc－a－4	I－7Gr.	Ⅴa層	礫石器	安山岩	130.5	116.5	76.0	1629	磨1。	14－26
6	Kc－b－1	P216	下層	礫石器	安山岩	128.0	73.0	40.0	494	凹1。	14－27

第29図　出土遺物（２）石器



〈 〉現存

No.	登録番号	出土位置	層 位	器 種	石 質	長 さ mm	幅 mm	厚 さ mm	重 さ g	備 考	写真図版
1	Kc－b－2	K－12Gr.	Va層上位	礫石器	安山岩	〈123.5〉	90.0	50.0	〈447〉	凹1＋2、裏面下端欠損。	14－28
2	Kc－d－1	H－12Gr.	Va層上位	礫石器	安山岩	84.5	75.0	41.5	402	磨3(横1)、凹1＋1。	14－29
3	Kc－d－2	小溝群2－3	下層	礫石器	安山岩	109.0	95.0	42.0	593	磨1、凹2＋1。	14－30

第30図　出土遺物（３）石器

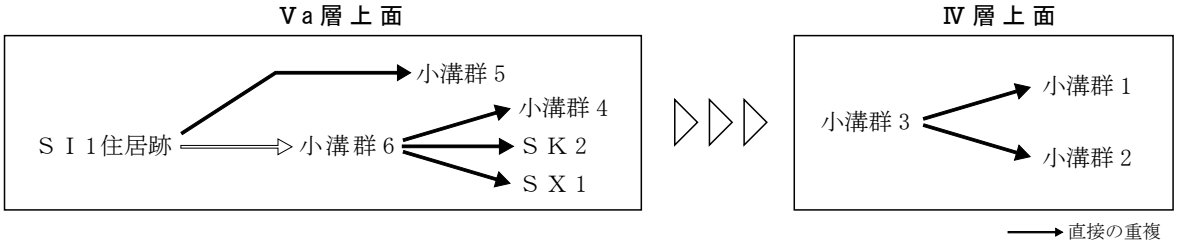
第Ⅵ章　ま　と　め

確認された遺構

今次調査でⅢ層上面～Ｖｂ層上面にかけての遺構群が確認された。遺構内容は縄文時代後期の土坑 1 基、古墳時代前期の竪穴住居跡 1 軒、古墳時代から古代にかけての溝跡 5 条、小溝状遺構群 6 群、土坑 5 基、性格不明遺構１基、ピット 262 個であり、Ｖｂ層上面検出の土坑ＳＫ 7 と性格不明遺構ＳＸ 2 は時期不明である。Ⅳ層からＶａ層上面にかけて検出された溝跡や小溝状遺構群が今回調査の主体遺構となっている。なお、本地点南に近接して春日社古墳、大野田 1・2 号墳等が存在しており、今次調査で新たな古墳が発見される可能性があったが、精査の結果古墳は認められなかった。

遺構確認面と遺構間の新旧関係

Ⅲ層上面検出遺構は溝跡 1 条と土坑 2 基である。Ⅳ層上面で検出された小溝群は大きくみて北～北北東方向の方向性をもつ一群として捉えられ、その新旧関係は小溝群 1 ・ 2 が小溝群 3 より新しくなる。Ｖａ層検出遺構は古墳時代前期のＳＩ 1 住居跡を含めた古墳時代前期の集落が占地する段階、及び土坑や性格不明遺構を伴う形で小溝群が展開する段階の大きく 2 時期に分かれるが、小溝群が 2 段階に分かれるため、Ｖａ層上面としては 3 段階の変遷が考えられる。地区内の傾向から判断すると、東西方向の小溝群 6 より南北方向の小溝群 5 が新しくなる可能性がある。第 31 図にはＶａ層上面からⅣ層上面にかけての主要遺構の新旧関係を示している。Ｖｂ層上面では土坑 2 基（ＳＫ 6 ・ 7）、性格不明遺構 1 基（ＳＸ 1）を確認した。



第31図　主要遺構の新旧関係図

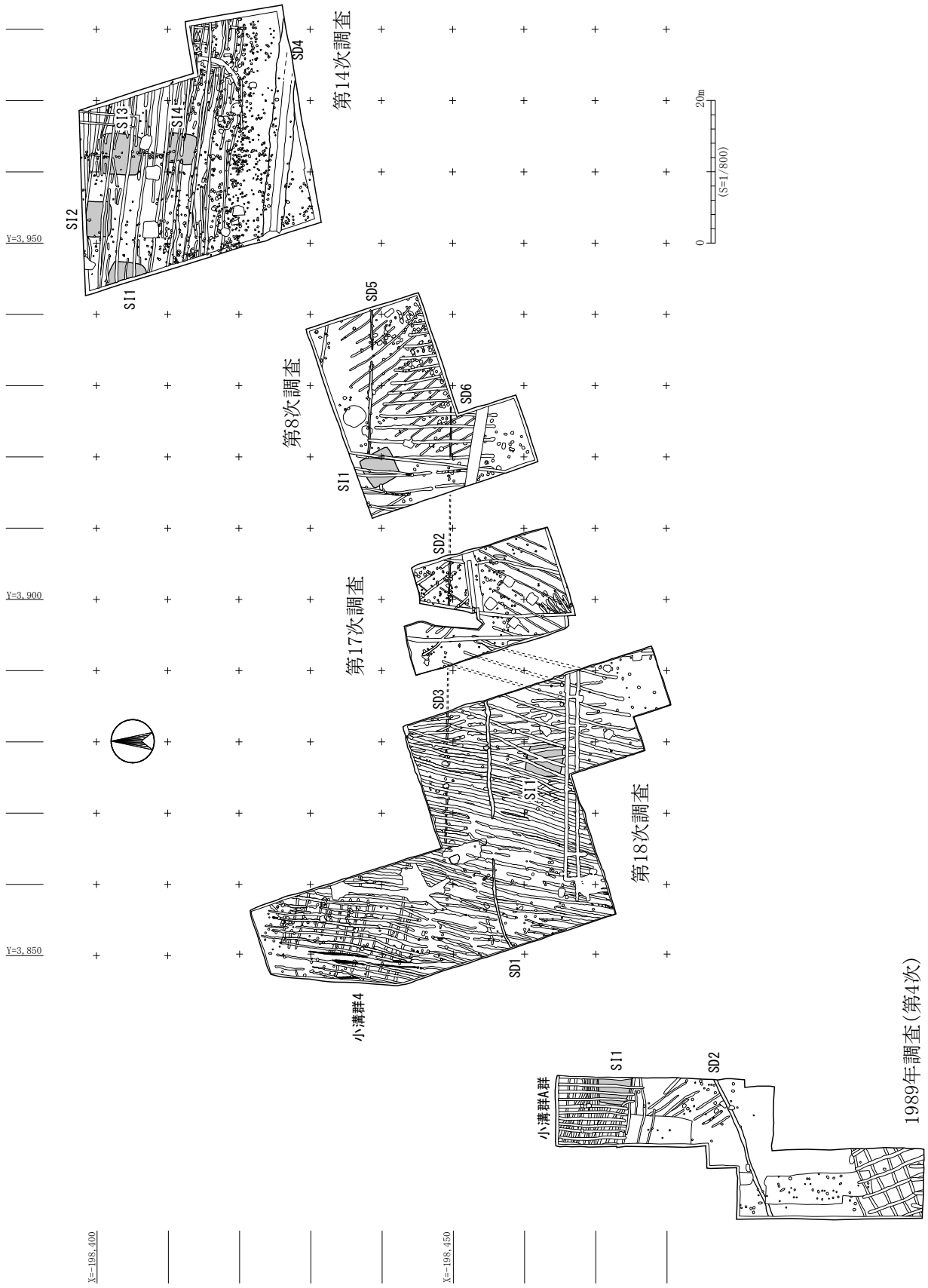
小溝状遺構群の配置

今次調査でⅣ層上面からVa 層上面にかけての小溝状遺構群を確認した。新旧関係は第31 図のとおりである。小溝群の方向性をみると、最も古い小溝群 6 では西北西方向（平均Ｎ－79°－W）を基本としているのに対し、小溝群 4 ・ 5 はほぼ南北方向（平均Ｎ－3°－ＥとＮ－9°－W）に大きく向きを変えている。Ⅳ層上面段階の小溝群 3 に至ると弱く北東方向に振れだし（平均Ｎ－10°－Ｅ）、最新段階の小溝群 1・2 では北東寄り（平均Ｎ－19°－ＥとＮ－16°－Ｅ）にその方向性を変えており、時計回りのような変遷として見受けられる。

最も広範囲に広がる小溝群 3 については西半と東半部分でわずかに方向性が異なり、東半が西半と比べて数度ではあるが北東側に振れる向きをとっており、小溝群 3 を 2 単位に分割し得るものである。今回は大きく 1 群として捉えているが、今後周辺状況と考え合わせるうえでの留意点としておく。また、調査区北端部と南端部では小溝状遺構群の分布が一線を画して途切れるように見受けられるため、隣接調査の成果を待って検討する必要がある。

隣接地との関係

＜小溝状遺構群＞隣接地の平面図を第32 図に示した。第14 次調査のＳＤ 4 は大野田官衙遺跡関連の溝である。第14 次調査ではこのＳＤ 4 大溝を境にして小溝群の分布状況に変化がみられ、ＳＤ 4 が何らかの境界として認識されていた可能性が指摘されている（仙台市教育委員会 2009b）。また、第17 次調査の報告では、第 8 次調査から第17 次



第 32 図　近隣の成果との対応関係（仙台市文化財調査報告書第 138・290・339・355 集を転載し合成）

調査にかけてみられた南北・北西方向の小溝群に加え、新たにⅣ層上面で北東方向の小溝群が確認された点が述べられている（仙台市教育委員会 2009c）。第32図でみるように、第18次小溝群2 と第17次小溝群5 は同一の小溝群とみて間違いないと思われる。第18次調査では小溝群2 と同じくⅣ層上面で小溝群1 も検出されており、第17次地区西端でみられた南北方向から北東方向へと変化する小溝群の変遷を今次調査で改めて確認できたといえる。これらは溝間隔が2 m前後と広くなる点でも共通している。

今次調査区の南側一帯は大野田古墳群1995 ～98年調査地区が広がるが、ここでも類似する小溝群が数カ所みられる（仙台市教育委員会 2000a）。これらについては新旧関係等の時期的な位置付けを整理するとともに、溝間隔についても異なる小溝群が重複して結果的に溝間隔が狭くなることも考慮して慎重に考えていきたい。

これとは別に20 mほど隔てた西側には大野田古墳群1989年調査地点（第4 次）があるが、ここでは東西方向、南北方向、北西方向の小溝群が確認され、このうち南北方向の小溝状遺構群Ａ群が最も新しいとされている（仙台市教育委員会 1990）。この南北方向の小溝群は第18次調査西側で3 条のみ抽出した小溝状遺構群4 と同じ方向性をもつため相互に関連する可能性もあるが、現時点では不明な点が多い。

＜溝跡＞計 5 条確認された溝跡のうち、ＳＤ 3 は東西方向に直線的に延びる溝であるが、第32図でみるように第 8 次調査ＳＤ 6 と第17次調査ＳＤ 2 とはその配置と方向性から同一溝であることが分かる。いずれもＶ層上面での検出である。これらは直線上で結ばれ、座標交点との位置関係からみても整然と東西方向に延びる点が特徴的である。上端幅は最大50 ㎝、最深部で16 ㎝と小規模な溝である。3 地点ともに遺物が出土しておらず時期は不明であるが、区画等を目的とした規格的な溝とみることができる。ちなみに、第 8 次調査でＳＤ 6 と平行するＳＤ 5 は同時期の可能性があるとされている（仙台市教育委員会 2005a）。また、第18次ＳＤ 1 と第 4 次ＳＤ 2 は規模や形態で類似性がみられ、第18次ＳＤ 1 は南西方向に向きを変えつつあることから、同一溝である可能性を若干であるが残している。

＜古墳時代の住居跡＞第18次ＳＩ 1 竪穴住居跡は、土師器甕を主体とする破片が散在的に出土する状況であったが、貯蔵穴出土の甕により古墳時代前期塩釜式期と判断できるものであった。第32図には近隣遺跡で確認された住居跡 6 軒の分布を示したが、いずれも塩釜式期の遺物を出土しており、同一集落を構成すると考えられるものである。これらは東北東方向に延びる分布域の中で捉えられるとともに、住居規模が 5 m前後で共通するうえ、第14次ＳＩ 3・4 と第18次ＳＩ 1 は住居主軸の一致をみている。隣接遺跡では六反田遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡で塩釜式期の集落が確認されており（第 1・2 図）、今後これらとの関連性で考えていく必要がある。

註（1） 町田　洋・新井房夫　森脇　広　1981「日本海を渡ってきたテフラ」『科学51』 p562-569
町田　洋・新井房夫　2003『新編　火山灰アトラス』東京大学出版会　p336

引用・参考文献

仙台市教育委員会　1981『仙台市文化財調査報告書第34集　六反田遺跡発掘調査報告書』
仙台市教育委員会　1987『仙台市文化財調査報告書第193集　大野田古墳群　春日社古墳・鳥居塚古墳』
仙台市教育委員会　1990『仙台市文化財調査報告書第138集　大野田古墳群－発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　1993『仙台市文化財調査報告書第173集　下ノ内遺跡－第4次発掘調査報告書－』
仙台市史編さん委員会編　1995『仙台市史　特別編2　考古資料』仙台市
仙台市史編さん委員会編　1999『仙台市史　通史編1　原始』仙台市
仙台市史編さん委員会編　2000『仙台市史　通史編2　古代中世』仙台市
仙台市教育委員会　2000a『仙台市文化財調査報告書第243集　大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡－仙台市富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ－』

仙台市教育委員会　2000b『仙台市文化財調査報告書第 249 集　王ノ壇遺跡－都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
仙台市教育委員会　2004「仙台市大野田古墳群」『平成 16 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
仙台市教育委員会　2005a『仙台市文化財調査報告書第 290 集　大野田古墳群－第 8 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2005b『仙台市文化財調査報告書第 291 集　大野田古墳群－第 9 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2006a『仙台市文化財調査報告書第 301 集　大野田古墳群－第 11 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2006b「仙台市富沢駅周辺遺跡群」『平成 18 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
仙台市教育委員会　2008a「大野田古墳群他－官衙関連遺構－」『第 34 回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』古代城柵官衙検討会
仙台市教育委員会　2008b『仙台市文化財調査報告書第 319 集　大野田古墳群－第 13 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2008c「仙台市　春日社古墳」『平成 20 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
仙台市教育委員会　2008d「六反田遺跡・大野田古墳群」『平成 20 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
仙台市教育委員会　2008e『仙台市文化財調査報告書第 322 集　富沢遺跡－第 141 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2009a「(仮称) 大野田官衙遺跡」『第 35 回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』古代城柵官衙検討会
仙台市教育委員会　2009b『仙台市文化財調査報告書第 339 集　大野田古墳群－第 14 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2009c『仙台市文化財調査報告書第 355 集　大野田古墳群－第 17 次発掘調査報告書－』
仙台市教育委員会　2009d「仙台市大野田官衙遺跡」『平成 21 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会

1．Ⅳ層～Va 層上面完掘状態（南から）

2．Ⅳ層～Va 層上面完掘状態（北から）

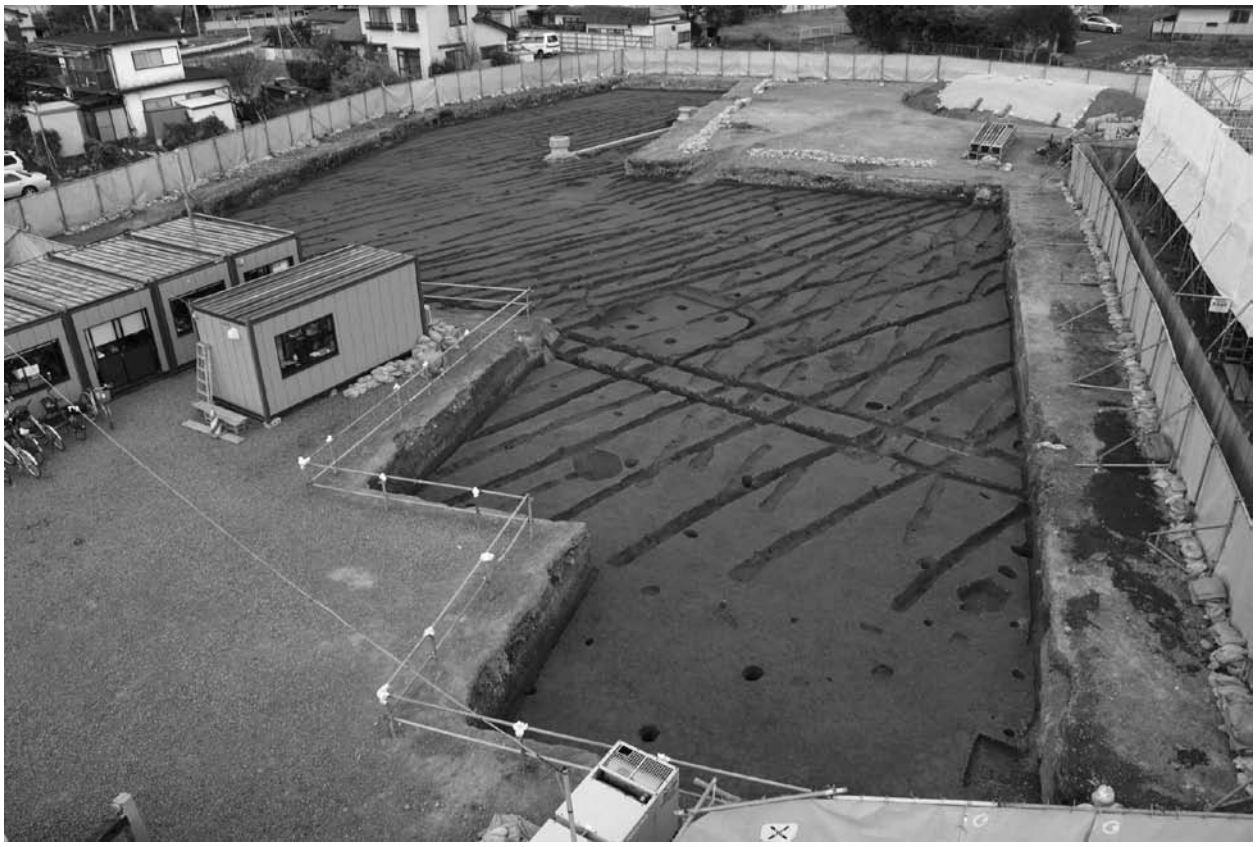
写真図版　1　調査区全景（１）

1. Ⅳ層～Va 層上面完掘状態（北東から）

2. Ⅳ層～Va 層上面完掘状態
調査区中央から北側（南西から）

3. Ⅳ層～Va 層上面完掘状態
調査区中央から南側（北から）

写真図版 2　調査区全景（２）



1. Va 層上面完掘状態（南から）

2. Va 層上面完掘状態（北から）

写真図版 3　調査区全景（3）

1. Va 層上面完掘状態（北東から）

2. Va 層上面完掘状態
調査区中央から南側（北から）

3. 調査区全景及び地下鉄南北線富沢駅周辺の景観（東から）

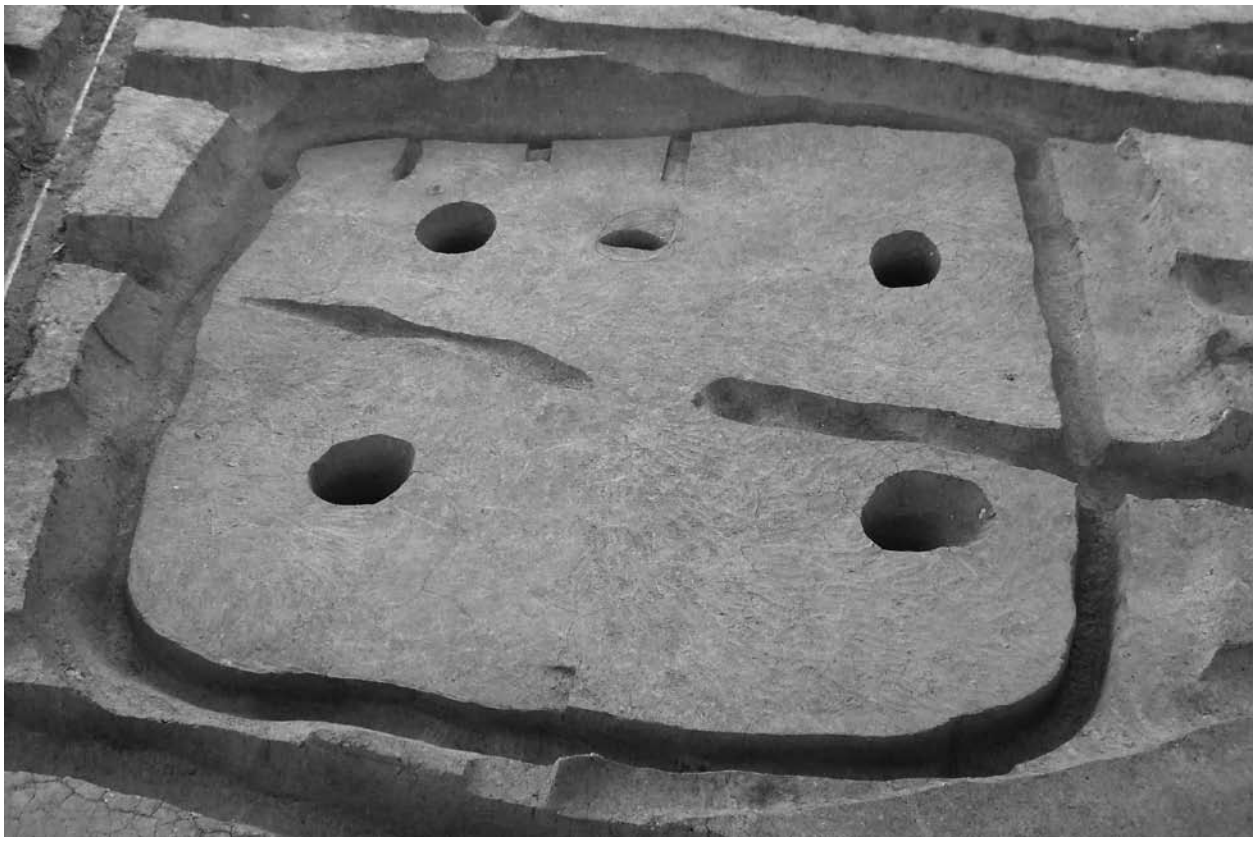
写真図版 4　調査区全景（4）

1．調査区北側Va 層上面遺構検出状況（南から）

2．調査区南側Va 層上面遺構検出状況（南から）

3．調査区中央Va 層上面遺構検出状況（東から）

写真図版　5　遺構検出状況



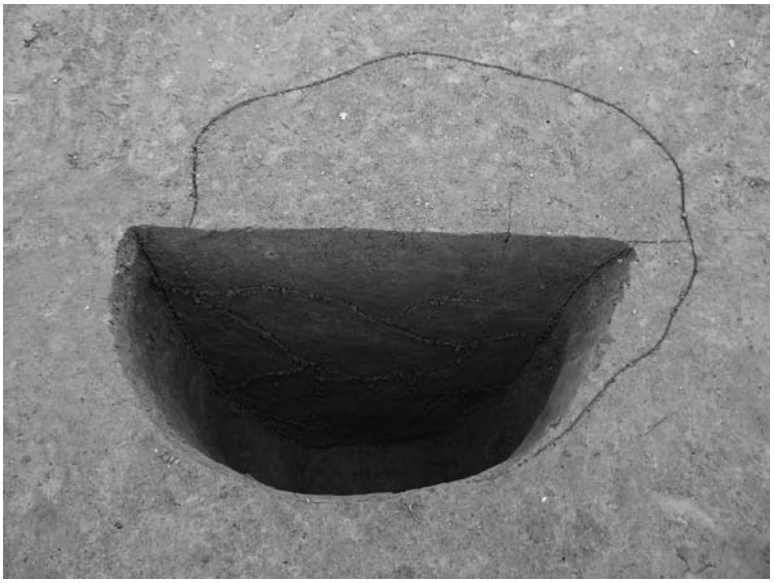
1. ＳＩ１ 全景（東から）

2. ＳＩ１ 掘り方全景（南から）

写真図版 6　竪穴住居跡（１）

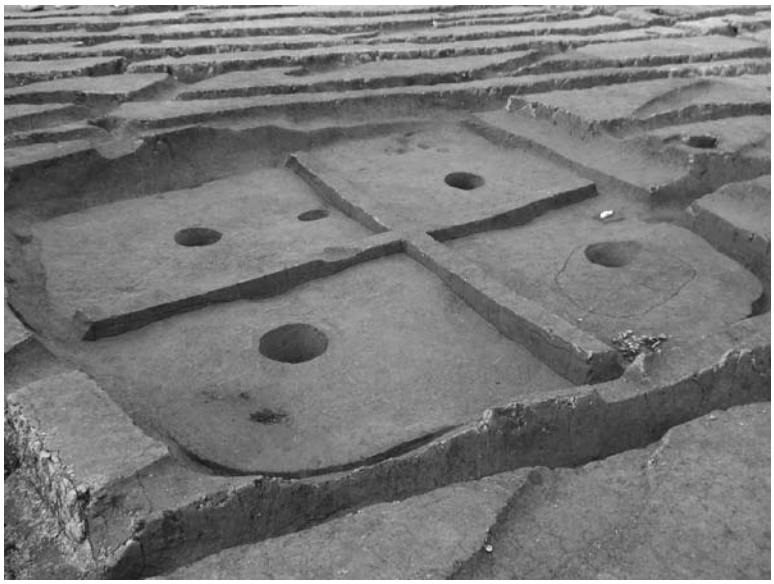
1. ＳＩ 1 断面（南から）

2. ＳＩ 1 周溝検出状況（南から）



3. ＳＩ 1　Ｐ 3 断面（東から）

写真図版 7　竪穴住居跡（２）

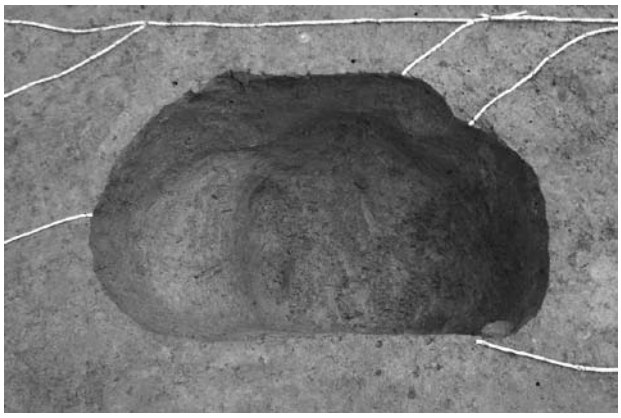


1. ＳＩ１ 掘り方埋め土断面（南東から）

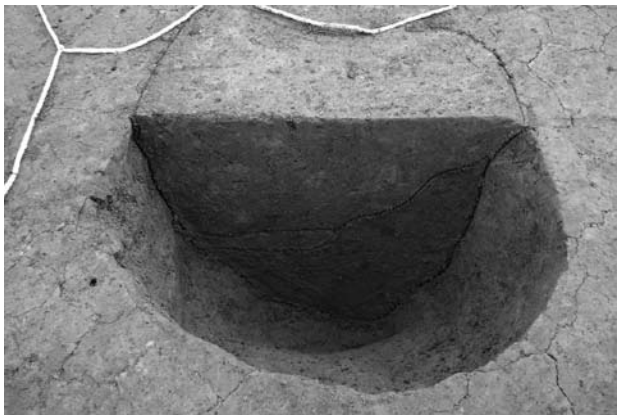
2. ＳＩ１ 貯蔵穴遺物出土状況及び断面(南西から)

3. ＳＩ１ 床下土坑断面（北北西から）

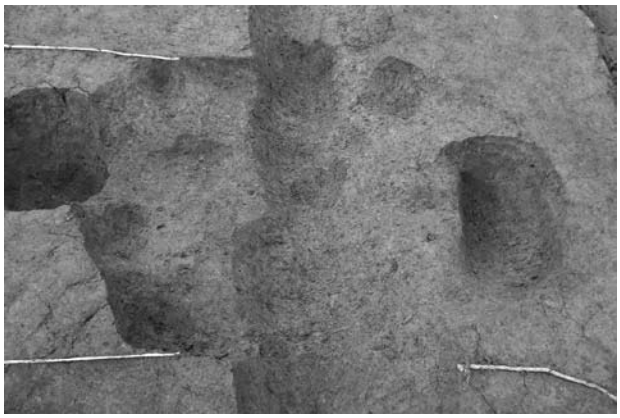
写真図版 8　竪穴住居跡（３）



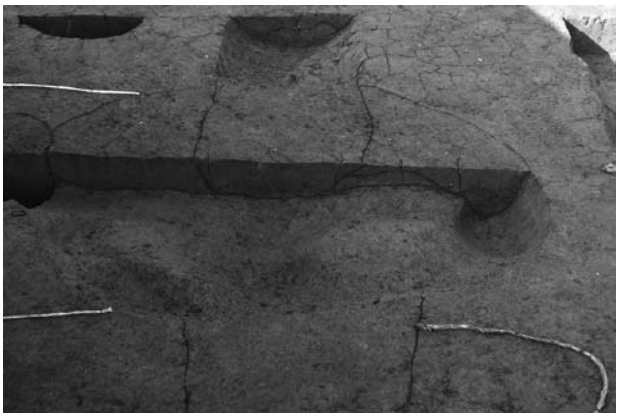
1. ＳＫ 1 完掘全景（西から）



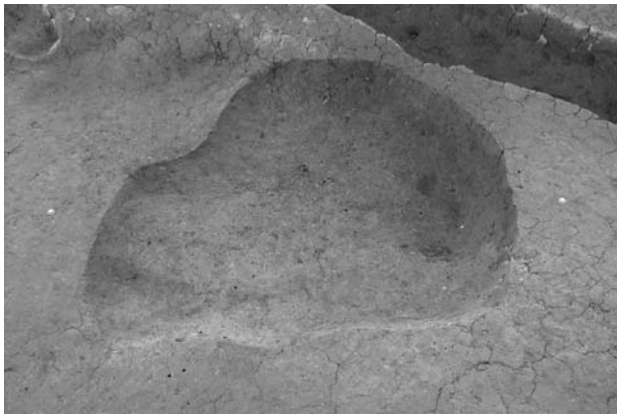
2. ＳＫ 1 断面（北から）



3. ＳＫ 2 完掘全景（南から）

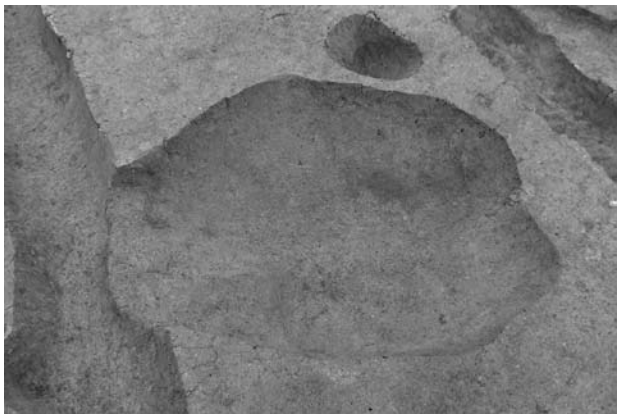


4. ＳＫ 2 断面（南から、左Ｐ 62、中央小溝群３－24）

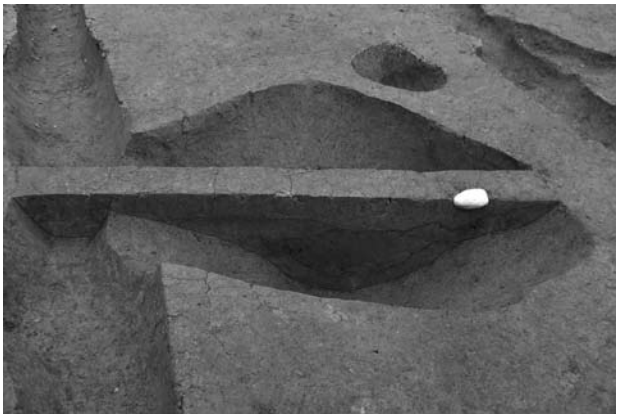


5. ＳＫ 3 完掘全景（東から）

6. ＳＫ 3 断面（東から）



7. ＳＫ 4 完掘全景（南西から）



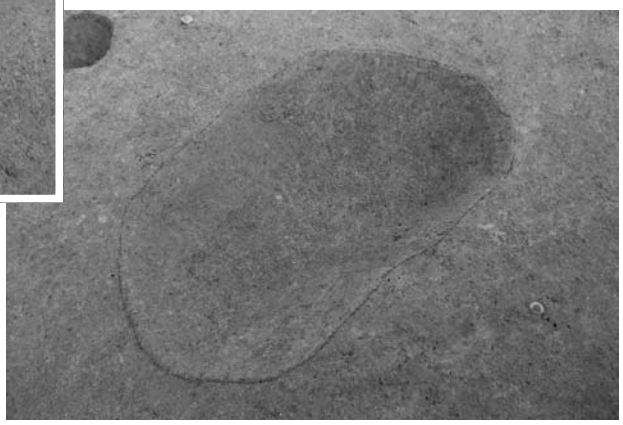
8. ＳＫ 4 断面（南西から）

写真図版 9　土坑（１）

1. ＳＫ 5 全景及び断面（南東から）

2. ＳＫ 6 遺物出土状況及び断面（西から）

3. ＳＫ 6 遺物出土状況及び断面（南西から）



4. ＳＫ 6 完掘全景（南から）

5. ＳＫ 7 断面（西から）

6. ＳＫ 7 遺物出土状況（北西から）

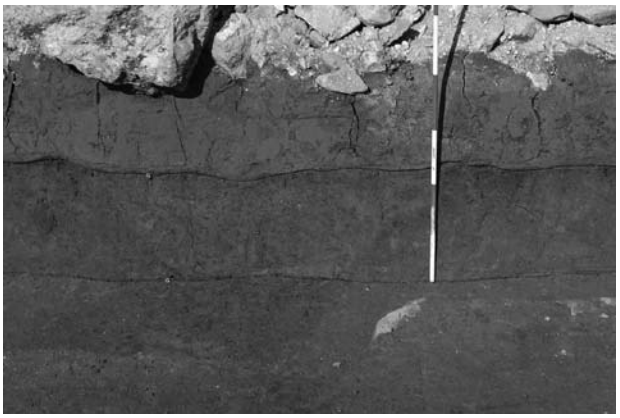
写真図版 10　土坑（２）

1. Ⅲ層範囲検出状況（北から、中央ＳＤ １）

2. ＳＤ １ 完掘全景（西から）

3. ＳＤ １ 断面Ａ－Ａ’（東から）

写真図版 11　Ⅲ層範囲検出状況、溝跡（１）



1．ＳＤ 2 断面（南から）

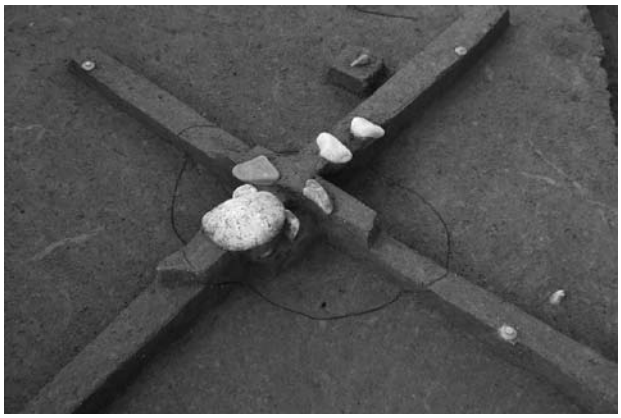
2．壁面 3 小溝状遺構群断面（南西から、左ＳＫ 5）

3．調査区中央東側小溝状遺構群全景（南から）

4．ＳＸ 1 断面及び炭化材出土状況（南東から）

5．ＳＸ 1 完掘全景（南東から）

写真図版 12　溝跡（２）、小溝状遺構群、性格不明遺構（１）



1. ＳＸ 2 掘り込み検出状況（南から）

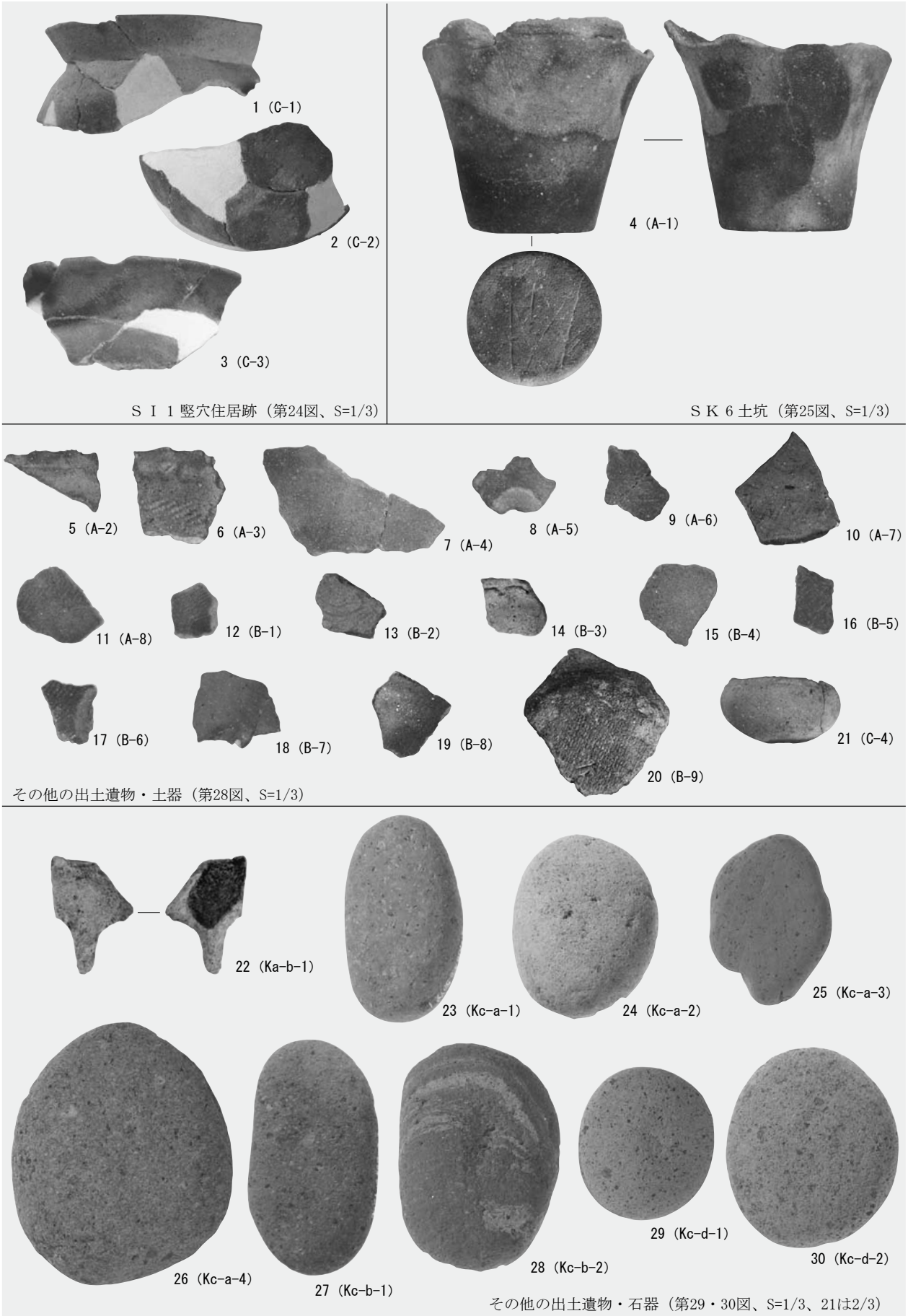
2. ＳＸ 2 遺物出土状況及び断面（西から）

3. 深掘り 1 区全景（南から）

4. 深掘り 2 区南・西壁断面（北東から）

5. 深掘り 4 区北壁断面（南西から）

写真図版 13　性格不明遺構（２）、土層断面


1（C-1）
2（C-2）
3（C-3）
ＳＩ１竪穴住居跡（第24図、S=1/3）
4（A-1）
ＳＫ６土坑（第25図、S=1/3）
5（A-2）
6（A-3）
7（A-4）
8（A-5）
9（A-6）
10（A-7）
11（A-8）
12（B-1）
13（B-2）
14（B-3）
15（B-4）
16（B-5）
17（B-6）
18（B-7）
19（B-8）
20（B-9）
21（C-4）
その他の出土遺物・土器（第28図、S=1/3）
22（Ka-b-1）
23（Kc-a-1）
24（Kc-a-2）
25（Kc-a-3）
26（Kc-a-4）
27（Kc-b-1）
28（Kc-b-2）
29（Kc-d-1）
30（Kc-d-2）
その他の出土遺物・石器（第29・30図、S=1/3、21は2/3）

写真図版 14　出土遺物

報告書抄録

ふ り が な	おおのだこふんぐん
書　　名	大野田古墳群
副 書 名	第18次発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第364集
編 著 者 名	平間亮輔・吉田浩明
編 集 機 関	仙台市教育委員会（文化財課）
所 在 地	〒980-8761　宮城県仙台市青葉区二日町１番１号　　TEL 022-214-8894
発行年月日	2010年3月19日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
大野田古墳群	宮城県仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業地内27街区13・14・15画地（太白区大野田字竹松・宮脇）	04100	仙台市 C-054 宮城県 01361	38° 12′ 44″	140° 52′ 40″	20090701 ～ 20091118	1330㎡	大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大野田古墳群	集落跡 畑跡	縄文時代	土坑　1基	縄文土器	
		古墳時代以降	住居跡　1軒 溝跡　5条 小溝状遺構群　6群167条 土坑　5基 ピット　262個	土師器、須恵器、石器	

要　　約	郡山低地南端部の自然堤防上に立地する。主体となる遺構は古代の小溝状遺構群であり、重複関係や方向性の差異により数段階の変遷が考えられる。この他に古墳時代前期塩釜式期の住居跡１軒が発見されたが、すでに近接調査区で確認されている同時期の住居跡群と同一集落を構成する可能性が高い。この他、土器１個体を伴う縄文時代後期の土坑も発見されている。 遺物は小溝状遺構群を中心に出土した土師器片が主体となり、基本層からは縄文時代後期、弥生時代後期の土器片が少量出土した。

仙台市文化財調査報告書第364集

大　野　田　古　墳　群

－第18次発掘調査報告書－

2010年3月

発　行　仙台市教育委員会

仙台市青葉区二日町１番１号

仙台市教育委員会文化財課

TEL 022-214-8894

印　刷　（有）平電子印刷所

福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地

TEL 0246-23-9051